

講義内容の概要

(シラバス)

2011 (H23) 年度

高 知 短 期 大 学

科目名	法学 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0010	担当教員	小林直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	法の基礎概念や裁判制度について解説するとともに、憲法、刑法、行政法の基本について説明していく。				
授業の進め方	通常の講義形式で行う。				
達成目標	(1)法の基礎概念や裁判制度について理解する。 (2)憲法、刑法、行政法の基本的な内容について理解する。 (3)上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、それらに関する法的問題について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 イン트로ダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第 2回 法とは何か？ 第 3回 裁判制度について 第 4回 近時の司法改革とその問題点 第 5回 憲法学の基礎①(日本国憲法の平和主義の可能性とその問題点について) 第 6回 憲法学の基礎②(人権保障について) 第 7回 憲法学の基礎③(国の統治機構について) 第 8回 刑法学の基礎①(罪刑法定主義について) 第 9回 刑法学の基礎②(犯罪について) 第10回 刑法学の基礎③(刑罰について) 第11回 行政法学の基礎①(法治主義について) 第12回 行政法学の基礎②(行政の組織原理について) 第13回 行政法学の基礎③(行政作用法について) 第14回 行政法学の基礎④(行政救済法について) 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の検討				
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。				
教科書	なし。				
参考書	講義中に適時、あげていきます。				
成績評価方法	期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。				

科目名	法学Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	A0020	担当教員	根岸忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	総論及び公法を扱う法学Ⅰにつづいて、本講義では私法及び社会法に焦点をあてて、われわれの日常生活にどのように法がかかわるかを見ていくこととしたい。				
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。				
達成目標	(1)法とは何かを理解できるようになる。 (2)具体的な場面で法がどのようにかかわっているかを理解できるようになる。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 はじめに、私法及び社会法とはなにか 第 2回 契約とは何か(1)契約の成立 第 3回 契約とは何か(2)契約の種類(1) 第 4回 契約とは何か(3)契約の種類(2) 第 5回 家族と法(1)親族 第 6回 家族と法(2)婚姻、扶養 第 7回 家族と法(3)成年後見制度 第 8回 消費者と法(1) 第 9回 消費者と法(2) 第10回 会社と法(1) 第11回 会社と法(2) 第12回 著作権と法(1) 第13回 著作権と法(2) 第14回 雇用と法 第15回 社会保障と法				
履修上の 注意	本講義は法学科目の基礎となる科目であるので、他の法学科目と履修するにあたっては、すでに本講義を履修しているか、少なくとも本講義と他の法学科目を並行して履修することが望ましい。また、本講義を履修するにあたっては法学Ⅰを事前に履修してほしい。				
教科書	・副田隆重ほか『ライフステージと法 第5版』(有斐閣、平成20年) とくに指定しないが、小型の法令集を毎回持参してほしい。				
参考書	開講時に指示する。				
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(80%)、受講態度(20%)				

科目名	経済学 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0030	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	需要と供給という経済学(ミクロ経済学)の基本理論をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。				
授業の進め方	講義を中心に進める。理解を深めるため、問題演習を数多く行う。				
達成目標	(1) 需要と供給の作用により、市場がどのように機能するのか理解できるようになる。 (2) 市場と厚生について理解できるようになる。 (3) 課税を例として用い、経済政策について理解できるようになる。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第1回 イン트로ダクション(教科書第1章、第2章) 第2回 市場における需要と供給の作用(教科書第4章) 第3回 同上 問題演習 第4回 弾力性とその応用(教科書第5章) 第5回 同上 問題演習(1) 第6回 同上 問題演習(2) 第7回 需要、供給および政府の政策(教科書第6章) 第8回 同上 問題演習 第9回 消費者、生産者、市場の効率性(教科書第7章) 第10回 同上 問題演習 第11回 応用: 課税の費用(教科書第8章) 第12回 同上 問題演習(1) 第13回 同上 問題演習(2) 第14回 外部性(教科書第10章) 第15回 同上 問題演習				
履修上の 注意	積極的に問題演習に取り組むこと。 「経済学 I」と「経済学 II」の両方を受講すればより理解が深まるが、どちらか一方だけでも受講に支障はない。				
教科書	『マンキュー経済学 I ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2005年)4, 200円 購入の必要はない。全21章のうち、主に4~10章を扱う。				
参考書	『入門経済学』スティグリッツ著、東洋経済新報社(2005年)3, 675円 『ミクロ経済学』奥野正寛著、東京大学出版会(2008年)3, 675円など				
成績評価方法	学期末試験(80%)、講義への参加姿勢(20%)で評価する。				

科目名	経済学Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	A0040	担当教員	細居俊明	所属	高知短期大学
連絡先					
授業概要 (テーマ等)	最初に当面する経済危機・長引く不況を取り上げ、経済学の課題をとらえてもらった上で、経済学の基本的な用語としてGDPや経済成長の意味を検討していきます。後半はやや長期の視点から見た日本経済の課題に焦点をあてます。具体的には日本で急速に進行する高齢化・人口減少の問題、ヒト・モノ・カネが簡単に国境を越えるようになってきているグローバル化の問題(特にヒトの移動・外国人労働力問題)を取り上げ、それらが生み出している深刻な問題と新たな発展の可能性について考えていくこととします。				
授業の進め方	講義の形で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。ビデオも積極的に活用します。				
達成目標	(1)経済成長や国内総生産などの基礎的な用語について、その基本的な意味と性格を理解できるようになる。 (2)高齢化・人口減少が生み出す問題とそれに対する備えについて、深い関心をもち、いくつかの基本的な側面を理解できるようになる。 (3)グローバル化が生み出す問題と可能性について、深い関心をもち、特に日本における外国人労働者問題についていくつかの基本的な側面について理解し、考えられるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>概ね次ように講義を進める予定ですが、受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。</p> <p>第1回 オリエンテーションー危機の時代と経済学 第2回 なぜ不況が続くのか？ 第3回 なぜ失業が減らないのか？ 第4回 経済成長と暮らし① 国民の所得とは？ 第5回 経済成長と暮らし② 成長の生む要因は？ 第6回 経済成長と暮らし③ 経済成長と豊かさ 第7回 経済成長と暮らし④ 豊かになるってどういうこと？ 第8回 高齢化・人口減社会① 何が問題か？ 第9回 高齢化・人口減社会② なぜ止められないか？ 第10回 高齢化・人口減社会への備え① 公的年金は頼れるか？ 第11回 高齢化・人口減社会への備え② 貯金は頼りになるか？若者負担軽減になるか？ 第12回 国境を越えるヒト① ヨーロッパの現実 第13回 国境を越えるヒト② 日本の現実 第14回 国境を越えるヒト③ 外国人労働者と日本の将来 第15回 総復習</p> <p>以上の講義を踏まえ、期末試験を実施します。</p>				
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。「経済学Ⅰ」と「経済学Ⅱ」の両方を受講すればより理解が深まりますが、どちらか一方だけでも受講に支障はありません。				
教科書	特に指定しません。				
参考書	講義の中で適宜指示します。				
成績評価方法	試験の成績を基本に(80%)、授業への参加の姿勢(20%)を加味して総合的に評価します。				

科目名	情報処理 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0050	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	パソコンを便利に使い楽しむためには、パソコンをよく知ることが大事です。 この授業ではパソコンについての基本知識やパソコン上で動くアプリケーションソフトについて学習します。 インターネットを使いこなし、Word 2007 で文章を作成します。				
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。				
達成目標	(1)パソコンや周辺機器を使いこなす (2)インターネットを使用するに必要な知識と技術を身につける (3)Wordで基本的な文章を作成できるようになる				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 オリエンテーション パソコンの基礎 第 2回 文字入力とマウスの操作 第 3回 Windowsの操作 第 4回 インターネットを使ってみる 第 5回 Wordの基本 第 6回 書式設定 第 7回 画像の処理(画像処理ソフト) 第 8回 画像の操作 第 9回 ワードアートとテキストボックス 第10回 表の作成 第11回 段落、タブ、箇条書き 第12回 拡張書式、スタイルの設定 第13回 段組、目次の作成 第14回 差し込み印刷 第15回 文章の校閲				
履修上の 注意	自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。				
教科書	プリント配布。				
参考書	Web教材を授業内で使用します。				
成績評価方法	期末の試験(50%)、講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。				

科目名	情報処理Ⅱ	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0060	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	この授業では、Excel 2007 を使用して表計算ソフトの操作方法を学習します。				
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。				
達成目標	(1)表計算ソフト(Excel)の基本操作が出来るようになる (2)計算式、関数を理解する (3)データの処理が出来るようになる				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 オリエンテーション Windowsの操作 第 2回 表計算ソフトの基礎 第 3回 データの入力 第 4回 セルの操作 第 5回 セルの書式 第 6回 ワークシートの操作 第 7回 計算式(絶対番地と相対番地) 第 8回 関数1 第 9回 関数2 第10回 データの処理1(ソート他) 第11回 データの処理2(集計) 第12回 罫線と画像 第13回 図形とワードアート 第14回 グラフ 第15回 マクロとツールボックス				
履修上の 注意	パソコンの基本操作と、文字入力ができる方を対象とします。 自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。				
教科書	プリント配布。				
参考書	Web教材を授業内で使用します。				
成績評価方法	期末の試験(50%)、講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。				

科目名	社会科学基礎演習 (基礎ゼミ)	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	専任教員	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	本演習では、新入生を対象に大学で学習を進めるにあたっての基礎的な力を養うこと、及び社会についての関心を持ち、科学的に社会を見る目を養うことを目的とする。				
授業の進め方	入学生は、全員、専任教員に振り分けられ、各教員により少人数での学習が行われる。教員の指導のもとに、学生自身が報告し、学生同士が意見交換を行うという学生の主体的な参加が大きな比重を占める授業である(「演習形式」という)。				
達成目標	達成目標、授業計画、履修上の注意、成績評価の方法などは、オリエンテーション及び最初の授業の際に担当教員が説明する。				
授業計画 (講義の具体的内容)	開講時に担当教員が説明する。				
履修上の注意	授業へ積極的に参加すること。				
教科書					
参考書					
成績評価方法					

科目名	英語I(初級)A	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0080	担当教員	松吉 明子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	基本的文法事項を学習し、英語を理解し活用できる基礎的な力を身につけることを目的とします。知識を実践に生かせるようにするため、音読や口頭練習を行い、使える英語の習得を目指します。				
授業の進め方	高校時代、英語の自信が持てなかった方、数十年間英語と縁がなかった方に配慮して繰り返し復習することで知識の定着を図っていきます。 質問がしやすいように、質問の時間を設けます。				
達成目標	(1)英語を話す、聞く、読む、書くという4技能に関して基礎力をつける。 (2)さらに英語力を伸ばすことができるような学習方法を身につける。 (3)異文化の理解を深める。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 オリエンテーション 英語で自己紹介 第 2回 be動詞と一般動詞 第 3回 否定文 第 4回 疑問文 第 5回 助動詞 第 6回 これまでの復習 第 7回 第1文型と第2文型 第 8回 第3文型と第4文型 第 9回 進行形 第10回 受動態 第11回 第5文型(知覚、認識) 第12回 第5文型(使役、許可、願望) 第13回 第7回から12回の復習 第14回 前半のまとめ 小テスト 第15回 完了形 第16回 動名詞 第17回 不定詞I 第18回 不定詞II 第19回 分詞 第20回 第15回から19回の復習 第21回 名詞節と副詞節 第22回 分詞構文 第23回 関係代名詞 第24回 関係副詞 第25回 第21回から24回の復習 第26回 比較 I 第27回 比較 II 第28回 仮定法 第29回 後半のまとめ 第30回 総復習				
履修上の注意	英語中辞典、または電子辞書を必ず持ってきてください。 英語の基礎力のある方は、別のクラスを受講してください。				
教科書	『First Voyage: 大学基本英文法&リーディング』 木村啓子 田川 憲二郎 Edward R.Howe 著、南雲堂 (2005年出版)				
参考書	高校の時使用していた英文法の本				
成績評価方法	授業中の発表と課題(40%)試験(60%)から総合的に評価します。				

科目名	英語 I (初級)B		単位数	2	期別	通年
科目コード	B0090		担当教員	岡崎 薫	所属	元高知大学人文学部
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	高校までに学習した英文法の復習と英文読解の演習					
授業の進め方	文法事項の解説と、学生による演習(英文解釈と文法問題)を発表					
達成目標	(1)基本的な英単語、英熟語が理解できる (2)正しい英語の発音ができる (3)英文法の重要事項が理解できる (4)辞書があれば普通の英文が読めるようになること					
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 オリエンテーション (I) 第16回 オリエンテーション (II) 第 2回 動詞について (I) 第17回 動詞について (II) 第 3回 名詞について (I) 第18回 名詞について (II) 第 4回 代名詞について (I) 第19回 代名詞について (II) 第 5回 辞書の使い方 (I) 第20回 辞書の使い方 (II) 第 6回 形容詞について (I) 第21回 形容詞について (II) 第 7回 冠詞について (I) 第22回 冠詞について (II) 第 8回 副詞について (I) 第23回 副詞について (II) 第 9回 前置について (I) 第24回 前置について (II) 第10回 助動詞について (I) 第25回 助動詞について (II) 第11回 接続詞について (I) 第26回 接続詞について (II) 第12回 比較について (I) 第27回 比較について (II) 第13回 時制について (I) 第28回 時制について (II) 第14回 完了形などについて (I) 第29回 完了形などについて (II) 第15回 まとめ (I) 第30回 まとめ (II)					
履修上の 注意						
教科書	「リーディングのための英文法演習」(成美堂)					
参考書						
成績評価方法	試験(65%)授業への参加姿勢(35%)などから総合的に評価する					

科目名	英語Ⅱ(中級)		単位数	2	期別	通年
科目コード	B0100		担当教員	奥村 訓代	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	編入希望者にとっても、 TOIEC受験希望者にとっても、 また初級者から中上級者までが楽しく学べる英語。					
授業の進め方	基本的に一日一課進むので、必ず予習が必要である。 また、毎回10分間の復習クイズから始め、それを出席代りにするので、復習も必要である。					
達成目標	1) 英文の大意が把握できるようになる。 2) 文法に捉われず、日本語らしく訳せるようになる。 3) 英語を聞いて分かるようになる。 4) 英語でコミュニケーションをとることに興味を持つようになる。					
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 オリエンテーション 第 2回 Unit 1 イギリスのカフェで 第 3回 Unit 2 ジョンズ家族滞在 第 4回 Unit 3 コピー機の故障 第 5回 Unit 4 語学学校の電話 第 6回 Unit 5 観光案内所で 第 7回 Unit 6 妻のパート探し 第 8回 Unit 7 新刊料理本 第 9回 Unit 8 仕事の面接 第10回 Unit 9 セミナーの感想 第11回 Unit 10 道路閉鎖 第12回 Unit 11 旅程表 第13回 Unit 12 野菜オーケストラ 第14回 Unit 13 レストラン 第15回 Unit 14 前期復習 第16回 定期購読 第17回 セール広告 第18回 書評 第19回 テニスの若きエース 第20回 求人広告 第21回 追加教材1 第22回 追加教材2 第23回 追加教材3 第24回 追加教材4 第25回 追加教材5 第26回 追加教材6 第27回 追加教材7 第28回 追加教材8 第29回 追加教材9 第30回 後期復習					
履修上の 注意	毎回の予復習が必要である。また、辞書は毎回必携である。					
教科書	前期:『スパイラル英語トレーニング』入江泉著、The Japan Times 後期:プリント授業等					
参考書	『東大講義で学ぶ英語 パーフェクトリーディング』山本史郎著、DHC					
成績評価方法	授業中の態度(積極度、予復習度、発表度) 25% 3分の2以上出席者対象の試験 50% 毎回のクイズ、その他提出物 25%					

科目名	英語Ⅳ(会話中級)	単位数	2	期別	通年																														
科目コード	B0120	担当教員	トーマス・マナー	所属	高知大学非常勤講師																														
連絡先	電話																																		
	E-mail																																		
授業概要 (テーマ等)	中級程度の英会話の修得をめざします。 英語Ⅲ(会話初級)より、少し高い内容を勉強します。																																		
授業の進め方	テキストを中心にヒアリング上達のためにテープ等も使います。 ペアやグループになっての会話の練習や、ゲーム等も取り入れます。 テキストにそって進めていき、その中で、より実践的な英会話状況に応じて使えるよう、指導していきます。 ユニットごとに基本となる文がのっていますので、これを使って会話の練習をしたり、テープの後について言ったり、また聞き取りテスト等もします。2人やグループでの会話を取り入れ、イントネーション・ストレス・発音の指導にも力を入れていきたいと思っています。 イラストの入った楽しいテキストは日常生活の身近な話題ばかりで会話を学ぶ楽しさを実感してもらえます。英語が自然に好きになるような授業をめざしたいと思っています。																																		
達成目標	(1) 英文法を理解する。 (2) 英語で活発な会話ができるようになる。 (3) 英語を正確に聞き取れるようになる。																																		
授業計画 (講義の具体的内容)	<table border="0"> <tr> <td>Lesson 1 Getting to know each other</td> <td>Lesson 16 Talking about Places(1)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 2 Talking about Interests(1)</td> <td>Lesson 17 Talking about Places(2)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 3 Talking about Interests(2)</td> <td>Lesson 18 Travel English Part I: Traveling to Hawaii(1)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 4 Talking about Family</td> <td>Lesson 19 Travel English part I: Traveling to Hawaii(2)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 5 Talking about People(1)</td> <td>Lesson 20 Talking about Japanese Things(1)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 6 Talking about People(2)</td> <td>Lesson 21 Talking about Japanese Things(2)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 7 Talking about Work</td> <td>Lesson 22 Talking about Future Events</td> </tr> <tr> <td>Lesson 8 Talking about Work(2)</td> <td>Lesson 23 Talking about School</td> </tr> <tr> <td>Lesson 9 Talking about Past Experiences</td> <td>Lesson 24 Travel English Part II: Traveling to Thailand(1)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 10 Talking about Sports</td> <td>Lesson 25 Travel English Part II: Traveling to Thailand(2)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 11 Talking about other Countries</td> <td>Lesson 26 Talking about Sickness & Health</td> </tr> <tr> <td>Lesson 12 Talking about Experiences</td> <td>Lesson 27 Talkopoly</td> </tr> <tr> <td>Lesson 13 Review(1)</td> <td>Lesson 28 Review(1)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 14 Review(2)</td> <td>Lesson 29 Review(2)</td> </tr> <tr> <td>Lesson 15 Summary</td> <td>Lesson 30 Summary</td> </tr> </table>					Lesson 1 Getting to know each other	Lesson 16 Talking about Places(1)	Lesson 2 Talking about Interests(1)	Lesson 17 Talking about Places(2)	Lesson 3 Talking about Interests(2)	Lesson 18 Travel English Part I: Traveling to Hawaii(1)	Lesson 4 Talking about Family	Lesson 19 Travel English part I: Traveling to Hawaii(2)	Lesson 5 Talking about People(1)	Lesson 20 Talking about Japanese Things(1)	Lesson 6 Talking about People(2)	Lesson 21 Talking about Japanese Things(2)	Lesson 7 Talking about Work	Lesson 22 Talking about Future Events	Lesson 8 Talking about Work(2)	Lesson 23 Talking about School	Lesson 9 Talking about Past Experiences	Lesson 24 Travel English Part II: Traveling to Thailand(1)	Lesson 10 Talking about Sports	Lesson 25 Travel English Part II: Traveling to Thailand(2)	Lesson 11 Talking about other Countries	Lesson 26 Talking about Sickness & Health	Lesson 12 Talking about Experiences	Lesson 27 Talkopoly	Lesson 13 Review(1)	Lesson 28 Review(1)	Lesson 14 Review(2)	Lesson 29 Review(2)	Lesson 15 Summary	Lesson 30 Summary
Lesson 1 Getting to know each other	Lesson 16 Talking about Places(1)																																		
Lesson 2 Talking about Interests(1)	Lesson 17 Talking about Places(2)																																		
Lesson 3 Talking about Interests(2)	Lesson 18 Travel English Part I: Traveling to Hawaii(1)																																		
Lesson 4 Talking about Family	Lesson 19 Travel English part I: Traveling to Hawaii(2)																																		
Lesson 5 Talking about People(1)	Lesson 20 Talking about Japanese Things(1)																																		
Lesson 6 Talking about People(2)	Lesson 21 Talking about Japanese Things(2)																																		
Lesson 7 Talking about Work	Lesson 22 Talking about Future Events																																		
Lesson 8 Talking about Work(2)	Lesson 23 Talking about School																																		
Lesson 9 Talking about Past Experiences	Lesson 24 Travel English Part II: Traveling to Thailand(1)																																		
Lesson 10 Talking about Sports	Lesson 25 Travel English Part II: Traveling to Thailand(2)																																		
Lesson 11 Talking about other Countries	Lesson 26 Talking about Sickness & Health																																		
Lesson 12 Talking about Experiences	Lesson 27 Talkopoly																																		
Lesson 13 Review(1)	Lesson 28 Review(1)																																		
Lesson 14 Review(2)	Lesson 29 Review(2)																																		
Lesson 15 Summary	Lesson 30 Summary																																		
履修上の注意	Prepare 30 minutes before each class. Please do not use KEITAI in class except for emergency. Office hours: before class in the classroom 英語Ⅲ(会話初級)から、少し進んだ内容で進めていきますので、簡単な英語なら話せる方や、さらに自分の会話力を伸ばしたい方に適しています。																																		
教科書	『Talk a Lot Book 1』David Martin著(EFL Press)																																		
参考書																																			
成績評価方法	授業態度 60% Mid-term test 20% Final test 20% 等で総合的に評価します。																																		

科目名	ドイツ語	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0130	担当教員	小島 一良	所属	元高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	ドイツ語の初歩的文法を学習することによって、ドイツ語文章を正確に読み、理解する基礎的能力を養成する。文章を発音できなければ意味がありませんので発音練習には力を注ぎます。				
授業の進め方	授業は担当者と受講者の共同作業で成り立ちます。受講者が積極的に授業に参加できるように、一人一人に問題を解答してもらいます。				
達成目標	(1) 正確なドイツ語の発音ができるようになる。 (2) ドイツ語の辞書を正しく引くことができるようになる。 (3) ドイツ語の文章を正確に理解することができる。 (4) より高度な文章への橋渡しとなる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	前期の計画 第1回 オリエンテーション 第2回 発音練習 (アルファベット) 第3回 発音練習 (アルファベット、母音) 第4回 発音練習 (母音、子音) 第5回 発音練習、動詞の現在人称変化(1) 第6回 発音練習、動詞の現在人称変化(2) 第7回 発音練習、名詞と格の変化 第8回 名詞の複数形(1) 第9回 名詞の複数形(2) 第10回 前置詞(1) 第11回 前置詞(2) 第12回 形容詞の格変化、形容詞の比較級、最高級(1) 第13回 形容詞の格変化、形容詞の比較級、最高級(2) 第14回 動詞の3基本形 第15回 まとめ 後期の計画 第16回 過去形の人称変化 第17回 話法の助動詞(1) 第18回 話法の助動詞(2) 第19回 完了形(現在完了形、過去完了形)(1) 第20回 完了形(現在完了形、過去完了形)(2) 第21回 複合動詞(分離動詞) 第22回 複合動詞(非分離動詞) 第23回 再帰動詞(1) 第24回 再帰動詞(2) 第25回 受動形(1) 第26回 受動形(2) 第27回 定関係代名詞 第28回 不定関係代名詞 第29回 接続法(1) 第30回 接続法(2)				
履修上の注意	とにかく声をだしてドイツ語にふれることが大切です。復習は必ず行ってください。一課終わるごとに練習問題がありますが、これは習得した知識の再確認ですから必ず解答してください。語学の学習には繰り返すことが大切です。				
教科書	「基礎ドイツ文法―第二版」 小島一良・瀬戸武彦 白水社				
参考書	辞書、参考書は第1回のオリエンテーションで紹介します。				
成績評価方法	授業への積極的な取り組み(15%)と試験(85%)を考慮に入れて総合的に判断します。				

科目名	フランス語 I (初級)	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0140	担当教員	山本明日香	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	初めてフランス語を学ぶ人を対象に、最初歩からのフランス語会話と文法を学びます。				
授業の進め方	前週のおさらい／教科書、CD、DVDを使つての講義／ペアを組んで会話や発音の練習／プリントを使って復習や応用練習(宿題があります)				
達成目標	(1)正しい動詞の活用や、名詞の性数、それにあった正しい冠詞などを選ぶ事が出来る。(文法の修得) (2)簡単な文章を作る事が出来る。読む事が出来る。(応用) (3)会話を指示に従って作り、簡単なやりとりが出来る。聞き取って内容を把握出来る。(コミュニケーション)				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 フランス語の音／アルファベット／挨拶 第3～5回 自己紹介／国籍／好きなものを言う 第6～8回 疑問文「これは何ですか?」「どこですか?」／否定文／量の表現／ 第9～15回 年歳を言う／数字(0～30)／食べ物について言う／今までの復習／フランスの歌／ 第16～20回 家族について言う／比べる(比較級) 第21～25回 買い物をする／命令する／曜日や月を言う／ 第26～30回 天候について言う／時間について言う／(過去・未来の出来事を述べる)				
履修上の注意					
教科書	パリのクール・ジャパン 朝日出版社				
参考書	仏和辞書;オリエンテーションで説明します。				
成績評価方法	後期に学年末試験を行います。ただし、前期、後期ともに小テスト(筆記、書き取り、会話)を行います。授業への積極的な参加が求められます。3分の1以上の欠席は認められません。学期末試験80%／小テスト、提出物、授業の参加態度20%等から総合的に評価します。				

科目名	フランス語Ⅱ(中級)	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0141	担当教員	山本明日香	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	「フランス語Ⅰ(初級)」を履修した方、フランス語の基礎を学んだ経験のある方を対象により広く、深く学びます。				
授業の進め方	前週のおさらい／教科書、CDを使つての講義／ペアもしくはグループでの会話や発音の練習／プリントを使つて復習や応用練習(宿題があります)／聞き取りを定期的に行います。				
達成目標	(1)「フランス語Ⅰ(初級)」で学んだ基本の動詞の復習と、現在、未来、過去の時制を使えるようになる。 (2)簡単な文章から、より表現を広げるために、代名詞、関係代名詞、現在分詞、接続詞などを学ぶ。 (3)少し長い文章を、辞書を使つて読む事が出来るようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 フランス語の音／挨拶／自己紹介／動詞の復習 第3～5回 複合過去／否定文／代名動詞／会話(空港でのやりとり) 第6～8回 中性代名詞／指示代名詞／会話(ホテルでのやりとり) 第9～12回 単純未来／前未来／会話(道を尋ねる) 第13～15回 －前期の総復習－ 第16～19回 半過去／大過去／会話(病院と薬局) 第20～23回 現在分詞／過去分詞／会話(駅でのやりとり) 第24～27回 関係代名詞／強調構文／接続詞／会話(郵便局。銀行／市場でのやりとり) 第28～30回 －後期の総復習－				
履修上の注意	「フランス語Ⅰ(初級)」を履修した方、フランス語の基礎を学んだ経験のある方を対象にしています。				
教科書	『カジュアルにフランス語2』 朝日出版社				
参考書	仏和辞書				
成績評価方法	後期に学年末試験を行います。ただし、前期、後期ともに小テスト(筆記、書き取り、会話)を行います。授業への積極的な参加が求められます。3分の1以上の欠席は認められません。学期末試験80％／小テスト、提出物、授業の参加態度20％等から総合的に評価します。				

科目名	中国語 I (初級)	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0150	担当教員	玉置啓子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	中国語は日本人にとって漢字という親しみやすさが有りますが、発音は全く違います。この授業では全回に渡って発音練習をし、正確な発音を習得するようにします。更に簡単な文章を口頭練習し、聞き取れ、表現できるようにします。中国は日本と長い歴史的交流があり、現在も今後も深いつながりを持つ国です。言葉の習得はその国を理解する上で大きな手助けとなるでしょう。				
授業の進め方	演習 口頭練習を重視				
達成目標	(1)中国語のローマ字による発音表記(ピンイン)を習得する。 (2)基本単語を覚え、それを使って短文を作る。聞き取り練習によって、簡単な文が聞き取れるようにする。 (3)簡単な会話ができるようになる。辞書を使って単語の意味や、簡単な文が理解できるようにする。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 オリエンテーション 第 2回 発音練習 第 3回 発音練習 あいさつ 第 4回 発音練習 第1課 人称代名詞、動詞述語文 第 5回 発音練習 " 練習 第 6回 発音練習 第2課 名前のききかた、“是”の文(1) 第 7回 発音練習 " " (2) 第 8回 発音練習 " 練習 第 9回 発音練習 第3課 所有を表す動詞 第10回 発音練習 " 数詞 練習 第11回 発音練習 第4課 形容詞述語文 第12回 発音練習 " 疑問詞 練習 第13回 発音練習 第5課 日付、曜日、時刻 第14回 発音練習 " 比較、 練習 第15回 復習 第16回 発音練習 第6課 存在を表す動詞“在” 第17回 発音練習 " 反復疑問文 第18回 発音練習 " 練習 第7課 存在を表す動詞“有” 第19回 発音練習 第7課 前置詞 練習 第20回 発音練習 第8課 完了を表す“了” 第21回 発音練習 " 前置詞 第22回 発音練習 " 練習 復習 第23回 発音練習 第9課 助動詞(1) 第24回 発音練習 " 助動詞(2)程度を表す表現(1) 第25回 発音練習 " 練習 第26回 発音練習 第10課 過去の経験を表す文 第27回 発音練習 " " (2)選択疑問文 第28回 発音練習 " 練習 第29回 復習とまとめ(1) 第30回 " (2)				
履修上の注意	休まずに受講すること。授業中は積極的に発音、口頭練習をすること。				
教科書	『始めよう！中国語』 白水社				
参考書	中日辞典				
成績評価方法	中間試験、期末試験を行う。中間試験(30%) 期末試験(40%)、授業中の発表、課題の提出(30%)等を併せて総合的に評価する				

科目名	中国語Ⅱ(中級)		単位数	2	期別	通年
科目コード	B0160		担当教員	玉置啓子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	初級の基礎の上に、単語を増やし、応用文、少し複雑な構文を学び、実際に使える表現を繰り返し練習してマスターする。中国文化を紹介する教材も適宜取り入れる。					
授業の進め方	演習。 各課の会話を繰り返し練習し、短文の応用文を作る。聞き取り練習をする。					
達成目標	(1)正しい発音ができる。発音表記(ピンイン)が読め、書ける。 (2)簡単な文が聞き取れ、作文ができ、会話ができる。 (3)短い文や物語が辞書を引いて読解できる。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 発音の復習 第1課(1)～ができる(我会做点心) 第3回 発音の復習 " (2)ちょっと～する 第4回 発音の復習 " (3)練習 第5回 文法の復習 第2課(1)完了を表す文(我昨天预定了) 第6回 文法の復習 " (2)練習 第7回 第3課(1)誰々に～する(老师教我做中国菜) 第8回 " (2)練習 第9回 第4課(1)～してもよい(这儿可以照相吗?) 第10回 " (2)練習 第11回 第5課 第1～第4課の復習とまとめ 第12回 第6課(1)動作の継続(你在做什么?) 第13回 " (2)練習 第14回 第7課(1)状態の持続(他背着包) 第15回 " (2)練習 第16回 第8課(1)過去の経験(你看过京剧吗?) 第17回 " (2)～でもあり、～でもある 練習 第18回 第9課(1)結果を表す言葉(我看懂了) 第19回 " (2)練習 第20回 第10課 第6～第9課の復習とまとめ 第21回 第11課(1)少し～だ、～ではないか(你是不是感冒了?) 第22回 " (2)練習 第23回 第12課(1)命令文、方向を表す言葉(我们从那儿出去) 第24回 " (2)練習 第25回 第13課(1)比較の文(这个更好看) 第26回 " (2)練習 第27回 第14課(1)程度、状態を表す文(你乒乓球打得很好) 第28回 " (2)練習 第29回 第15課 第11～第14課の復習とまとめ					
履修上の注意	授業は休まずに出席すること。 積極的に口頭練習に参加すること。 辞書をよく使いこなすこと。					
教科書	『中国語新天地2』 朝日出版社					
参考書	中日辞典 日中辞典					
成績評価方法	中間試験、期末試験を行う。授業中の発表と課題の提出(30%)中間試験(30%)期末試験(40%)などから総合的に評価する					

科目名	韓国語 I (初級)		単位数	2	期別	通年
科目コード	B0170		担当教員	徐 恩卿	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	ハングルの読み書きと基本的な韓国語の文章が理解出来、簡単な挨拶や会話を身に付ける。					
授業の進め方	テキストをもとに講義をする。 最初はハングルの文字と発音を十分身に付ける為に、読み書きの練習をし、文法と表現の学習を段階的に学べるようにする。中間テストと期末試験を行う。					
達成目標	(1) ハングル文字と日常生活に良く出てくる単語を覚える。 (2) 初めて習う人が1年で簡単な文章が作れるようになる。 (3) 挨拶を中心に簡単な日常会話ができるようになる。 ※ 予習復習を熱心にし、巻末の用言活用表で不規則用言の変化まで覚えると、ハングル能力検定試験4級に相当する力がつく。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 オリエンテーション 第 2回 ハングルについて 第 3回 挨拶表現(1)母音(1) 第 4回 挨拶表現(2)と子音(1)・母音(2) 第 5回 挨拶表現(3)と子音(2)・母音(3) 第 6回 挨拶表現(4)と終声 第 7回 挨拶表現(4)と発声 第 8回 指定詞 第 9回 指定詞の否定形 第10回 改まりの上称形 第11回 漢数詞と助数詞 第12回 固有数詞と助数詞 第13回 韓国の日常生活と会話 第14回 復習の為の会話練習 第15回 授業前半のまとめと復習 第16回 親しさの上称形(1) 第17回 親しさの上称形(2) 第18回 方向位置名詞 第19回 過去時制 第20回 否定形と不可能形 第21回 尊敬表現 第22回 動作の継続と希求表現 第23回 婉曲と根拠の表現 第24回 連体形 第25回 意志・相談・可能形 第26回 用言活用、助詞の整理、文法形式 第27回 韓国の風習と言語について 第28回 復習の為の会話練習 第29回 授業後半のまとめと復習 第30回 総まとめと質疑応答 ※韓国文化の理解と韓国語の実践研修のために、韓国の大学との交流が出来るように計画します。					
履修上の注意	欠席しないこと。特にハングルが読めるまでは、欠席しない事が大切です。					
教科書	「楽しく学ぶハングル1」浜之上幸 監修 姜英淑・印省熙・黄善英・林史樹・呉順瑛・朴校熙・雁昌玉 著 白帝社					
参考書	韓日辞書、日韓辞書					
成績評価方法	中間テスト 50%、期末試験50%					

科目名	韓国語Ⅱ(中級)		単位数	2	期別	通年
科目コード	B0180		担当教員	徐 恩卿	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	韓国語の基本的な文章の理解と韓国語での表現力を高めることに重点をおいて学習する。					
授業の進め方	テキストをもとに講義をする。 単語と文法を覚え、文章を理解し表現できるようにした上で、文法的表現をできる限り多く学べるようにし、表現力を向上させることとする。 中間テストと期末試験を行う。					
達成目標	(1) 日常会話力がレベルアップする。 (2) 一般的に良く使われるハングル文字や文章の読み書きが出来るようになる。 ※予習復習を熱心にし、テキストを完全にマスターして、付録や読解編の文法事項まで覚えると、韓国での生活に支障をきたさないレベルの語学力、ハングル能力検定試験3級に相当する力がつく。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 オリエンテーション 第 2回 韓国語初級からの確認事項 第 3回 過去時制と未来連体形 第 4回 相談・提案の表現 第 5回 否定表現と不可能表現 第 6回 現在連体形とO活用用言 第 7回 変格用言(1)と原因・理由(1)の表現 第 8回 変格用言(2)と意向の表現 第 9回 過去連体形と経験の表現 第10回 変格用言(3)と連用形を用いた表現 第11回 変格用言(4)と文中の疑問形 第12回 変格用言(5)と継続の表現(1) 第13回 韓国の伝統と文化と言語について 第14回 復習の為の会話練習 第15回 授業前半のまとめと復習 第16回 尊敬の丁寧な命令、勧誘、簡単な表現 第17回 同意・確認と希求・願望の表現 第18回 許可と義務の表現 第19回 意志・推量と意図の表現 第20回 用言の名詞形を用いた表現 第21回 目的の表現と副詞形 第22回 ハンタ体と伝聞の表現 第23回 原因・理由・(2)と動作や対象の変化の表現 第24回 ぞんざいしない方と禁止の表現 第25回 継続の表現(2) 第26回 自分の力で読んでみよう(読解編) 第27回 補充文法、発音変化の整理、 漢数詞と固有数詞、文法形式 第28回 復習の為の会話練習 第29回 授業後半のまとめと復習 第30回 総まとめと質疑応答 ※韓国文化の理解と韓国語の実践研修のために、韓国の大学との交流ができるよう計画します。					
履修上の注意	◆ 韓国語Ⅰ(初級)を受講していることが望ましい。 ◆ 予習・復習をする事、欠席しないように。					
教科書	「楽しく学ぶハングル2」浜之上幸 監修 姜英淑・印省熙・黄善英・林史樹・呉順瑛・朴校熙・雁昌玉 著 白帝社					
参考書	韓日辞書 日韓辞書					
成績評価方法	中間テスト50%、期末試験50%					

科目名	保健体育	単位数	2	期別	後期
科目コード	C0190	担当教員	本間聖康	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	生活と健康(特に運動と健康) ライフスタイルの変化により、日常生活における身体活動は大幅に軽減された。 ここでは、主に運動(身体活動)と健康の関係についてみていく。				
授業の進め方	講義形式、ビデオ利用				
達成目標	(1)運動(身体活動)と健康の関係について理解し、生活に生かすことができる。 (2)健康管理のために、メディカルチェックが重要であることが理解できる。 (3)健康の保持・増進のために運動(身体活動)を実施する際の注意点が理解できる。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 人間と運動 第 2回 運動不足の実態 第 3回 ベッド・レスト・スタディ 第 4回 運動と心臓疾患の予防 第 5回 運動と心臓 第 6回 運動と血圧 第 7回 肥満と血中脂質に及ぼす影響 第 8回 体力に及ぼす効果 第 9回 喫煙と運動 第10回 運動と寿命 第11回 自覚的効果 第12回 運動の功罪 第13回 運動処方とは 第14回 運動処方の手順 第15回 運動処方の内容				
履修上の 注意	特になし				
教科書	なし				
参考書	池上晴夫 『新版 運動処方』(朝倉書店) 同『スポーツ医学 I』(朝倉書店)				
成績評価方法	筆記テスト(100%)				

科目名	体育実技A	単位数	2	期別	通年																																
科目コード	C0200	担当教員	神家 一成	所属	高知大学教育学部																																
連絡先	電話																																				
	E-mail																																				
授業概要 (テーマ等)	仲間と共にスポーツのもつ本来の楽しさに触れることにより、生涯を通じて主体的にスポーツに親しむために必要な資質や能力を形成していくことを目的とする。																																				
授業の進め方	全期間を4つの単元に区分し、数種のスポーツ実技を行う。基本技術の習得とゲームの実践を中心として行う。																																				
達成目標	(1) 各スポーツにおける基礎的技術を習得する。 (2) ルールを理解し、ゲームに参加してプレーすることができる。 (3) 審判の役についてゲームを進行することができる。																																				
授業計画 (講義の具体的内容)	<table border="0"> <tr> <td>第1回 オリエンテーション</td> <td>テニス</td> </tr> <tr> <td>バドミントン</td> <td>第16回 用具に慣れる</td> </tr> <tr> <td>第2回 用具に慣れる</td> <td>第17回 フォアハンドグラウンドストローク</td> </tr> <tr> <td>第3回 簡易ゲーム</td> <td>第18回 フォアハンドグラウンドストローク</td> </tr> <tr> <td>第4回 ストローク練習、ダブルスゲーム</td> <td>第19回 バックハンドグラウンドストローク</td> </tr> <tr> <td>第5回 ストローク練習、ダブルスゲーム</td> <td>第20回 バックハンドグラウンドストローク</td> </tr> <tr> <td>第6回 フライツ練習、シングルスゲーム</td> <td>第21回 サーブ、ボレーストローク</td> </tr> <tr> <td>第7回 フライツ練習、シングルスゲーム</td> <td>第22回 ゲーム</td> </tr> <tr> <td>第8回 総括ゲーム</td> <td>第23回 ゲーム</td> </tr> <tr> <td>ソフトバレーボール</td> <td>卓球</td> </tr> <tr> <td>第9回 ボールに慣れる</td> <td>第24回 用具に慣れる</td> </tr> <tr> <td>第10回 パス練習、簡易ゲーム</td> <td>第25回 フォアハンドストローク</td> </tr> <tr> <td>第11回 パス練習、簡易ゲーム</td> <td>第26回 バックハンドストローク</td> </tr> <tr> <td>第12回 サーブ練習、ゲーム</td> <td>第27回 シングルスゲーム</td> </tr> <tr> <td>第13回 集団技能練習、ゲーム</td> <td>第28回 ダブルスゲーム</td> </tr> <tr> <td>第15回 総括ゲーム</td> <td>第30回 ダブルスゲーム</td> </tr> </table>					第1回 オリエンテーション	テニス	バドミントン	第16回 用具に慣れる	第2回 用具に慣れる	第17回 フォアハンドグラウンドストローク	第3回 簡易ゲーム	第18回 フォアハンドグラウンドストローク	第4回 ストローク練習、ダブルスゲーム	第19回 バックハンドグラウンドストローク	第5回 ストローク練習、ダブルスゲーム	第20回 バックハンドグラウンドストローク	第6回 フライツ練習、シングルスゲーム	第21回 サーブ、ボレーストローク	第7回 フライツ練習、シングルスゲーム	第22回 ゲーム	第8回 総括ゲーム	第23回 ゲーム	ソフトバレーボール	卓球	第9回 ボールに慣れる	第24回 用具に慣れる	第10回 パス練習、簡易ゲーム	第25回 フォアハンドストローク	第11回 パス練習、簡易ゲーム	第26回 バックハンドストローク	第12回 サーブ練習、ゲーム	第27回 シングルスゲーム	第13回 集団技能練習、ゲーム	第28回 ダブルスゲーム	第15回 総括ゲーム	第30回 ダブルスゲーム
第1回 オリエンテーション	テニス																																				
バドミントン	第16回 用具に慣れる																																				
第2回 用具に慣れる	第17回 フォアハンドグラウンドストローク																																				
第3回 簡易ゲーム	第18回 フォアハンドグラウンドストローク																																				
第4回 ストローク練習、ダブルスゲーム	第19回 バックハンドグラウンドストローク																																				
第5回 ストローク練習、ダブルスゲーム	第20回 バックハンドグラウンドストローク																																				
第6回 フライツ練習、シングルスゲーム	第21回 サーブ、ボレーストローク																																				
第7回 フライツ練習、シングルスゲーム	第22回 ゲーム																																				
第8回 総括ゲーム	第23回 ゲーム																																				
ソフトバレーボール	卓球																																				
第9回 ボールに慣れる	第24回 用具に慣れる																																				
第10回 パス練習、簡易ゲーム	第25回 フォアハンドストローク																																				
第11回 パス練習、簡易ゲーム	第26回 バックハンドストローク																																				
第12回 サーブ練習、ゲーム	第27回 シングルスゲーム																																				
第13回 集団技能練習、ゲーム	第28回 ダブルスゲーム																																				
第15回 総括ゲーム	第30回 ダブルスゲーム																																				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育実技にふさわしい服装(ウェア、シューズ)で参加すること。 ・ ルール、マナーを守り、フェアプレーを心がけること。 ・ 仲間と協力して行うことを心がけること。 																																				
教科書	不 要																																				
参考書																																					
成績評価方法	授業への参加状況(40%)、受講態度(40%)、レポート(20%)を総合的に評価する。																																				

科目名	体育実技B	単位数	2	期別	通年
科目コード	C0210	担当教員	稲田俊治	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>いろいろなスポーツを行いながら、楽しみや生きがいとして、また健康やコミュニケーションにとっても大きな働きをもっているスポーツについて考え、主体的に実践できる知識、技能、態度を習得する。</p>				
授業の進め方	<p>全体を5期に区分し、Ⅰ～Ⅳ期は全員が同じ種目を行ない、個人差を認め合いながらもプレイを楽しむためのゲーム力や基本技能を高めるようにする。Ⅴ期は各自がいくつかの種目から行ないたいものを選択し、他者と協力してゲームを楽しむようにする。</p>				
達成目標	<p>(1)各種目について、ルールを理解し、技能を習得する。 (2)受講者間でのコミュニケーションや教え合いができる。 (3)技能レベル等の差を認めながらも、みんながゲームを楽しむことができる。</p>				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 オリエンテーション 第2回～第7回 ソフトバレーボール 毎回、説明～基礎練習～ゲームというパターンで実施しながら、ソフトバレーボールのルール、基礎技術、具体的な練習方法、ゲームの行い方、お互いが楽しむための態度や工夫について学習する。</p> <p>第8回～第13回 バドミントン ダブルスを中心に学習する。ソフトバレーボールと同様に、説明～基礎練習～ゲームというパターンで実施する。</p> <p>第14回～第18回 卓球 ダブルスとシングルスを行なう。説明～基礎練習～ゲームというパターンで実施する。</p> <p>第19回～第23回 テニス ダブルスを中心に学習する。基礎練習に重点を置き、ストロークのラリー、サーブとレシーブのラリー、ストロークとボレーのラリーが続くようにする。</p> <p>第24回～第29回 ソフトバレーボール、バドミントン、卓球、テニスの中から行いたい種目を他者と協力して楽しむ。人数、施設等を考慮して調整する。</p> <p>第30回 授業のまとめ</p>				
履修上の注意					
教科書	特になし				
参考書	特になし				
成績評価方法	受講態度(80%)、レポート(20%)などにより総合的に評価する。				

科目名	哲学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0220	担当教員	原崎道彦	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>生命をテーマとする哲学の授業です。生命科学の発展には著しいものがありますが、この授業では、生命科学がもたらしてくれたさまざまなデータをもとに、生きているということについて、あらためて考えてみます。生きているということは、私たちにとってあまりにも当たり前のことだし、それがどんなことか分からないという人はいないでしょうが、しかし、さまざまなデータをもとにあらためて考え直してみると、考えれば考えるほど、ますます曖昧になってゆきます。生きているという事実の深さに驚きながら、生きるということをめぐる哲学的な思索を深めてもらうことがこの授業の目的です。</p>				
授業の進め方	<p>講義形式の授業です。毎回、授業への質問・疑問・意見・感想を「一言カード」(匿名)でだしてもらいます。次の授業は、そのカードへの返答から始まります。</p>				
達成目標	<p>(1) 哲学という学問のスタイルを身につける。 (2) 生命について哲学的に考えるための基礎的な知識を身につける。 (3) 生きるということについて自分の考えを哲学的に述べるができるようになる。</p>				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第 1回 授業スケジュールと成績評価にかんするガイダンス 第 2回 哲学とはどんな学問なのか？ 第 3回 生命をどう定義するか？ 生命はなぜ代謝をおこなうのか？ 第 4回 なぜ生殖をおこなわない生き物がいないのか？ 第 5回 なぜ生き物は進化するのか？ 第 6回 進化論が意味すること 第 7回 性と死をめぐる謎(その1) 第 8回 性と死をめぐる謎(その2) 第 9回 性と死の形而上学 第10回 多細胞共生体としての私 第11回 生命における変わらざるもの 第12回 生き物における「未来」の誕生 第13回 ココロの底知れない広がり 第14回 自由意志は存在するか？ 第15回 まとめー生きることの無根拠性について</p>				
履修上の注意	<p>とくにありません。</p>				
教科書	<p>毎回、教科書代わりにレジメと資料を配ります。</p>				
参考書	<p>授業で紹介します。</p>				
成績評価方法	<p>学期末の論述筆記試験(100%)。試験予想問題は「授業のなかからテーマを選び、そのテーマについて考えたことを、授業を参考にしながら述べて下さい」です。評価基準は「どれだけ授業の内容にこみながら、どれだけ自分の考えをしっかりと述べているか」です。試験の答案を準備するつもりで授業をきいてください。</p>				

科目名	文学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0230	担当教員	芋生裕信	所属	高知県立大学 文化学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	小川国夫の第二作品集『生のさ中に』所収の短編を読む。ここには、共通の主人公が幼少年期から青年期へと成長していく過程が、他者とのさまざまなかかわりを通して描かれている。その過程には、コンプレックスや自虐的行為、自我の崩壊と再構築など、生の節目節目がみずみずしく描かれていて、私たちにとって、他者とのかかわりという倫理の原点について深く考えさせるものがある。研ぎ澄まされた硬質な文体を味わいつつ、「読む」能力を高める。				
授業の進め方	一方的な講義にならないように、できるだけ受講者の発言を求めながら、また受講者同士の意見交換を交えながら進める。				
達成目標	(1) 小説を読み味わう能力を養う。 (2) 小説から読み取ったことを口頭で発表する能力を養う。 (3) 小説から読み取ったことを文章にする能力を養う。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 オリエンテーション 第 2回 「物と心」 第 3回 「里にしあれば」 第 4回 「物と心」と「里にしあれば」の比較 第 5回 「役者たち」(1)第1場面 第 6回 「役者たち」(2)第2場面 第 7回 「相良油田」(1)第1場面 第 8回 「相良油田」(2)第2場面 第 9回 「役者たち」と「相良油田」の比較 第10回 「コートにて」 第11回 「高砂族」 第12回 「三月」(1)第1場面 第13回 「三月」(2)第2場面 第14回 「コートにて」「高砂族」「三月」を総合して読む 第15回 まとめ				
履修上の注意	投げかける小さな課題(小レポート)に熱心に取り組んでください。				
教科書	資料を配布				
参考書	随時紹介				
成績評価方法	授業への積極的な取り組み(小レポート、30%)と期末レポート(70%)を総合して評価する。				

科目名	芸術文化論		単位数	2	期別	後期
科目コード	D0240		担当教員	味元昭次	所属	蝶俳句会・現代俳句協会
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	世界の中での日本文化・芸術ということを念頭に置き、その特徴的詩形式である俳句を見ることで、文化的環境・歴史・人間模様を、他ジャンルとも比較しつつ探る。					
授業の進め方	基本テーマを意識しつつ、古典から現在只今のごくごく身近な俳句作品を紹介し、学生にも希望者には実作してもらい、それらを通して芸術文化に共通する表現を見てゆく。他ジャンルでは現代詩や映画のビデオなども使う。					
達成目標	(1) 芸術文化とは何かという基本認識を理解できるようになる (2) 日本文化の独自性と特徴を認識できるようになる (3) 俳句形式という最短詩の持っている特殊性と普遍性を日本文化の誇りとして把握できるようになる (4) 現代に生きている詩形式としての俳句作品のいくつかを感受できるようになる (5) 時代と俳句との関わりなども具体的作品を見て考えることができるようになる					
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 芸術文化の基本認識 第 2回 ことば 第 3回 俳句の特殊性と普遍性 第 4回 比喻 第 5回 余情・余韻 第 6回 見る・見立て 第 7回 季語のとはなにか 第 8回 切れ・間 第 9回 座・間・句会 第10回 表現の共通性(映画や現代詩の上映や朗読) 第11回 時代と俳句 第12回 現在に生きている俳句表現の状況 第13回 暮らしの中にある芸術・あるいは表現 第14回 虚と実 第15回 花ということ 以上は厳密な順ではない。学生の希望等によって臨機応変に組み立てる。ビデオ観賞や朗読をすることがある。学生の質問・意見を歓迎する。					
履修上の注意	どんな意見・質問も恥ずかしくなく言うこと					
教科書	なし・そのつど資料を作成して配布					
参考書	同上					
成績評価方法	受講姿勢(10%)とレポート(90%)で評価する。レポートの課題は芸術文化に思うこと等である。					

科目名	文章表現技法	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0250	担当教員	池田洋一	所属	土佐塾高校非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	講義形式で進めます。しかし、実際に書かないと上達しませんので、後半は小論文を書いてもらいます。よい文章は、一体どうすれば書けるのか。この課題に、よりよい解答が出るように挑戦します。よい文章の書き方として、用字・用語、句読点の勘所、構想の立て方、構成の取り方を最初に学んでいきます。そして、テーマへの取り組み方、その効果的な表現などを用意したテキスト・問題文に即して、実践的に学んでいきます。今後、さまざまな場面で要求される小論文が、最終的にきちんと書ける段階までを目標とします。				
授業の進め方	最初はよい文章とは何かを概説的に説明します。日本語の基礎知識、執筆技術の基礎知識、書き方のコツなどを全般的に指導します。当方で書いたものを配布し、その上で、問題点を話して行きます。その後、テキスト(教科書等)の読み込み、相互の批評・分析を加えて、名文から書き方の要諦・方法を学びます。文章上達のコツは、名文をよく読み込むこと、数多く書き込むことなので、課題文を出して、必要に応じて小論文を書いてもらい、添削・批評をします。文章上達には、他者の目に曝すことが必要です。				
達成目標	(1)大学生として要求される基礎的な文章表現の能力を身につける。 (2)明晰で、論理的な文章の書き方を習得する。 (3)実際に課題をあたえられて、小論文が十分に書けるところまでを目標とする。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回:オリエンテーション、文章を書く際の基礎知識・概説 第2回:小論文の基本技術→正しい文を書くために A・主語・述語 B・修飾の順序 C・文末表現 D・助詞の使い方 第3回:小論文の基礎① A・原稿用紙の使い方 B・符号の使い方 C・文のつなぎ方 D・句読点の打ち方 第4回:小論文の基礎② A・よい文章とは一わかりやすさと読みやすさ B・文章修行のやり方など C・小論文と作文の違い D・情報の集め方など 第5回:小論文の基礎③→テーマ・発想の展開 A・テーマの見つけ方 B・テーマの絞込み C・発想の方法 D・構想の立て方 第6回:小論文の基礎④・文章構成のノウハウ→具体的な構成の立て方 A・実際の小論文の問題と答案を使う B・書き方の具体的な手順を板書・記載したもので説明 第7回:「教科書」を読み込む①→辰濃和男著『文章の書き方』を使う A・相互批評を行う B・分析をする C・文章の勘所を学ぶ 第8回:「教科書」を読み込む②→辰濃和男著『文章のみがき方』を使う A・相互批評を行う B・分析をする C・文章の勘所を学ぶ 第9回:課題文の演習①→課題問題の書き方・方法、抽象的なテーマの場合 A:具体的な書き方は記載したもので説明 B・実際に小論文を書く C・書いたものを推敲する 第10回:課題文の演習②→複数の資料・グラフのついた問題 A・問題点を指摘し、実際に小論文を書いてもらう 第11回:課題文の演習③→時事的な問題 第12回:課題文の演習④→時事的な問題 第13回:課題文の演習⑤→よく出る問題 第14回:課題文の演習⑥→よく出る問題 第15回:まとめ→明晰でわかりやすい、論理的な文章を書くための「まとめ」 授業の進め方は、1回から6回目までを、上記の基礎的な内容に費やします。7回から8回目で教科書で文章の要諦・勘所を学びます。9回から14回目は、その応用・実践編とし、15回目を「まとめ」とします。教科書は、どちらかの本の書評文を書き、提出してもらいます。				
履修上の注意	教科書は言うまでもないが、国語辞典を持参のこと。原稿用紙は当方で用意をします。				
教科書	辰濃和男著『文章の書き方』(岩波新書)819円(税込) 辰濃和男著『文章のみがき方』(岩波新書)819円(税込)				
参考書	丸谷才一著『文章読本』(中公文庫) 本多勝一著『日本語の作文技術』(朝日文庫) 中村 明著『悪文一裏返し文章読本』(ちくま新書) 中村 明著『作家の文体』『名文』(共に、ちくま学芸文庫) 鹿島 茂著『勝つための論文の書き方』(文春新書)				
成績評価方法	授業の姿勢(10%)、書評・小論文の内容(20%)、期末試験(70%)から総合的に評価をします。				

科目名	自然科学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0260	担当教員	津江 保彦	所属	高知大学理学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	自然科学の基礎は物理学にあります。ここでは物理学を中心に、お星様や私たちの感覚器官の働きなど、物理学で理解できること、物理学を知っていて初めて理解できる話題を考えていきたいと思います。				
授業の進め方	講義形式で行います。少しは数式が出てきますが、数学の講義ではないので、中学校時代の数学と、あとちょっとです。各講義の最後に質問紙を配りますので、どんどん質問してください。				
達成目標	(1) 基礎的なことから順を追って論理的に考えることができる。 (2) 物理学の知識を使うと種々の自然界のことが理解できることを実感する。 (3) 日常の言葉だけでなく、自然を理解するときに数学を用いることの重要性を実感する。 (4) 科学的なものの見方・考え方を実感し、似非(エセ)科学を峻別できる力を付ける。 (5) 科学的なものの見方・考え方のできる教養あるより良き市民を目指す。				
授業計画 (講義の具体的内容)	以下のような話題を取り上げる予定です。進度、内容はなるべく受講生に合わせるつもりです。 第 1回 はじめに 第 2回 惑星の運動と暦ー現在使っている太陽暦とは？ー 第 3回 太陽系観の変遷ー地球中心説から太陽中心説へー 第 4回 地上物体の運動ーガリレオからニュートンへー 第 5回 万有引力の法則ー潮の満ち干き・お月さまのお顔はなぜいつも同じ？ー 第 6回 地球の重さを測るー地球の大きさと物理法則の合体ー 第 7回 仕事とエネルギーー色々なエネルギーの形ー 第 8回 状態方程式ー君の泪はきれいな花を咲かせるか？ー 第 9回 太陽中心の温度を推定しようー法則の組み合わせー 第10回 光と視覚ーなぜ赤から紫まで見えるの？ー 第11回 現代物理への招待ーミクロの不思議ー 第12回 原子の構造と周期律表ーすいへいりいべいー 第13回 ミクロの知識で星に迫るー木星はなぜ燃えない？ー 第14回 特殊相対性理論の世界ー時間の遅れ、空間の縮みー 第15回 一般相対性理論の世界ー時間の進み方、ブラックホールー				
履修上の注意	特にありません。				
教科書	特に指定しません。毎回プリントをお配りして進めます。				
参考書	過去の本講義をもとに上梓しました拙著「『物理でほっと』津江保彦著、飛鳥出版室(2010年)」を、僭越ながらあげておきます。				
成績評価方法	期末の試験、またはレポート課題によります(100%)。				

科目名	心理学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0270		馬場園 陽一	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・心を科学的にとらえる力を身につける。 ・人間理解を深める。 ・自己理解を深める。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式を主とするが、簡単な心理実験や心理検査なども実施する予定。 				
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1)心理学に対する興味や関心を高める。(関心・意欲・態度) (2)重要な概念や用語の意味を理解できる。(知識・理解) (3)日常的な文脈の中で、学習した事柄を活かすことができる(活用力) 				
授業計画 (講義の具 体的内容)	<p>全ての学問には基礎的分野と応用的分野があり、心理学も然りである。とりわけ心理学は、日常生活における人間理解や自己理解を深めていくうえでの実用性が高い学問である。本講義では、これまでの心理学研究から見出されてきた様々な理論的見解(心のしくみや働き)を深く学ぶことによって、実生活の中で心理学的枠組みを通して自己を客観的にみつめ、他者の心を理解し、よりよい生き方をしていくための基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 第1章 パーソナリティの理解 <ul style="list-style-type: none"> (1)パーソナリティをどのようにとらえるか (2)パーソナリティはどのように発達するか (3)パーソナリティをどのように診断するか (4)パーソナリティ障がいとは 6. 第2章 発達を理解 <ul style="list-style-type: none"> (1)発達とは～発達段階と発達課題～ (2)乳幼児期の発達 (3)児童期の発達 (4)青年期の発達 (5)成人期・老人期の発達 11. 第3章 行動の理解 <ul style="list-style-type: none"> (1)条件付けと学習 (2)行動変容 (3)動機づけ 14. 第4章 認知の理解 <ul style="list-style-type: none"> (1)記憶のしくみ (2)認知のはたらき～メタ認知とは～ 				
履修上の 注意	各章ごとに1回ずつ小レポートを課します。				
教科書	使いません。				
参考書	その都度、紹介します。				
成績評価方法	小レポート(3割)と期末試験(7割)				

科目名	憲法 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0280	担当教員	小林直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	この講義では、おもに、日本国憲法が想定する統治機構に関して解説する。				
授業の進め方	通常の講義形式で行う。				
達成目標	(1) 立憲主義の歴史的発展と、その基本的な理念を理解できるようになる。 (2) 日本国憲法が想定する統治機構について、正確に理解できるようになる。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、立憲主義の理念や日本国憲法の諸規定を踏まえて、現代の政治的・法的問題について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 イン트로ダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第 2回 憲法とは何か？ 第 3回 立憲主義の歴史的発展 第 4回 立憲主義の正統性の検討(民主主義との緊張関係について) 第 5回 わが国の憲法史 第 6回 日本国憲法の平和主義の検討 第 7回 国民主権原理について 第 8回 国会の組織 第 9回 国会と議院の権能 第10回 内閣の組織・権能と議院内閣制 第11回 裁判所の組織と権能 第12回 財政民主主義と地方自治 第13回 憲法保障概説 第14回 憲法改正とその手続 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の検討				
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。				
教科書	なし。				
参考書	講義中に適時、あげていきます。				
成績評価方法	期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあられるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。				

科目名	憲法Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0290	担当教員	小林直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	この講義では、おもに、日本国憲法が想定する基本的人権に関して解説する。				
授業の進め方	通常の講義形式で行う。				
達成目標	(1) 人権保障に関する歴史的発展と、その基本的な理念を理解できるようになる。 (2) 日本国憲法が想定する基本的人権について、正確に理解できるようになる。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、人権保障の理念や日本国憲法の諸規定を踏まえて、現代の政治的・法的問題について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 イン트로ダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 人権保障の歴史的発展 第3回 基本的人権の原理と限界 第4回 私人間における人権保障と限界 第5回 包括的人権規定と新しい人権 第6回 情報化社会とプライバシー権 第7回 法の下での平等について 第8回 思想・良心の自由と学問の自由 第9回 信教の自由と政教分離原則 第10回 表現の自由の保障 第11回 経済的自由の保障 第12回 人身の自由と刑事手続 第13回 国務請求権と参政権 第14回 社会権の保障 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の検討				
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。				
教科書	なし。				
参考書	講義中に適時、あげていきます。				
成績評価方法	期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。				

科目名	行政法 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0301	担当教員	小林直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	この講義では、行政法の基礎原理、行政組織法、および行政作用法などの諸分野について、解説を行う。				
授業の進め方	通常の講義形式で行う。				
達成目標	(1) 行政法の基礎原理を正確に理解できるようになる。 (2) 行政組織法に関する概念と理論について、正確に理解できるようになる。 (3) 行政作用法に関する概念と理論について、正確に理解できるようになる。 (4) 上記の3項目が達成できたことを前提とした上で、現代の行政に関する諸問題について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 イン트로ダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第 2回 行政法の特徴と法源 第 3回 法の支配と法治主義 第 4回 行政裁量 第 5回 行政組織法概説 第 6回 行政立法概説 第 7回 行政計画の必要性とその問題 第 8回 行政行為の概念のその効力 第 9回 行政行為の種類 第10回 行政上の強制執行 第11回 行政上の即時強制と制裁 第12回 行政契約、行政指導、および行政調査 第13回 行政手続法概説 第14回 情報公開制度概説 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の解説				
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。				
教科書	なし。				
参考書	講義中に適時、あげていきます。				
成績評価方法	期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあられるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。				

科目名	行政法Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0302	担当教員	小林直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	この講義では、おもに、いわゆる行政救済法について、解説を行う。				
授業の進め方	通常の講義形式で行う。				
達成目標	(1)いわゆる行政争訟法に関する概念と制度について、正確に理解できるようになる。 (2)いわゆる国家補償法に関する概念と制度について、正確に理解できるようになる。 (3)上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、現代の行政に関する諸問題について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 インTRODクシヨN(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 行政争訟法概説 第3回 行政訴訟の概念と類型 第4回 取消訴訟 第5回 その他の抗告訴訟 第6回 当事者訴訟と客観訴訟 第7回 行政上の不服申立制度概説 第8回 損失補償の概念と根拠 第9回 損失補償の要件と内容 第10回 国会賠償制度概説 第11回 権力的活動と国家賠償 第12回 公の営造物の設置・管理と国家賠償 第13回 民法上の不法行為責任と国家賠償責任との違い 第14回 結果責任による国家補償 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の解説				
履修上の注意	行政法Ⅰを履修してから、受講することが望ましい。また、解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。				
教科書	なし。				
参考書	講義中に適時、あげていきます。				
成績評価方法	期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。				

科目名	税法 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0310	担当教員	金子 長彦	所属	税理士
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	我が国における税法(所得税、法人税、消費税、相続・贈与税)の課税システム				
授業の進め方	毎回レジュメに基づき各税法の課税システムを勉強していく				
達成目標	(1) 租税法の理解 (2) 各税法の課税価格の計算理論の理解 (3) 納税額算出の計算理論の理解 (4) 消費税法の理論の理解				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 我が国における租税法の概念 第2回～第6回 所得税の計算方法 第7回～第10回 法人税の計算方法 第11回～第13回 消費税の計算方法 第14回～第15回 相続・贈与税の計算方法				
履修上の注意	特になし				
教科書	毎回レジュメを配布します				
参考書	国税の常識 大淵博義 著 税務経理協会				
成績評価方法	期末試験成績100%				

科目名	税法Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0320	担当教員	玉置雄次郎	所属	高知短期大学名誉教授
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	税法Ⅱでは、法人税法の基礎を学びます。				
授業の進め方	講義方式				
達成目標	(1)日本の税制における法人税の位置づけを理解させる。 (2)企業会計の利益と、法人税法の所得との関係を理解させる。 (3)収益・費用、資産のついての法人税法上の取り扱いを理解させる。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第1回 この講義の目標と講義計画 第2回 法人税とはどのような税か 第3回 法人の種類と税法上の取扱い 第4回 企業利益と法人税法上の所得との関係 第5回 営業収益計上の時期 第6回 受取配当金の益金不算入 第7回 売上げ原価の計算と棚卸資産 第8回 固定資産 第9回 有形固定資産と減価償却 第10回 平成19年度減価償却制度の改正(1) 第11回 平成19年度減価償却制度の改正(2) 第12回 役員給与の取扱い(1) 第13回 役員給与の取扱い(2) 第14回 連結納税制度 第15回 税額計算				
履修上の 注意	講義を大切にしてください。				
教科書	山田&パートナーズ著『平成23年度改正図解法人税法超入門』(税務経理協会)				
参考書	講義で紹介します。				
成績評価方法	試験(60%)と講義への参加姿勢(40%)				

科目名	刑法総論 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0331	担当教員	田中康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	この講義では、刑法をはじめとするあらゆる刑罰法規に適用される刑法第1編総則の前半部分について勉強します。 後半部分については刑法総論Ⅱで勉強することになります。				
授業の進め方	講義形式で行います。 皆さんの理解度を確保するために小テストを行うことを予定しています。				
達成目標	(1) 犯罪とは何かについての理解すること。 (2) 刑法の基本概念を理解すること。 (3) 行為概念と構成要件について理解すること。 (4) 違法性について理解すること。 裁判員制度が始まりました。誰が、いつ、どんな場合に裁判員に選ばれるかもしれません。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思ます。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 刑法とは何か、刑法総論とは何か 第 2回 刑法の基本原則 第 3回 刑罰の基礎的問題 第 4回 罪刑法定主義(1) 第 5回 罪刑法定主義(2) 第 6回 刑法の適用範囲 第 7回 犯罪論の体系 第 8回 行為と構成要件 第 9回 因果関係(1) 第10回 因果関係(2) 第11回 不作為犯(1) 第12回 不作為犯(2) 第13回 違法性の意義と機能 第14回 可罰的違法性と違法性 第15回 違法性と違法阻却事由 * 皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。				
履修上の 注意	教科書を事前に読んで、予習してください。				
教科書	中山研一『口述刑法総論新版補訂2版』(成文堂・2007年)				
参考書	『判例百選刑法 I 総論第6版』(有斐閣・2008年)				
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。				

科目名	刑法総論Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0332	担当教員	田中康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	刑法第1編総則の後半部分(刑法総論Ⅰの続き)について勉強します。				
授業の進め方	講義形式で行います。皆さんの理解度を確認するために小テストを行います。				
達成目標	(1)違法性阻却事由について理解すること。 (2)責任の概念について理解すること。 (3)故意・過失について理解すること。 (4)錯誤について理解すること (5)共犯について理解すること。 裁判員制度が始まりました。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思ひます。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第1回 正当行為 第2回 正当防衛(1) 第3回 正当防衛(2) 第4回 緊急避難(1) 第5回 緊急避難(2) 第6回 自救行為、被害者の同意 第7回 責任論の基本問題 第8回 責任能力 第9回 原因において自由な行為 第10回 故意 第11回 事実の錯誤 第12回 法律の錯誤 第13回 過失 第14回 未遂 第15回 共犯 * 皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。				
履修上の 注意	刑法総論Ⅰを履修していることが望ましい。				
教科書	中山研一『口述刑法総論新版補訂2版』(成文堂・2007年)				
参考書	『刑法判例百選Ⅰ 総論第6版』(有斐閣・2008年)				
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。				

科目名	刑法各論 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0333	担当教員	田中康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	刑法第二編罪の内、個人的法益に関する罪を中心に勉強します。				
授業の進め方	講義形式で行います。 皆さんの理解度を確認するために小テストを行います。				
達成目標	(1)生命・身体に対する罪について理解すること (2)身体の自由に対する罪について理解すること。 (3)人格的法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が始まりました。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思います。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 刑法各論とは何か 第 2回 生命に対する罪(1) 第 3回 生命に対する罪(2) 第 4回 傷害の罪(1) 第 5回 傷害の罪(2) 第 6回 過失傷害の罪 第 7回 墮胎の罪 第 8回 遺棄の罪 第 9回 脅迫の罪 第10回 逮捕・監禁の罪 第11回 略取、誘拐及び人身売買の罪 第12回 姦淫の罪(1) 第13回 姦淫の罪(2) 第14回 住居・秘密を侵す罪 第15回 名誉に対する罪 * 皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(遅く、若しくは、速く)進むことになるかもしれません。				
履修上の 注意	刑法総論を既に、若しくは同時に履修することが望ましい。				
教科書	中山研一『口述刑法各論新版補訂2版』(成文堂・2006年)				
参考書	『刑法判例百選Ⅱ各論第6版』(有斐閣・2008年)				
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。				

科目名	刑法各論Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0334	担当教員	田中康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	刑法第2編罪の内、刑法各論Ⅰの続きを、財産犯を中心に、社会的法益に対する罪などについても勉強します。				
授業の進め方	講義形式で行います。皆さんの理解度を確認するための小テストも行います。				
達成目標	(1) 経営的基盤の罪について理解すること。 (2) 財産犯の共通概念について理解すること。 (3) 個々の財産犯について理解すること。 (4) 社会適法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が始まりました。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思ひます。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 信用及び業務に対する罪 第2回 財産犯総論(1) 第3回 財産犯総論(2) 第4回 窃盗の罪(1) 第5回 窃盗の罪(2) 第6回 強盗の罪(1) 第7回 強盗の罪(2) 第8回 詐欺の罪(1) 第9回 詐欺の罪(2) 第10回 恐喝の罪 第11回 横領の罪 第12回 背任の罪 第13回 盗品に関する罪、毀棄及び隠匿の罪 第14回 放火及び失火の罪(1) 第15回 放火及び失火の罪(2) * 皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く進むことになるかもしれません。				
履修上の注意	刑法総論を既に、若しくは同時に、刑法各論Ⅰを履修していることが望ましい。				
教科書	中山研一『口述刑法各論新版補訂2版』(成文堂・2006年)				
参考書	『刑法判例百選Ⅱ各論第6版』(有斐閣・2008年)				
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。				

科目名	刑事訴訟法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0340	担当教員	谷脇和仁	所属	高知法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	暮らしの中の刑事訴訟法～いつかはあなたも裁判員～				
授業の進め方	講義形式を基礎とします。				
達成目標	(1) 刑事訴訟法の根本原則である「無罪の推定」の大原則について、基本的な理解をすること。 (2) 現在の捜査の実体と問題点をしっかり把握すること。 (3) 裁判員制度の基礎を理解し、裁判員に選ばれた場合の基本的な姿勢を身につけること。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第1回 自己紹介・オリエンテーション 第2回 刑事訴訟手続き全般と刑事訴訟法の基本原則 第3回 捜査とは 捜査の原則 捜査の登場人物 第4回 人に対する捜査 第5回 物に対する捜査 第6回 問題となる捜査手法 第7回 捜査における被疑者の対抗手段 第8回 公訴の提起 第9回 公判手続概観 第10回 訴訟の構造と公判手続の原則 第11回 証拠調べの原則と実際 第12回 伝聞法則 第13回 自白 第14回 裁判員裁判の内容と実際 第15回 まとめ				
履修上の 注意	憲法・刑法と関連して学んでください。				
教科書	「伊藤真の刑事訴訟法入門」(伊藤真著・日本評論社出版・1785円)				
参考書	「六法」は必ず1冊準備してください(小型のものでもOKです)。				
成績評価方法	後期試験で評価します。 問題は論述式と小問形式を併用し、配点はほぼ同じ比重とします。試験会場への持ち込みは自由とします。				

科目名	民事訴訟法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0341	担当教員	田村 裕	所属	丸の内法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	1. 民事訴訟の仕組みと手続の概略。 2. 基本的な民事法(民事訴訟だけではなく民法、会社法及びその付属法令)の考え方の履修				
授業の進め方	講義				
達成目標	(1)民事訴訟制度の意義と目的について理解できるようになる。 (2)民事法の考え方を習得する。 (3)民法、会社法及びその付属法令の考え方を習得する。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 オリエンテーション 民事訴訟制度の意義と目的 民事訴訟の仕組みと手続の概略 第 2回 訴訟の主体 裁判所と当事者 第 3回 訴訟の客体(1) 訴訟物理論 訴えの客観的併合 第 4回 訴訟の客体(2) 訴えの変更、反訴、中間確認の訴え 第 5回 訴訟の開始(1) 訴訟要件 第 6回 訴訟の開始(2) 訴えの利益 第 7回 訴訟の開始(3) 訴え提起の効果 第 8回 訴訟の審理(1) 口頭弁論Ⅰ 第 9回 訴訟の審理(2) 口頭弁論Ⅱ 第10回 訴訟の審理(3) 証明Ⅰ (証明の対象、裁判上の自白、証拠) 第11回 訴訟の審理(4) 証明Ⅱ (自由心証主義、証明責任) 第12回 訴訟の終了(1) 判決による訴訟の終了、判決以外の事由による訴訟の終了 第13回 訴訟の終了(2) 判決の既判力Ⅰ 既判力の作用(時的限界) 第14回 訴訟の終了(3) 判決の既判力Ⅱ 客観的範囲(争点効) 第15回 訴訟の終了(4) 判決の既判力Ⅱ 主観的範囲(反射効)、口頭弁論終結後の承継人				
履修上の 注意					
教科書	特になし。				
参考書	模範六法(三省堂)、別冊ジュリスト民事訴訟法判例百選Ⅰ・Ⅱ(有斐閣)				
成績評価方法	期末の試験(50%)、講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。				

科目名	民法(総則・物権) I	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0351	担当教員	桑原尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	民法の総則編を講義します。				
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨・通説・判例の解説・紹介を中心に進めていきます。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。				
達成目標	(1) 民法(総則編)の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験をする際に独学できるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 民法の基本的な仕組み(1) 第3回 民法の基本的な仕組み(2) 第4回 権利の主体(Ⅰ) 自然人 第5回 権利の主体(Ⅱ) 法人(1) 第6回 物・意思表示による権利変動 第7回 意思表示の瑕疵(1) 第8回 意思表示の瑕疵(2) 第9回 契約の不当性 第10回 無効と取消し 第11回 代理(1) 第12回 代理(2) 第13回 法律行為の効力発生時期 第14回 時効 第15回 まとめ				
履修上の注意	民法(債権) I を同時並行して受講することが望ましい。 講義を受講する際には、教科書と六法を必ず持参すること。				
教科書	潮見佳男『入門民法(全)』有斐閣、2007年				
参考書	講義中に紹介します。				
成績評価方法	講義への参加姿勢(50%)および試験(50%)により評価します。				

科目名	民法(総則・物権)Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0352	担当教員	桑原尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	民法の物権編の講義をします。				
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨・通説・判例の解説・紹介を中心に進めていきます。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。				
達成目標	(1)民法(物権編)の基礎を理解できるようになる。 (2)新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3)資格試験受験をする際に独学できるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 物権の異議と種類、物権的請求権 第3回 物権変動(1) 第4回 物権変動(2) 第5回 物権変動(3) 第6回 占有権 第7回 所有権(1) 第8回 所有権(2)、用益物権 第9回 担保物権総論、留置権 第10回 先取特権、質権 第11回 抵当権(1) 第12回 抵当権(2) 第13回 抵当権(3) 第14回 譲渡担保 第15回 まとめ				
履修上の注意	民法(総則・物権)Ⅰを受講しておくこと。また、民法(債権)Ⅱを同時並行して受講することが望ましい。講義を受ける際には、教科書と六法を必ず持参すること。				
教科書	潮見佳男『入門民法(全)』有斐閣、2007年				
参考書	講義中に紹介します。				
成績評価方法	講義への参加姿勢(50%)および期末試験(50%)により評価します。				

科目名	民法(債権) I	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0361	担当教員	桑原尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	民法の債権総論部分を講義します。				
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨・通説・判例の解説・紹介を中心に進めていきます。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。				
達成目標	(1) 民法(債権総論部分)の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験を受験する際に独学できるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 債権関係とその内容 第3回 債務の不履行 第4回 責任財産の保全(1) 第5回 責任財産の保全(2) 第6回 弁済(1) 第7回 弁済(2) 第8回 相殺(1) 第9回 相殺(2) 第10回 債権譲渡(1) 第11回 債権譲渡(2)、債務引受、契約引受 第12回 多数当事者の債権関係(1) 第13回 多数当事者の債権関係(2) 第14回 多数当事者の債権関係(3)、第三者による債権侵害 第15回 まとめ				
履修上の注意	民法(総則・物権) I を同時並行して受講していることが望ましい。講義を受講する際には、教科書と六法と教科書を必ず持参すること。				
教科書	潮見佳男『入門民法(全)』有斐閣、2007年				
参考書	講義中に紹介します。				
成績評価方法	講義への参加姿勢(50%)および期末試験(50%)により評価します。				

科目名	民法(債権)Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0362	担当教員	桑原尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	民法の債権各論部分を講義します。				
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨・通説・判例の解説・紹介を中心に進めていきます。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。				
達成目標	(1)民法(債権各論部分)の基礎を理解できるようになる。 (2)新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3)資格試験受験を準備する際に独学できるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 契約総論(1) 第3回 契約総論(2) 第4回 贈与、売買契約(1) 第5回 売買契約(2) 第6回 消費貸借、使用貸借 第7回 賃貸借(1) 第8回 賃貸借(2) 第9回 雇用、請負 第10回 委任、寄託・組合・和解 第11回 事務管理・不当利得 第12回 不法行為(1) 第13回 不法行為(2) 第14回 不法行為(3) 第15回 まとめ				
履修上の注意	民法(債権)Ⅰを受講しておくこと。また、民法(総則・物権)Ⅱを同時並行して受講することが望ましい。講義を受ける際には、教科書と六法を必ず持参すること。				
教科書	潮見佳男『入門民法(全)』有斐閣、2007年				
参考書	講義中に紹介します。				
成績評価方法	講義への参加姿勢(50%)および期末試験(50%)により評価します。				

科目名	民法(家族)	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0371	担当教員	中橋紅美	所属	丸の内法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>家族と家族の法について学びます。夫婦、親子、扶養、後見、相続などの家族関係を規定している法律が、民法の親族・相続法です。本講義では、民法親族・相続法の基本的な内容について学びつつ、実務で直面した体験談等も踏まえながら、法律を身近に感じてもらい、法律が現実社会にどの様に影響しているかを考えます。</p>				
授業の進め方	<p>教科書を読んできてもらうことを前提に、教科書に沿った形でテーマを選び、講義をします。質疑応答も適宜入れていきます。板書は基本的にしません。場合によってはレジュメを配ることもあるかもしれません。</p>				
達成目標	<p>(1) 民法親族法・相続法の基礎的内容が理解できる。 (2) 民法上の基本的な法律用語を正しく理解し、生活上必要な知識として活用できる。 (3) 家族に関して、法と社会的現実の関係について理解できる。</p>				
授業計画 (講義の具 体的内容)	<p>本講義では、教科書に基づいて毎回テーマを決め、そのテーマについて講義をします。 講義のテーマは以下のとおりです。</p> <p>第 1回 オリエンテーション・家族法の概要 第 2回 結婚 第 3回 離婚 第 4回 離婚に伴う財産・子供の関係(1) 第 5回 離婚に伴う財産・子供の関係(2) 第 6回 親子(1) 第 7回 親子(2) 第 8回 後見・扶養 第 9回 相続の概要 第10回 相続分(1) 第11回 相続分(2) 第12回 相続の効果 第13回 遺産分割 第14回 遺言(1) 第15回 遺言(2)</p> <p>以上のテーマについて講義をする予定です。1回につき1つのテーマにしたいと考えていますが、次の回にまたがる場合もありますので注意してください。講義は基本的には上記の順で行いますが、場合によっては入れ替えることもあります。</p>				
履修上の 注意	<p>民法(総則・物権)・民法(債権)に続く科目ですが、これらの内容を理解していることを前提とはしません。民法についてはごく基本的な内容を講義するのにとどめ、法律をはじめて受講する人でもついていける内容にします。</p>				
教科書	<p>『はじめての家族法』 常岡史子 編、成文堂、2008年 『六法』 出版社は問いませんが、なるべく最新版を用意してください。期末試験にも使います。</p>				
参考書	<p>『身近な家族法』 川村隆子 著、法律文化社、2010年 『家族法(第3版)』 二宮周平 著、新世社、2009年</p>				
成績評価方法	<p>期末試験を行います。期末試験の成績(70%)、講義への参加姿勢(30%)で総合評価します。</p>				

科目名	商法(総則・商行為) I		単位数	2	期別	前期
科目コード	E0391		担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	商法総則・商行為について概説していきます。					
授業の進め方	講義形式で行います。テキスト、講義レジュメに則しながら進めていきます。					
達成目標	(1)民法の特別法としての商法の意義を理解する。 (2)商人概念を理解する。 (3)商行為概念を理解する。 (4)企業の物的要素・人的要素について理解する。					
授業計画 (講義の具 体的内容)	以下の流れで進めていく予定です。 第1回 ガイダンス 第2回 商法総論 第3回 商人概念と商行為概念 第4回 営業・営業能力 第5回 商号の意義 第6回 商業帳簿 第7回 資産の評価 第8回 商業使用人 第9回 商業登記制度 第10回 商業登記の効力 第11回 企業取引と商行為 第12回 商行為総則 第13回 商事売買 第14回 国際売買 第15回 消費者売買					
履修上の 注意	民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法科目が履修済あるいは同時履修していることが望ましい。六法を持参のこと。					
教科書	落合誠一・大塚龍児・山下友信 『商法 I - 総則・商行為 (第4版)』 (有斐閣、2009年)					
参考書	江頭憲治郎・山下友信/編 『商法(総則・商行為)判例百選 第5版』 (有斐閣、2008年)					
成績評価方法	学期末試験(80%)、小テスト(10%)、講義への参加姿勢(10%)により総合的に評価します。					

科目名	商法(総則・商行為)Ⅱ		単位数	2	期別	後期
科目コード	E0392		担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	商法総則・商行為について概説していきます。					
授業の進め方	講義形式で行います。テキスト、講義レジュメに則しながら進めていきます。					
達成目標	(1)企業取引と商行為の概念を理解する。 (2)各企業取引の種類と法規制を理解する。 (3)企業取引における法律関係の特質を理解する。					
授業計画 (講義の具体的内容)	以下の流れで進めていく予定です。 第1回 ガイダンス 第2回 商行為総則 第3回 運送取引(総論) 第4回 運送取引(運送証券) 第5回 運送取扱取引 第6回 倉庫取引 第7回 場屋取引 第8回 金融取引 第9回 証券取引 第10回 保険取引(総論) 第11回 保険取引(損害保険契約) 第12回 保険取引(生命保険契約) 第13回 信託 第14回 手形・小切手(総論) 第15回 手形・小切手(手形理論)					
履修上の注意	民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法科目が履修済あるいは同時履修していることが望ましい。六法を持参のこと。					
教科書	『商法Ⅰ－総則・商行為 (第4版)』 落合誠一・大塚龍児・山下友信、有斐閣(2009年)					
参考書	江頭憲治郎・山下友信/編 『商法(総則・商行為)判例百選 第5版』 (有斐閣、2008年)					
成績評価方法	学期末試験(80%)、小テスト(10%)、講義への参加姿勢(10%)により総合的に評価します。					

科目名	商法(会社) I	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0401	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	株式会社を中心に、会社とはどのような制度なのかについて講義します。				
授業の進め方	講義形式で行います。テキスト、講義レジュメに則しながら進めていきます。				
達成目標	(1) 会社の設立手順がわかる。 (2) 株式の意義、株主の権利について理解する。 (3) 株式会社の運営システムとガバナンス機能について理解する。				
授業計画 (講義の具体的内容)	以下のような流れで進めていく予定です。 第1回 ガイダンス 第2回 会社の概念 第3回 株式会社総論 第4回 会社設立 第5回 株式会社の設立手順 第6回 株式とは 第7回 株主の権利 第8回 株式の種類 第9回 株式の流通と株主の権利行使 第10回 株式の消却・併合・分割・無償割当て 第11回 株式会社の機関とは 第12回 株主総会 第13回 取締役・取締役会・代表取締役 第14回 監査役・会計監査人・会計参与 第15回 委員会設置会社				
履修上の注意	民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法科目が履修済あるいは同時履修していることが望ましい。六法を持参のこと。				
教科書	神田秀樹 『会社法 (第12版)』(弘文堂、2010年)				
参考書	江頭憲治郎・岩原紳作・神作裕之・藤田友敬 『会社法判例百選』 (有斐閣、2006年)				
成績評価方法	学期末試験(80%)、小テスト(10%)、講義への参加姿勢(10%)により総合的に評価します。				

科目名	商法(会社)Ⅱ		単位数	2	期別	後期
科目コード	E0402		担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	株式会社を中心に、会社とはどのような制度なのかについて講義します。					
授業の進め方	講義形式で行います。テキスト、講義レジュメに則しながら進めていきます。					
達成目標	(1)株式会社の資金調達ができる。 (2)会社の組織再編を理解する。 (3)現代社会における会社と法規制についてわかる。					
授業計画 (講義の具 体的内容)	以下の流れで進めていく予定です。 第1回 ガイダンス 第2回 役員等の損害賠償責任 第3回 株式会社の資金調達Ⅰ(新株発行・新株予約権) 第4回 株式会社の資金調達Ⅱ(社債) 第5回 計算・計算書類 第6回 資本金と準備金、剰余金の分配 第7回 組織再編 第8回 事業譲渡 第9回 合併 第10回 会社分割 第11回 株式交換と株式移転 第12回 企業グループと会社法 第13回 会社の解散・清算 第14回 持分会社 第15回 国際会社法および外国会社					
履修上の 注意	民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法科目が履修済あるいは同時履修していることが望ましい。六法を持参のこと。					
教科書	神田秀樹 『会社法 (第12版)』(弘文堂、2010年)					
参考書	江頭憲治郎・岩原紳作・神作裕之・藤田友敬 『会社法判例百選』(有斐閣、2006年)					
成績評価方法	学期末試験(80%)、小テスト(10%)、講義への参加姿勢(10%)により総合的に評価します。					

科目名	経済法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0410	担当教員	横川和博	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	日本の市場経済に関わる法律を概観し、国際的視野から評価・分析する。				
授業の進め方	講義				
達成目標	(1)日本の市場経済に関わる法律の基本構造を理解する。 (2)それが経済社会の実態とどう関わるかについて考察できるようになる。 (3)日本の経済法制を国際的視野から評価する能力を獲得する。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	次の順序で講義する。 第 1回 経済法とはなにか 第 2回 独占禁止法の意義 第 3回～第4回 独占禁止法違反事件例・・・不当な取引制限 第 5回 流通系列化と化粧品業界 第 6回 医薬品業界と独占禁止法 第 7回 自動車製造業と独占禁止法 第 8回 コンビニ業界と独占禁止法 第 9回～第10回 中小企業の競争力と中小企業法制 第11回 知的財産権法制 知的財産権とはなにか 第12回 著作権法の概要 第13回 特許法の概要 第14回～第15回 市場経済と独占禁止法・知的財産権法				
履修上の 注意	特になし				
教科書	特に指定しない。				
参考書	講義時に指示する。				
成績評価方法	評価は最終筆記試験の成績による。 講義の内容が概ね理解できていれば60点。 講義時に指示した文献等に自分でアクセスし、講義内容を深めていけば70点。 講義で獲得した評価の視点で、講義内容を分析し、その結果を表現できれば80点以上となる。				

科目名	労働法 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0420	担当教員	根岸忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	わたしたちは、働くことによって生活の糧を得るのであり、また、多くの時間を労働に費やしているのであるから、雇用関係を規制する法を知っておくことはきわめて重要である。具体的には、採用内定や試用期間、人事といった職業生活の各場面について、どのような法規制がなされているのかを考えてみることにしたい。				
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。				
達成目標	(1)労働法の理念を学ぶ。 (2)労働法をめぐる当事者(労働者、労働組合、使用者)の関係について理解を深める。 (3)労働条件を規制するもの(労働契約、就業規則、労働協約)の関係について理解する。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 はじめに、労働法とは何か 第 2回 労働契約の意義・労働法の適用対象 第 3回 労働契約と労働者の権利義務 第 4回 募集と採用 第 5回 労働条件の決定(1) 第 6回 労働条件の決定(2) 第 7回 労働条件の変更(1) 第 8回 労働条件の変更(2) 第 9回 人事(1)配転、出向 第10回 人事(2)転籍 第11回 人事(3)懲戒処分 第12回 労働時間(1)労働時間の定義 第13回 労働時間(2)弾力的な労働時間 第14回 休憩、休日、年次有給休暇(1)休憩、休日 第15回 休憩、休日、年次有給休暇(2)年次有給休暇				
履修上の 注意	労働法は応用法学であり、憲法、民法、社会保障法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、できるだけ労働法Ⅱもつづけて履修してもらいたい。				
教科書	・金子征史ほか『基礎から学ぶ労働法 第2版』(エイデル研究所、平成22年) ・労働政策研究・研修機構編『労働関係法規集 2011年版』(労働政策研究・研修機構、平成23年)				
参考書	開講時に指示する。				
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(80%)、受講態度(20%)				

科目名	労働法Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0430	担当教員	根岸忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	本講義では、労働法Ⅱにつづけて、賃金や雇用平等などに関してどのような法規制がなされているかを見ていくこととする。おわりに、労働法の規制の要ともいえる、解雇を中心とした労働契約の終了について学ぶこととする。				
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。				
達成目標	(1) 労基法を中心とした法律が、どのように労働関係を規制しているかを学ぶ。 (2) 近時問題となっている非正規労働者の処遇について理解する。 (3) 解雇を中心とした労働契約の終了につき、判例及び法令上どのような法規制がなされているかを理解する。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 はじめに、賃金(1)賃金の定義、賃金支払いの原則(1) 第 2回 賃金(2)賃金支払いの原則(2)、最低賃金 第 3回 賃金(3)賞与、退職金 第 4回 雇用平等(1) 第 5回 雇用平等(2) 第 6回 非正規労働者の処遇(1)パートタイム労働 第 5回 非正規労働者の処遇(2)派遣労働 第 6回 仕事と生活の調和 第 7回 営業譲渡と労働契約 第 8回 労働安全衛生 第 9回 労災補償(1)労基法、労災保険法、労災民訴の関係 第10回 労災補償(2)労災民訴 第11回 労働契約の終了(1)労働契約の終了事由 第12回 労働契約の終了(2)解雇(1) 第13回 労働契約の終了(3)解雇(2) 第14回 労働契約の終了(4)有期契約の雇い止め 第15回 労働契約の終了(5)労働契約終了後の法規制				
履修上の注意	労働法は応用法学であり、憲法、民法、社会保障法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、本講義を履修するにあたっては労働法Ⅰを事前に履修してほしい。				
教科書	・金子征史ほか『基礎から学ぶ労働法 第2版』(エイデル研究所、平成22年) ・労働政策研究・研修機構編『労働関係法規集 2011年版』(労働政策研究・研修機構、平成23年)				
参考書	開講時に指示する。				
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(80%)、受講態度(20%)				

科目名	基礎法学 I		単位数	2	期別	後期
科目コード	E0431		担当教員	松本充郎	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	公法とは、憲法・行政法・環境法・社会保障法・税法等をまとめている概念です。本講義では、アメリカ公法のうち憲法・行政法・環境法・水法を中心に、なるべく具体的な事件や時事的問題に即して考察します。講義の目標は、アメリカ公法の検討を通じて法に関する理解を深め、日本の公法をよりよくするための手掛かりを得ることです。					
授業の進め方	講義用に用意したレジュメにそって講義を行います。受講者には、毎回、講義の内容と現代的な課題とどのようにかかわっているかを考えて頂きます。受講者の人数によっては(少人数の場合)、講義のあとディスカッション等を行うことも考えています。また、数回、小課題を出して、内容の理解度をチェックします。					
達成目標	(1) アメリカ合衆国憲法の内容や現代的課題の歴史的背景について理解できる。 (2) アメリカ合衆国の行政法・環境法・水法の概念や体系について理解できる。 (3) アメリカ公法の理解を基礎として、日本の法体系を良くするための手掛かりを得ることができる。					
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>アメリカ公法のうち、前半は、アメリカ合衆国の歴史を紐解きながら合衆国憲法の概要について議論します。後半は、行政法・環境法のエッセンスを紹介し、最後に、具体的事例として現代のカリフォルニア州の水問題に関する法的議論を検討します。テーマとしては、以下のようなものを考えています。</p> <p>第 1回 アメリカ合衆国及び合衆国憲法成立史及び成立後の歴史 (「Tea Party」など) 第 2回 合衆国憲法の内容(連邦制・立法権) 州際通商条項(尊厳死・銃規制)・州の権限(コモンロー) 第 3回 合衆国憲法の内容(大統領・司法権) 法律上の争訟・陪審制 第 4回 合衆国憲法の内容(行政の位置付け) 政治的統制・司法審査の範囲 第 5回 合衆国憲法の内容(修正条項) 言論の自由・思想信条の自由 第 6回 合衆国憲法の内容(修正条項) 適正手続と「財産権」 第 7回 合衆国憲法の内容 日本国憲法との比較 第 8回 ニューディールと行政手続法の誕生 第 9回 行政手続法の内容・国家環境政策法 第10回 連邦制と環境・環境法の原理 第11回 連邦電力法・連邦開墾法・清浄水法・絶滅の危機に瀕した種の保存法 第12回 アメリカ水法の体系 第13回 カリフォルニア州の水問題と水法(1) 第14回 カリフォルニア州の水問題と水法(2) 第15回 まとめ 日本の公法との比較検討</p> <p>講義1回につき一つのテーマを扱う予定ですが、次回にまたがる場合もありますので注意してください。また、担当教員の判断・皆さんのリクエストによってテーマを若干変更することもあり得ます。</p>					
履修上の注意	基礎法学のうち、アメリカ公法に関する講義です。法律的な知識や外国法の知識があることを講義の前提とはしませんが、法律問題に関心のある学生の受講を歓迎します。					
教科書	①阿川尚之『憲法で読むアメリカ史』(上・下)(PHP新書・2004年)。 ②『六法』 どんなものでも構いませんが、なるべく新しいものを毎回持参してください。					
参考書	テーマごとに適宜紹介しますが、松井茂紀『アメリカ憲法入門(第6版)』(有斐閣・2008年)をお奨めしておきます。					
成績評価方法	期末試験(60%)、小課題(20%)、講義への参加姿勢(20%)で総合評価します。配点の若干の変更はあり得ます。					

科目名	基礎法学Ⅱ	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0432	担当教員	寺田 博	所属	元高知短期大学教授
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	日本国憲法第97条に規定されている「基本的人権の本質」、すなわち「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって、過去幾多の試練に堪え、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたものである」、および12条の「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」の両規定の意義を基礎法学的に、すなわち法制史、法社会学、法哲学の視点から検討し、日本国憲法の歴史的、現代的意義を労働と生活の権利に焦点をあてて理解する。				
授業の進め方	授業はレジュメと資料にもとづいて行う。レジュメ、資料はその都度授業で配布する。				
達成目標	理解する。 (2)憲法の原理の中の大きな柱である「基本的人権」について、労働と生活の権利を中心に法解釈ではなく人権の歴史の「形成」、「展開」、「発展」であることを理解する。 (3)歴史的に形成されてきた基本的人権が現代社会においてどのような問題を抱えているか法社会的に検討し、基本的人権の現代的意義について理解する。 (4)法学を学ぶことが私たち国民一人一人の「豊かな生活」を実現することと密接に関連していることを理解する。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 基礎法学Ⅱのオリエンテーション 基本的人権と歴史、哲学、法社会学 第2回 基本的人権の形成① 第3回 基本的人権の形成② 第4回 「戦後改革」と基本的人権① ①「戦前」とは何であったのか—明治憲法と天皇制 第5回 「戦後改革」と基本的人権② ②「戦前」とは何であったのか—明治憲法と臣民 第6回 「戦後改革」と基本的人権③ 「戦争」と日本国憲法 第7回 「戦後改革」と基本的人権④ ①日本国憲法のめざしたもの 第8回 「戦後改革」と基本的人権⑤ ②日本国憲法のめざしたもの 第9回 「戦後改革」と基本的人権⑥ ①日本社会の変化と基本的人権 第10回 「戦後改革」と基本的人権⑦ ②日本社会の変化と基本的人権 第11回 基本的人権の現在① 憲法と労働① 第12回 基本的人権の現在② 憲法と労働② 第13回 基本的人権の現在③ 憲法と社会保障① 第14回 基本的人権の現在④ 憲法と社会保障② 第15回 まとめ 憲法「改正」論と憲法の現代的意義				
履修上の注意	基礎法学Ⅰとは別個の講義であり、関連性はない。したがって、シラバスを参照して履修をきめればよい。				
教科書	教科書は使わない。				
参考書	参考書は授業のテーマとの関係でその都度紹介する予定				
成績評価方法	成績評価は試験結果で判定する。試験は記述式とする予定。				

科目名	国際法 I	単位数	2	期別	集中
科目コード	E0433	担当教員	吉原司	所属	姫路獨協大学法学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	国際法の基本的事項である条約及び慣習法を中心に学んでいきます。				
授業の進め方	講義形式で行います。適宜レジュメを配布し、それにそって講義を進めます。				
達成目標	(1)国際法の基礎知識を理解できるようになる。 (2)国家実行及び判例を理解できるようになる。 (3)時事問題を国際法に基づいて分析できるようになる。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	①国際法とは何か① 性質 ②国際法とは何か② 歴史 ③国際法の法源 条約・慣習法 ④条約法(締結手続・留保) ⑤条約法(効力・終了原因) ⑥国際法と国内法の関係 ⑦国家責任① 国際違法行為 ⑧国家責任② 違法性阻却事由 ⑨国家責任③ 国際請求 ⑩国家責任④ 国家責任法の他の事項(小テスト) ⑪国際法の主体① 国家 ⑫国家① 国家の成立要件 ⑬国家② 国家承認 ⑭特権・免除(裁判権～外交官・領事) ⑮国際法の主体② 国際機関、個人(小テスト)				
履修上の 注意	私語は厳に慎むように。				
教科書	教科書については指定しない。なお、「参考文献」に若干の書籍を薦める順に挙げておくので、それらの中から適当なものを選び、購入してほしい。条約集については必ず購入すること。以下の条約集が最も利用しやすい。松井芳郎他編『ベーシック条約集(2010年版)』(東信堂、2010年)、奥脇直也他編『国際条約集(2010年版)』(有斐閣、2010年) なお、講義開始前後に最新の条約集(2011年版)が販売されるであろうが、購入される場合そちらを購入していただきたい。				
参考書	杉原高嶺著『国際法学講義』(有斐閣、2008年)、小寺彰他編『講義国際法(第2版)』(東京大学出版会、2010年)、山本草二著『新版 国際法』(有斐閣、1994年)、柳原正治他著『プラクティス国際法』(信山社、2010年)、中谷和弘他著『国際法』(有斐閣アルマ、2006年)、松井芳郎他著『国際法(第5版)』(有斐閣Sシリーズ、2007年) 講義を補強する教材としては以下のものがよい。国際法学会編『国際関係法辞典』(三省堂、2005年)、筒井若水編『国際法辞典』(有斐閣、1998年)、山本草二他編『国際法判例百選』(有斐閣、2001年)、松井芳郎他編『判例国際法』(東信堂、2006年)				
成績評価方法	授業態度(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(40%) で評価。				

科目名	国際法Ⅱ	単位数	2	期別	集中
科目コード	E0434	担当教員	吉原司	所属	姫路獨協大学法学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	国際刑事法、環境法、経済法といった国際法の個別分野について学んでいきます。				
授業の進め方	講義形式で行います。毎回レジュメを配布し、それに沿って講義を進めます。				
達成目標	(1)国際法の個別領域を理解できるようになる。 (2)国家実行及び判例を分析できるようになる。 (3)時事問題を国際法に基づき自分で分析できるようになる。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	①空間秩序① 領域の得喪 ②空間秩序② 海洋法 ③空間秩序③ 他の地理的範囲 ④国際法における個人の取り扱い 国籍・外交的保護 ⑤国際人権法 ⑥国際刑事法(小テスト) ⑦国際機構法 ⑧国際環境法 ⑨国際経済法 ⑩国際紛争の平和的処理① 解決手段 ⑪国際紛争の平和的処理② 国際司法 ⑫安全保障の歴史 ⑬国連の集団安全保障制度 ⑭武力紛争法① 不必要な苦痛の排除・軍事目標主義 ⑮武力紛争法② 紛争犠牲者の保護(小テスト)				
履修上の 注意	私語は厳に慎むように。				
教科書	教科書については指定しない。なお、「参考文献」に若干の書籍を薦める順に挙げておくので、それらの中から適当なものを選び、購入してほしい。条約集については必ず購入すること。以下の条約集が最も利用しやすい。松井芳郎他編『ベーシック条約集(2010年版)』(東信堂、2010年)奥脇直也他編『国際条約集(2010年版)』(有斐閣、2010年) なお、講義開始前後に最新の条約集(2011年版)が販売されるであろうが、購入される場合そちらを購入していただきたい。				
参考書	杉原高嶺著『国際法学講義』(有斐閣、2008年)、小寺彰他編『講義国際法(第2版)』(東京大学出版会、2010年)、山本草二著『新版 国際法』(有斐閣、1994年)、柳原正治他著『プラクティス国際法』(信山社、2010年)、中谷和弘他著『国際法』(有斐閣アルマ、2006年)、松井芳郎他著『国際法(第5版)』(有斐閣Sシリーズ、2007年) 講義を補強する教材としては以下のものがよい。国際法学会編『国際関係法辞典』(三省堂、2005年)、筒井若水編『国際法辞典』(有斐閣、1998年)、山本草二他編『国際法判例百選』(有斐閣、2001年)、松井芳郎他編『判例国際法』(東信堂、2006年)				
成績評価方法	授業態度(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(40%)で評価。				

科目名	社会保障法 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0440	担当教員	根岸忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>社会保障は、現在、国民の大きな関心事となっており、これからも重要な法改正がなされていくであろうことは疑いようがない。本授業では、まず、社会保障の定義やその歴史を概観した上で、社会保険に焦点を当てて進めることとする(ただし、高齢者福祉と密接にかかわる介護保険は社会保障法Ⅱで扱うため、この授業では扱わない)。</p>				
授業の進め方	<p>パワーポイントを用いながら授業を進めていく。</p>				
達成目標	<p>(1) 社会保障法の理念を学ぶ。 (2) 社会保障を構成する各制度について理解を深める。 (3) 受給者や要保障事由について理解する。</p>				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第 1回 はじめに、社会保障とは何か 第 2回 社会保障の歴史 第 3回 医療保障(1) 保険関係 第 4回 医療保障(2) 給付の種類 第 5回 医療保障(3) 医療提供者 第 6回 医療保障(4) 診療契約と保険診療 第 7回 年金保険(1) 保険関係 第 8回 年金保険(2) 老齢給付 第 9回 年金保険(3) 障害給付 第10回 年金保険(4) 遺族給付 第11回 労災補償(1) 保険関係 第12回 労災補償(2) 給付の種類 第13回 労災補償(3) 労災民訴と労災保険の関係 第14回 雇用保険(1) 保険関係 第15回 雇用保険(2) 給付の種類</p>				
履修上の注意	<p>社会保障法は応用法学であり、憲法、行政法、労働法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、できるだけ社会保障法Ⅱもつづけて履修してもらいたい。</p>				
教科書	<p>・本沢巳代子、新田秀樹編著『トピック社会保障法 第5版』(不磨書房、平成23年) ・労働調査会出版局編『社会保障法令便覧 2011』(労働調査会、平成23年)</p>				
参考書	<p>開講時に指示する。</p>				
成績評価方法	<p>論述式の筆記試験及び受講態度で成績評価する。 試験(80%)、受講態度(20%)</p>				

科目名	社会保障法Ⅱ		単位数	2	期別	後期
科目コード	F0450		担当教員	根岸忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	<p>本講義では、社会保障法の中でも社会保険以外の制度(社会福祉、社会手当及び公的扶助)に焦点を当てて授業を進めていくこととする(ただし、高齢者福祉と密接にかかわる介護保険はこの授業で扱う)。その後、近時、重要な問題となっている社会保障の財源や外国人と社会保障等についても法的に検討していくこととしたい。</p>					
授業の進め方	<p>パワーポイントを用いながら授業を進めていく。</p>					
達成目標	<p>(1)社会保障を構成する各制度について学ぶ。 (2)受給者や要保障事由について理解する。 (3)社会保障を支える当事者(利用者、サービス提供事業者、地方公共団体など)の関係を理解する。</p>					
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 はじめに、介護保険(1)保険関係 第2回 介護保険(2)給付の種類(1) 第3回 介護保険(3)給付の種類(2)、高齢者福祉 第4回 障害者福祉(1)障害者の定義と自立支援給付(1) 第5回 障害者福祉(2)自立支援給付(2) 第6回 障害者福祉(3)障害者福祉各法の概要 第7回 児童福祉(1)保育所の利用関係 第8回 児童福祉(2)児童虐待 第9回 単親家庭福祉、社会手当 第10回 生活保護(1)給付の種類 第11回 生活保護(2)申請手続と不服申立 第12回 社会福祉の基盤を支える法(1)社会福祉法と他の社会福祉サービス法との関係 第13回 社会福祉の基盤を支える法(2)社会福祉法人 第14回 社会保障の財政 第15回 国際基準・外国人と社会保障法</p>					
履修上の注意	<p>社会保障法は応用法学であり、憲法、行政法、労働法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、本講義を履修するにあたっては社会保障法Ⅰを事前に履修してほしい。</p>					
教科書	<p>・本沢巳代子、新田秀樹編著『トピック社会保障法 第5版』(不磨書房、平成23年) ・労働調査会出版局編『社会保障法令便覧 2011』(労働調査会、平成23年)</p>					
参考書	<p>開講時に指示する。</p>					
成績評価方法	<p>筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(80%)、受講態度(20%)</p>					

科目名	経済原論 I		単位数	2	期別	後期
科目コード	F0491		担当教員	関根猪一郎	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	経済学の基礎概念(経済用語)および基礎理論を系統的に講義します。「経済学Ⅰ」、「経済学Ⅱ」に接続している科目です。講義では、経済理論と関連づけて現実の経済問題を解説し、現代人として必要な経済的教養を身につけることも重要なテーマとしています。新聞の経済記事も教材として紹介します。					
授業の進め方	基本は講義によって進めます。質問の機会を多くとります。講義の流れは、目の前で起こっている経済ニュースの解説から始まり、「経済記事を読む」という資料で、現実の経済問題の歴史と背景、経済キーワードを論じます。講義本論は講義レジュメおよびテキストに即して進めます。					
達成目標	(1)経済学の基礎概念・基礎理論を理解すること。 (2)市場経済のしくみを理解し、あわせて資本(企業)の運動原理を理解すること。 (3)国内総生産、国民所得、市場原理などの基本的な概念と結びつけて現実の経済問題を理解すること。 (4)産業構造の理解と関連づけて、社会的・職業的自覚を高めること。					
授業計画 (講義の具体的内容)	この科目の真髄は、現代社会をいかに生きるかを考え、時代を認識し、受講生自身の生き方にヒントを提供することにあります。授業は、毎回の講義で経済ニュースをお伝えしながら、経済学の基本を順次理解してゆく形で進められます。講義の素材として、テキストのほか、講義レジュメ、「経済記事を読む」、「経済資料」、「経済原論通信」を配布します。授業計画は以下のように考えています。 <経済と経済学> 第1回 講義ガイダンス 講義の進め方 経済と経済学 第2回 経済とは何か～生産・流通・消費～ 第3回 経済学とはどのような学問か～経済学の歴史より～ 第4回 経済学の分析方法 <市民社会と市場経済> 第5回 啓蒙思想と市民社会の成立 第6回 資本主義(市場経済)の発生 第7回 市場経済のメカニズム①商品・貨幣・資本 第8回 市場経済のメカニズム②商品の価格決定メカニズム <産業構造と国内総生産> 第9回 産業構造の高度化、日本の産業構造 第10回 国内総生産(GDP)と経済成長 第11回 国民所得と可処分所得(消費生活序説) <市場の構造と資本の運動> 第12回 国内市場と国際市場 第13回 資本の原理①利潤原理 第14回 資本の原理②競争原理 第15回 講義の復習とまとめ					
履修上の注意	「経済学Ⅰ」、「経済学Ⅱ」と併せて受講すると理解が深まります。また、この科目は「経済原論Ⅱ」(本年度は閉講)に接続しています。					
教科書	平野喜一郎編『はじめて学ぶ経済学』大月書店、2005年					
参考書	講義のなかで紹介します。					
成績評価方法	期末試験(60%)、平常点(40%)の比率で、総合的に評価します。平常点になかには、数回実施予定の小論文の評価が含まれます。					

科目名	経済史	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0493	担当教員	柳川平太郎	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	近世以降のヨーロッパおよびアメリカ合衆国を中心とした西洋経済史概論				
授業の進め方	主として、川勝平太著『経済史入門』(日経文庫、日本経済新聞社刊行の新書版経済学入門シリーズの一、2003年)の代表的項目をとりあげ、統計資料を配付しながら講義形式で授業。				
達成目標	(1) 経済史学にとって重要な諸概念(例えば重商主義・金融資本等)を理解できるようにする。 (2) 欧米と日本を比較しながら比較経済史の分析手法を学ぶ。 (3) 近世・近代の比較経済史に関わる代表的理論や経済学史上重要な学説の背景を知り、その特色を把握する。				
授業計画 (講義の具体的内容)	以下の事項を中心にして、各回配布の資料プリントを用いながら、検討を試みる。 第1回 「はじめに」(授業ガイダンスと緒論的問題提起):「経済史学」の課題(現状分析と理論的把握) 第2回 序論 第3回 前提:西欧封建社会の構造 第4回 「商業革命」(大航海時代の開始による貿易構造の大転換) 第5回 「近代世界システム」の成立とオランダのヘゲモニー(「覇権」) 第6回 絶対王制と市民革命 その1(イギリスの場合) 第7回 絶対王政と市民革命 その2(フランスの場合) 第8回 イギリス産業革命の歴史的前提 第9回 イギリス産業革命とアメリカ合衆国 第10回 鉄道業の成立と後発資本主義諸国の産業革命 第11回 「世界の工場」イギリスと「19世紀アジアの三角貿易」 第12回 特論:日本の「近代化」と鉄道業、土佐電気鉄道創業の意義 第13回 大恐慌 第14回 ニューディール政策の意義 第15回 展望				
履修上の注意	高等学校公民政経もしくは現代社会、あるいは地歴世界史A程度の基礎知識を前提とするが、講義時に適宜紹介する入門的参考文献等を付属図書館等で参照していただければ未履修でも充分に対応可能。				
教科書	購入の必要はないが、川勝平太『経済史入門』(日経文庫)の一部を参考にしながら講義。				
参考書	川北稔『イギリス近代史講義』(講談社現代新書、2010年)、遅塚忠躬他編『フランス革命とヨーロッパ』第5章 柳川平太郎「プロイセン改革期の営業の自由政策の特質」(同文館、1996年)など				
成績評価方法	各回出席時の応答や積極的参加姿勢と課題レポートを半々に評価する。				

科目名	ミクロ経済学	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0494	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	ミクロ経済学の思考方法をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。				
授業の進め方	講義を中心に進める。理解を深めるため、問題演習を数多く行う。				
達成目標	(1) 供給曲線の背景の理論を理解できるようになる。 (2) 競争市場、独占市場などについて理解できるようになる。 (3) 需要曲線の背景の理論を理解できるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 生産の費用(教科書第13章) 第 2回 同上 問題演習 第 3回 競争市場における企業(教科書第14章) 第 4回 同上 問題演習(1) 第 5回 同上 問題演習(2) 第 6回 独占(教科書第15章) 第 7回 同上 問題演習 第 8回 寡占(教科書第16章) 第 9回 同上 問題演習 第10回 独占的競争(教科書第17章) 第11回 同上 問題演習 第12回 消費者選択の理論(教科書第21章) 第13回 同上 問題演習 第14回 ミクロ経済学のフロンティア(教科書第22章) 第15回 同上 問題演習				
履修上の注意	積極的に問題演習に取り組むこと。 「経済学 I」を履修済み、またはその知識を習得済みであること。				
教科書	『マンキュー経済学 I ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2005年)4, 200円 購入の必要はない。全21章のうち、13~17、21、22章を扱う。				
参考書	『入門経済学』スティグリッツ著、東洋経済新報社(2005年)3, 675円 『ミクロ経済学』奥野正寛著、東京大学出版会(2008年)3, 675円など				
成績評価方法	学期末試験(80%)、講義への参加姿勢(20%)で評価する。				

科目名	マクロ経済学		単位数	2	期別	後期
科目コード	F0495		担当教員	中澤純治	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	マクロ経済学の基本的な概念や用語、関連する経済データ、基礎理論を習得することを目指します。また、それらを用いて日本経済の抱える諸課題やそれを克服するためのマクロ経済政策の可能性と限界を解明していきます。					
授業の進め方	講義を中心にして進めます。					
達成目標	(1)経済データの見方が分かる。 (2)マクロ経済理論の基礎を理解する。 (3)マクロ経済理論を用いて理論的に考える力を身につける。					
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>■マクロ経済学の基礎</p> <p>第01回 インTRODクシヨN 第02回 需要と供給、市場のメカニズム 第03回 国民経済計算とGDP</p> <p>■財・サービス市場の分析</p> <p>第04回 消費と投資 第05回 政府支出と乗数効果 第06回 45度線分析と財・サービス市場の均衡 第07回 中間テスト</p> <p>■金融市場の分析</p> <p>第08回 貨幣市場における需要と供給 第09回 貨幣市場における均衡</p> <p>■IS=LM分析</p> <p>第10回 IS曲線と財政政策 第11回 LM曲線と金融政策 第12回 IS=LMモデルの導出と経済政策 第13回 数値例による経済政策の効果の検証</p> <p>■マクロ経済学と経済政策</p> <p>第14回 古典派モデルとケインジアンモデルの違い 第15回 日本経済とマクロ経済政策</p>					
履修上の注意	「経済学 I」を履修していること、もしくはそれに相当する知識を有していること。					
教科書	毎回プリントを配布しますが、下記の参考書の該当箇所を読んでおいてください。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・中谷巖『入門マクロ経済学』(第5版)日本評論社 ・マンキュー『マンキューマクロ経済学(第2版)<1>入門篇』東洋経済新報社 ・脇田成『マクロ経済学のナビゲーター』日本評論社 					
成績評価方法	成績評価は課題(40点)、テスト(60点)で評価します。課題は7回程度を予定。テストは中間テストと期末テストの2回実施します。					

科目名	国際経済論 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0497	担当教員	細居俊明	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>ヒト、モノ、カネの国境を越えた動きが活発になり、それが各国の国民の生活や制度を大きく変えるようになってきています。グローバル化とか、グローバリゼーションと呼ばれる事態です。「国際経済論」ではグローバル化がどのような影響を与えているのかを考えていきますが、「国際経済論 I」では、グローバル化の歴史と現段階を総括的に見た上で、おカネの動き、国際通貨問題に焦点をあて、グローバル化の意味を検討します。またそのために国際収支や為替相場など基礎的事項を学んでいきます。</p>				
授業の進め方	<p>講義形式で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。適宜、ビデオなども利用します。</p>				
達成目標	<p>(1) 国際的な取引の基本的性格、国際収支の基本的考え方について理解を得る (2) 為替市場と為替相場についての基本的な理解を得る (3) 戦後の国際通貨体制の特徴と現在の問題について基礎的な理解を得る (4) 国際通貨問題への関心を深める</p>				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>概ね次ように講義を進める予定ですが、受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。</p> <p>第1回 オリエンテーションーグローバリゼーションとは 第2回 グローバリゼーションの起源と歴史①ー原動力 第3回 グローバリゼーションの起源と歴史②ーその歩み 第4回 グローバリゼーションの現段階 第5回 国際取引と国際収支①ー国際取引とは何か？ 第6回 国際取引と国際収支②ー赤字と黒字どちらが得？ 第7回 国際収支と為替相場①ー為替とは何か？ 第8回 国際収支と為替相場②ー為替相場はどう決まる？ 第9回 国際収支と為替相場③ー円高・円安の影響は？ 第10回 戦後の国際通貨体制の成立と展開①ー戦前から戦後への大転換 第11回 戦後の国際通貨体制の成立と展開②ー戦後のIMF体制の基本特徴 第12回 戦後の国際通貨体制の成立と展開③ー固定相場制から変動相場制へ 第13回 戦後の国際通貨体制の成立と展開④ー資本移動の拡大とその影響 第14回 戦後の国際通貨体制の成立と展開⑤ー不安定化するドルと国際通貨協力 第15回 戦後の国際通貨体制の成立と展開⑥ー欧州通貨統合とアジアでの通貨協力</p> <p>以上の講義を踏まえ、期末試験を行います。</p>				
履修上の注意	<p>積極的に参加する姿勢が求められます。「国際経済論 I」と「国際経済論 II」はどちらを先に受講してもかまいませんし、どちらかだけの受講でもかまいません。</p>				
教科書	<p>特に指定しません。</p>				
参考書	<p>講義の中で適宜指示します。</p>				
成績評価方法	<p>試験(80%)の成績を基本に、授業への参加姿勢(20%)を加味して総合的に評価します。</p>				

科目名	国際経済論Ⅱ		単位数	2	期別	後期
科目コード	F0498		担当教員	細居俊明	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	<p>ヒト、モノ、カネの国境を越えた動きが活発になり、それが各国の国民の生活や制度を大きく変えるようになってきています。グローバル化とか、グローバリゼーションと呼ばれる事態です。「国際経済論」ではグローバル化がどのような影響を与えているのかを考えていきますが、「国際経済論Ⅱ」では、モノの動き、国際貿易に焦点をあて、自由貿易を理念とする戦後の通商体制(GATT・WTO)とその下での貿易の拡大がどのような役割を果たしてきたかを考えます。</p>					
授業の進め方	<p>講義形式で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。適宜、ビデオなども利用します。</p>					
達成目標	<p>(1) 戦後自由貿易理念が登場する背景を理解する (2) 戦後自由貿易を促進してきたGATT・WTOの基本的な仕組みとルールを理解する (3) GATT・WTOの役割や課題について考える (4) 自由貿易の利益と問題点について考える</p>					
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>概ね次ように講義を進める予定ですが、受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。</p> <p>第1回 オリエンテーションーグローバル化はどこまで来たか？ 第2回 GATT・WTOの理念と現実①ーGATTの貿易原則 第3回 GATT・WTOの理念と現実②ーWTOの成立と新たな特徴 第4回 GATT・WTOの理念と現実③ー理念と現実のギャップ 第5回 GATT・WTOの新たな問題ー環境問題・労働問題 第6回 GATT・WTOと食糧問題ー農産物貿易の自由化は是か非か 第7回 GATT・WTOと食糧問題ーWTO交渉の現状 第8回 GATT・WTOと南北問題①ー自由貿易の理論:比較生産費説とは？ 第9回 GATT・WTOと南北問題②ー一次産品問題と途上国の自由貿易への反発 第10回 GATT・WTOと南北問題③ー資源をもつ国は強いのか？ 第11回 GATT・WTOと南北問題④ーアジア途上国の成長と自由貿易の受容 第12回 GATT・WTOと南北問題④ー自由貿易のメリットとデメリット 第13回 自由貿易と地域統合①ーGATT・WTOと地域統合 第14回 自由貿易と地域統合②ー欧州連合EU 第15回 自由貿易と地域統合②ー日本とアジアの地域統合の動き</p> <p>以上の講義を踏まえ、期末試験を実施します。</p>					
履修上の注意	<p>積極的に参加する姿勢が求められます。「国際経済論Ⅰ」と「国際経済論Ⅱ」はどちらを先に受講してもかまいませんし、どちらかだけを受講してもかまいません。</p>					
教科書	<p>特に指定しません。</p>					
参考書	<p>講義の中で適宜指示します。</p>					
成績評価方法	<p>試験(40%)とレポート(40%)の成績を基本に、授業への参加姿勢(20%)を加味して総合的に評価します。</p>					

科目名	財政学 I		単位数	2	期別	前期
科目コード	F0499		担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	<p>財政はすべての国民にとって身近な問題である。しかし、日本の財政は多くの課題を抱え、公共サービスのあり方や消費税の増税などの改革が議論されている。本講義では、経済学の視点から財政の理論を学ぶとともに、社会保障などの諸問題を考えていきたい。</p>					
授業の進め方	講義形式とする。					
達成目標	<p>(1) 財政の役割と課題を理解する。 (2) 日本財政の現状を認識する。 (3) 日本財政に対する課題認識を深める。</p>					
授業計画 (講義の具 体的内容)	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 財政の現状 第3回 財政の役割 第4回 財政の理論①市場の失敗・外部性 第5回 財政の理論②公共財 第6回 財政再建 小さな政府と行政改革 第7回 租税の概要 第8回 公債の発行 第9回 消費税の値上げ論 第10回 望ましい税制に向けて 第11回 企業課税と経済のグローバル化 第12回 国と地方の財政関係①地方分権 第13回 国と地方の財政関係②財政健全化法 第14回 社会保障制度の再構築 第15回 まとめ</p>					
履修上の 注意	<p>財政学 I・II を通じて財政学の理解を深める講義としたい。そのため、通年での履修を推奨する。私語や携帯電話の使用など講義を妨げる行為を禁じる。</p>					
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。					
参考書	<p>『Basic現代財政学』重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編、有斐閣ブックス(2009) 『財政学』佐藤主光著、放送大学教育振興会(2010)</p>					
成績評価方法	<p>期末レポート(80%)と講義への参加姿勢(20%)より評価する。</p>					

科目名	財政学Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0500	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	現在、日本の財政は国・地方ともに厳しい財政事情にある。しかしながら、少子高齢化やグローバル化等に対応した福祉政策や産業政策の構築が急がれている。本講義では、財政と政策の関連性を理解し、自治体の財政システムを学ぶとともに、納税者としての意識の醸成にも取り組んでいきたい。				
授業の進め方	講義形式とする。				
達成目標	(1) 自治体財政の概要を把握する。 (2) 財政と政策の関連性を理解する。 (3) 税のあり方、税の使われ方を考える。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 なぜ、自治体財政を学ぶのか 第3回 地方税の概要 第4回 地方交付税、国庫補助金の仕組み 第5回 地方債—自治体の借金 第6回 予算編成とは 第7回 自治体の予算を解読してみる 第8回 財政診断—決算からわかること 第9回 行政評価の現状と課題 第10回 地域づくりと自治体の役割 第11回 住民サービスと自治体財政 第12回 業務の民間委託・指定管理者制度 第13回 ケーススタディ①公営バス 第14回 ケーススタディ②企業誘致の効果 第15回 まとめ				
履修上の注意	「財政学Ⅰ」を受講済であるか、自治体財政や自治体の住民サービスに興味を有していることが望ましい。私語や携帯電話の使用など講義を妨げる行為を禁じる。				
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。				
参考書	『自治体財政のツボ』小西砂千夫著、関西学院大学出版会(2007) 『図解 よくわかる自治体財政のしくみ』肥沼位昌著、学陽書房(2008)				
成績評価方法	期末レポート(80%)と講義への参加姿勢(20%)より評価する。				

科目名	金融論Ⅱ	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0501	担当教員	関根猪一郎	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	金融理論および金融制度を理解する上で基本となる次のテーマを講義する。1. 商業信用、2. 銀行、3. 中央銀行、4. 金融市場と金融商品。講義の進行にあわせて、現実の金融問題への理解を深める。				
授業の進め方	テキストおよび講義レジュメに即して講義する。資料として、「金融記事を読む」、「金融統計」等を使用する。				
達成目標	(1) 金融の基礎理論を理解する。 (2) 中央銀行、メガバンク、地方銀行など、主要な金融機関の役割を理解する。 (3) 金融市場のメカニズムおよび金融商品への理解を深める。 (4) 日本および世界の金融問題の概要をつかむ。				
授業計画 (講義の具体的内容)	<金融とは何か> 第1回 ガイダンス(講義のテーマと進め方)、実体経済と金融 第2回 金融とは何か～ファイナンスとしての金融、貸付と編成、債権債務関係～ 第3回 金融とは何か～購買力の前貸、信用創造～ <商業信用> 第4回 商業信用(企業間信用) 第5回 商業手形・小切手 <市中銀行> 第6回 市中銀行とは何か(利子生み資本) 第7回 銀行のバランスシートの勘定項目 第8回 銀行と信用創造 第9回 投資銀行と信託銀行 <中央銀行> 第10回 中央銀行とは何か～イングランド銀行、日本銀行を例として～ 第11回 中央銀行の基本機能 第12回 中央銀行と金融政策 <金融市場と金融商品> 第13回 金融市場とは何か～その類型と機能～ 第14回 金融市場と金融商品～リーマンショックとの関連で～ 第15回 まとめ:これからの金融のあり方				
履修上の注意	「金融論Ⅰ」の接続科目です。履修にあたっては「金融論Ⅰ」を受講していることが望ましいですが、受講していない場合でも意欲があれば理解できるような講義をします。				
教科書	関根猪一郎ほか著『金融論』青木書店				
参考書	講義のなかで紹介します。				
成績評価方法	レポートの評価を基本とします(80%)。それに平常点(20%)を加味して総合評価で成績を出します。				

科目名	地域経済論 I		単位数	2	期別	前期
科目コード	F0505.1		担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	本講義では、魅力ある地域の創造に向けて必要とされる「人づくり、まちづくり、仕組みづくり」をキーワードに、進展する地域産業政策の実例から地域課題や政策、地域支援機関との連携等について検討し、地域自立に向けた政策的ベクトルとインプリケーションを実証的に考えたい。					
授業の進め方	講義形式とする。					
達成目標	(1) 地域経済の課題を把握する。 (2) 地域経済の活性化策の考え方を理解する。 (3) 受講生が考える「地域」の地域経済の活性化をイメージする力を醸成する。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 地域産業政策の展開 第3回 地域ブランドとものづくり 第4回 産業観光(都市観光) 第5回 企業立地政策①施策内容 第6回 企業立地政策②企業誘致手法 第7回 産業政策と都市政策の融合①産業振興とまちづくり 第8回 産業政策と都市政策の融合②事例紹介—東京都板橋区等 第9回 企業育成施設—インキュベーションセンターの機能と役割 第10回 地域ファンドの現状と可能性 第11回 中心市街地の空洞化と再生への取組①現状・課題・政策 第12回 中心市街地の空洞化と再生への取組②事例紹介—高松市等 第13回 中国の経済発展と産業都市づくり—蘇州工業園区 第14回 英国の地域再生政策—ロンドン開発公社 第15回 まとめ					
履修上の注意	日頃から身近な地域の出来事やニュースについて関心を持つよう心掛けて欲しい。 私語や携帯電話の使用など講義を妨げる行為を禁じる。					
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。					
参考書	『地域づくりの経済学入門』岡田知弘著、自治体研究社(2005) 『基本ケースで学ぶ地域経済学』中村剛治郎著、有斐閣ブックス(2008)					
成績評価方法	期末レポート(80%)と講義への参加姿勢(20%)より評価する。					

科目名	経済政策論 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0505	担当教員	石筒 覚	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	日本の経済発展に経済政策がどのような役割を果たしてきたかを考える。				
授業の進め方	サブテーマを設け講義を行うとともに、各テーマの中間でグループディスカッションを行います。				
達成目標	(1) 経済政策がなぜ行われる必要があるのかを理解できる。 (2) 経済における市場と政府の役割の違いを理解できる。 (3) 経済政策の現代的課題について理解できる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 イン트로ダクション 経済政策論の対象とは？ 第 2回 現代経済政策の役割 キーワードから政策を考える 第 3回 現代経済政策の役割 グループディスカッション 第 4回 現代経済政策の役割 再分配と安定化 第 5回 経済政策の歴史 明治維新、戦後復興、高度経済成長 第 6回 経済政策の歴史 グループディスカッション 第 7回 経済政策の歴史 低成長、バブル経済、そして現在 第 8回 経済政策の理論と展開 政府の役割と市場の役割(1) 第 9回 経済政策の理論と展開 政府の役割と市場の役割(2) 第10回 経済政策の理論と展開 グループディスカッション 第11回 経済政策の理論と展開 財政政策 第12回 経済政策の理論と展開 金融政策 第13回 経済政策の現場から 政治と政策 第14回 経済政策の現場から グループディスカッション 第15回 経済政策の現場から 国と地方				
履修上の注意	グループディスカッションでは、3名から5名が1つのグループになり、共通のテーマについて議論します。ディスカッションが行われる日は、ディスカッション振り返りペーパーを実施しますので、欠席しないように注意してください。				
教科書	適宜指示する。				
参考書	適宜指示する。				
成績評価方法	期末試験(50%)、ディスカッション振り返りペーパー(40%)、レポート(10%)を成績評価の対象とします。全体で60%以上のポイントを獲得した受講生に単位を認定します。				

科目名	地域経済論Ⅱ		単位数	2	期別	後期
科目コード	F0506		担当教員	福田善乙	所属	高知短期大学名誉教授
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	地域経済の問題を具体的に明らかにするとともに、どうすれば地域を豊かにすることができるか、分析・検討していく。					
授業の進め方	講義方式					
達成目標	(1) 地域経済の問題を正確に把握する (2) 地域経済の活性化を考える能力・政策化する能力を身につける (3) そのなかで自らの役割を考える能力・実行する能力も身につける					
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 地域経済論(Ⅱ)でなにを学ぶか 第2回 現代と地域経済(1) 第3回 現代と地域経済(2) 第4回 地域経済を分析する視点 第5回 地域際収支とはなにか 第6回 地域際収支でなにが明らかになるか 第7回 地域際収支にもとづく地域活性化政策 第8回 『高知県産業振興計画』の内容 第9回 『高知県産業振興計画』の論点 第10回 『高知県産業振興計画』の今後の課題 第11回 地域経済活性化の基本的視点 第12回 全国における地域経済活性化の具体的事例(1) 第13回 全国における地域経済活性化の具体的事例(2) 第14回 全国における地域経済活性化の具体的事例(3) 第15回 まとめ					
履修上の注意	出席はとる。ノートは必ずとること。私語厳禁。携帯切ること。時間厳守。					
教科書	レジュメにもとづく					
参考書	福田善乙他著『転換期の地域づくり』ナカニシヤ出版 授業中その都度紹介する					
成績評価方法	試験(レポート)(80%)と授業への参加姿勢(20%)の総合的評価					

科目名	協同組合論		単位数	2	期別	集中
科目コード	F0545		担当教員	村田 武	所属	愛媛大学社会連携推進機構
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	テーマ: 協同組合運動の歴史に学ぶ					
授業の進め方	豊富な資料にもとづく講義を基本とする。必要に応じて、受講生のディスカッションの時間をとる。					
達成目標	①近代史のなかでの協同組合運動の意味を理解する。 ②我が国の協同組合思想と協同組合運動の歴史を理解する。					
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 序論(協同・競争) 第 2回 産業革命と「友愛組合」 第 3回 ロバート・オウエン 第 4回 々 第 5回 消費者協同組合・ロッヂデール 第 6回 々 第 7回 ドイツ・ライファイゼン信用組合 第 8回 農業協同組合の成立・デンマーク・アイルランド 第 9回 わが国の協同組合運動の歴史(1) 共助の思想 第10回 々 (2) 産業組合から戦後の協同組合へ 第11回 現代の協同組合 第12回 々 第13回 々 第14回 レイドロー報告と協同組合の課題 第15回 まとめ					
履修上の 注意	事前に配布する資料を予習すること。 近代世界史についての基礎知識を高校の世界史教科書で復習しておくこと。 (とくに産業革命と農業革命について)					
教科書	ジョンストン・バーチャル(都築忠七監訳)『国際協同組合運動』家の光協会(1999年刊) ¥2,400+税					
参考書	村田武『現代の「論争書」で読み解く食と農のキーワード』(筑波書房ブックレット,2009年刊) ¥750+税 『西暦2000年における協同組合』(日本生活協同組合連合会,1980年刊) ¥600					
成績評価方法	講義中に複数回提出を求めるミニレポート(40点) 期末試験(60点)					

科目名	労働経済論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0550	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	働くということについて、経済学的に考える力を養う。				
授業の進め方	講義を中心に進める。				
達成目標	(1) 現実の労働問題について、理論を用いて理解できるようになる。 (2) 失業率や賃金水準について理解できるようになる。 (3) 日本的雇用慣行について理解できるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 労働力 第2回 労働供給 第3回 労働需要 第4回 労働時間 第5回 機械と労働 第6回 海外との競争 第7回 失業の理論 第8回 若者と労働 第9回 女性と労働 第10回 高齢者と労働 第11回 勤労所得と差別 第12回 人事制度と労働意欲 第13回 中小企業、開・廃業 第14回 労働組合 第15回 所得不平等と貧困				
履修上の注意	積極的に授業に参加すること。 「経済学Ⅰ」を履修済み、またはその知識を修得済みであれば望ましいが、修得済みでない受講生にも理解できるよう配慮する。				
教科書	プリントを配布する。				
参考書	『労働経済』清家篤、東洋経済新報社(2002年)1, 890円 『労働経済』松繁寿和著、放送大学教育振興会(2008年)2, 940円 『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2005年)4, 200円など				
成績評価方法	学期末試験(80%)、講義への参加姿勢(20%)で評価する。				

科目名	経営学 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0670	担当教員	青木宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>この講義では、現代企業の組織や行動を経営学の観点から理解することを目的としています。講義の半分は理論的な説明についやします。理論というと難しく聞こえるかもしれませんが、丁寧に考えれば必ず理解できるものです。</p> <p>まず、なぜ大規模な組織が存在するのかということを理論的に説明することからはじめます。そして、経営学の主な対象である株式会社の基本的な仕組みや問題点について考察を進めます。次に、財閥や企業集団といった企業間の連帯の構造や機能について解説をします。そして最後に、企業の戦略について論じます。</p>				
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。				
達成目標	<p>(1) 企業組織の構造について理解すること。 (2) 日本の企業間関係について理解すること。 (3) 上記2点について、諸外国との比較ができるようになること。</p>				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 組織の存在理由(1) 第2回 組織の存在理由(2) 第3回 組織の存在理由(3) 第4回 官僚制組織(1) 第5回 官僚制組織(2) 第6回 株式会社制度(1) 第7回 株式会社制度(2) 第8回 株式会社制度(3) 第9回 所有者と経営者(1) 第10回 所有者と経営者(2) 第11回 コーポレートガバナンスの国際比較(1) 第12回 コーポレートガバナンスの国際比較(2) 第13回 財閥と企業集団(1) 第14回 財閥と企業集団(2) 第15回 生産と流通のコーディネーション</p>				
履修上の注意	経営学 I と II の両方を受講すればより理解が深まりますが、どちらかだけでも受講に支障はありません。				
教科書	特になし。				
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。				
成績評価方法	授業への参加(40%)、筆記試験(30%)、レポート(30%)などで評価します。				

科目名	経営学Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0680	担当教員	青木宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	この講義では、アメリカとの対比で日本の企業経営の特徴を理解しようとしています。まず、経営学の発展史を学びます。アメリカで生まれた経営学がその後どのように発展したのかを人間モデルという観点から整理します。そして日本の企業経営の特徴について検討して行きます。特に日本企業の人的資源管理について学びます。				
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。				
達成目標	(1) 経営学の学説史を理解すること。 (2) 日本企業の人的資源管理について理解すること。 (3) 人的資源管理についてアメリカとの比較ができるようになること。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 経営学の目的 第2回 経済人モデルの経営学(1) 第3回 社会人モデルの経営学(2) 第4回 自己実現人モデルの経営学 第5回 昇進管理 第6回 人事管理(1) 第7回 人事管理(2) 第8回 賃金の決め方(1) 第9回 賃金の決め方(2) 第10回 賃金の上がり方(1) 第11回 賃金の上がり方(2) 第12回 人材育成と異動の管理(1) 第13回 人材育成と異動の管理(2) 第14回 労働時間の管理(1) 第15回 労働時間の管理(2)				
履修上の注意	経営学ⅠとⅡの両方を受講すればより理解が深まりますが、どちらかだけでも受講に支障はありません。				
教科書	特になし				
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。				
成績評価方法	授業への参加(40%)、筆記試験(30%)、レポート(30%)などで評価します。				

科目名	企業分析論 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0691	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	企業が公表している財務諸表を様々な角度から眺めて、企業の特徴と過去・現在・未来の状況を分析する方法について学びます。				
授業の進め方	この授業では、まず、損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書といった財務諸表が、企業の活動をどのように表現したものであるのかを解説します。次に、財務諸表の数値を利用して、企業の「安全性」「収益性」「効率性」「成長性」などを分析する「ファンダメンタル分析」の手法をとりあげ、各経営指標の算出方法とその意味を解説していきます。授業の後半では、企業の総合的な判定を簡便に行うための指標として開発された「企業力指数」の考え方を紹介し、その意義と使いみちについて解説します。毎回、様々な企業をとりあげ、各種の経営指標の解説を行い、その後、経営指標を実際に計算してもらいますので、学びつつ実践することで、理解を深めてください				
達成目標	(1) 財務諸表に表れた数値が経営の場においてどういう意義をもち、どのように活用されているかを理解すること。 (2) 企業の「安全性」「収益性」「効率性」「成長性」などを分析するファンダメンタル分析の手法を身に付けること。 (3) 「損益分岐点」の意味を理解し、計算ができるようになること。 (4) 「企業力指数」の手法をマスターし、様々な企業の総合力を判定できるようになること。 (5) この授業の内容を理解しようとすることをきっかけとして、企業の経営状況を読み解くことのできる能力をみがき、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 イン트로ダクション 第2回 会計情報の役割と企業の経済活動 第3回 貸借対照表のしくみ 第4回 損益計算書のしくみ 第5回 キャッシュ・フロー計算書のしくみ 第6回 安全性分析 第7回 収益性分析 第8回 効率性分析 第9回 成長性分析 第10回 損益分岐点分析 第11回 業界分析 第12回 粉飾決算と利益管理の分析 第13回 企業力指数(1):入門 第14回 企業力指数(2):応用 第15回 まとめ				
履修上の注意	財務諸表分析の極意は、各種数値の比率分析(割り算)にあります。したがって、電卓を持参すると便利です。				
教科書	『財務諸表分析入門—Excelでわかる企業力—』松村勝弘・松本敏史・篠田朝也著、BKC(2009年)				
参考書	『証券アナリストのための企業分析—定量・定性分析と投資価値評価—(第3版)』日本証券アナリスト協会編、東洋経済新報社(2004年) 『企業分析入門(第2版)』パレプほか著(斎藤静樹監訳)、東京大学出版会(2001年) 近年、「決算書の読み方」といったタイプの書籍や新書が数多く出版されています。ぜひ書店へ行き、それらの書物を手にとりパラパラと眺めてみて、自分の感性に合うものを探し求めてみてください。				
成績評価方法	毎回の小レポート課題(20%)、および期末試験(80%)。				

科目名	企業分析論Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0692	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>「企業価値」を評価していくための手法を学びます。これらの手法は、「企業分析Ⅰ」で取り扱った財務諸表分析とは別に、「バリュエーション」(企業価値評価)と呼ばれる一つの独立した分野となっています。企業価値評価の具体的な手法の多くは、株式市場における理論株価の算定のために考え出されたものです。理論株価としての企業価値が算定できると、それを現実の株価と比べて、割安か割高かの判断を行うことが可能になります。また、企業買収や合併のように、企業そのものを売買する場面においても、企業価値を算定することが必要です。したがって、企業価値評価の手法は、価値のある何かについて、買うかどうかを決める投資意思決定の場面で役立つものとなるでしょう。</p>				
授業の進め方	<p>この授業では、まず、株式時価総額やPBR、PERなどの株価指標と呼ばれる数値について解説します。次いで、企業評価における最重要キーワードである「現在価値」と「資本コスト」の考え方について説明します。その後、3つの代表的な企業価値評価モデルについて解説します。なお、企業評価にあたっては株式市場と投資家行動の理解が不可欠です。、株式市場が社会の中でどのような機能をもつシステムであるか、投資家がどのような行動をとっているか、についても併せて考えていきます。</p>				
達成目標	<p>(1)PBRやPERなどの株価指標の意味を理解し、計算ができるようになること。 (2)「現在価値」と「資本コスト」の意味を理解し、説明できるようになること。 (3)代表的な企業評価モデルの考え方を理解し、算定ができるようになること。 (4)残余利益の考え方を理解し、それを経営指標として応用したEVA(経済付加価値)の計算ができるようになること。 (5)この授業の内容を理解しようとすることをきっかけとして、企業の経営状況を読み解くことのできる能力をみがき、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 企業価値と株式時価総額 第3回 株価指標(1): 株価利益倍率(PER)と株価純資産倍率(PBR) 第4回 株価指標(2): 1株当たり利益(EPS)と1株あたり純資産(BPS) 第5回 現在価値(1): 現在価値と将来価値 第6回 現代価値(2): 割引率 第7回 資本コスト(1): 期待収益率と資本コスト 第8回 資本コスト(2): 負債コストの推定 第9回 資本コスト(3): CAPMによる株主資本コストの推定 第10回 企業評価モデル(1): 割引キャッシュ・フローモデル 第11回 企業評価モデル(2): 割引配当モデル 第12回 企業評価モデル(3): 割引残余利益モデル 第13回 EVA(経済付加価値)の算定 第14回 証券市場の機能と行動ファイナンス 第15回 まとめ</p>				
履修上の注意	<p>各種数値の算定のために、電卓を持参すると便利です。「企業分析Ⅱ」では、前期の「企業分析Ⅰ」で取り扱った、企業のある側面を細かく分析していくこと、ではなくして、それらの分析を総合させて、企業全体の価値の評価を行っていくこと、について解説します。教科書は「企業分析Ⅰ」「企業分析Ⅱ」ともに共通です。</p>				
教科書	<p>『財務諸表分析入門—Excelでわかる企業力—』松村勝弘・松本敏史・篠田朝也著、BKC(2009年)</p>				
参考書	<p>『証券アナリストのための企業分析—定量・定性分析と投資価値評価—(第3版)』日本証券アナリスト協会編、東洋経済新報社(2004年) 『企業分析入門(第2版)』パレプほか著(斎藤静樹監訳)、東京大学出版会(2001年) 『ゼミナール企業価値評価』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社(2007年)</p> <p>新聞の株式欄やインターネットのYahoo!ファイナンス(http://finance.yahoo.co.jp)、ラジオNIKKEIなどをひもといて、企業の株価の動向に関心に向けてみてください。</p>				
成績評価方法	<p>毎回の小レポート課題(20%)、および期末試験(80%)。</p>				

科目名	会計学 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0700	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>企業会計における基礎的な考え方と、現実社会における会計の役割について解説します。会計は、企業の経済活動を独自の言葉で描き直し、それを関係者に報告する行為です。ここでは、企業がお金を調達する場面で行われる会計である財務会計を取り上げます。</p>				
授業の進め方	<p>この授業では、まず、財務諸表を構成する言葉である「資産」「負債」「純資産」「収益」「費用」「利益」といったものが、いったい何を表そうとしているのかを学びます。次いで、企業会計独特の考え方を整理した「企業会計原則」について解説します。「企業会計原則」は「発生主義」「取得原価主義」「費用配分」といった特徴をもちますが、これらは、企業の経済活動をうまく表現しようとする場合に必要となる「理論的なしかけ」としての役割を果たしています。今日では、会計基準の改廃と新設が相次いでおり、また、政府や自治体などの公的部門にも企業会計の仕組みが導入されようとしています。企業会計を支えている基礎概念を学んでおくことで、それらの変化がどういう意味をもつかも自然と理解されるようになるでしょう。</p>				
達成目標	<p>(1)「発生主義」の考え方を理解すること。 (2)財務諸表にはどのような種類のものがあり、それぞれが企業の何を表しているかを説明できるようになること。 (3)ある出来事が起こったとき、そのことが会計上どのように表現されるのかをイメージできるようになること。 (4)会計学は企業活動を対象としているため、企業会計の基礎を理解しようと努めることで、企業経営全般の基礎知識についても自然と習得することができます。 (5)この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、各種検定試験の合格につなげ、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 財務会計の機能と制度 第3回 財務諸表の種類と体系 第4回 資産、負債、資本 第5回 収益、費用、利得、損失 第6回 財務諸表の作成原理 第7回 企業会計原則(1)一般原則 第8回 企業会計原則(2)発生主義 第9回 企業会計原則(3)取得原価 第10回 企業会計原則(4)費用配分と動態論 第11回 収益と費用の会計 第12回 資産の会計 第13回 負債の会計 第14回 資本の会計 第15回 まとめ</p>				
履修上の注意	<p>企業会計を学ぶにあたって、簿記の知識があることに越したことはありません。なお、財務諸表の作成原理を扱う際に、複式簿記の仕組みについても解説します。会計は、企業の経済活動の貨幣的把握、という性格をもっているため、しばしば計算が必要となります。そのため、電卓を持参すると便利です。</p>				
教科書	『財務会計入門(第3版)』田中建二著、中央経済社(2011年)				
参考書	<p>『会計学講義(第4版第2刷)』醍醐聰著、東京大学出版会(2009年) 『財務会計・入門(第7版)』桜井久勝・須田一幸著、有斐閣アルマ(2010年)</p> <p>近年、「決算書の読み方」といったタイプの書籍や新書が数多く出版されています。ぜひ書店へ行き、それらの書物を手にとりパラパラと眺めてみて、自分の感性に合うものを探し求めてみてください。</p>				
成績評価方法	毎回の小レポート課題(20%)、および期末試験(80%)。				

科目名	会計学Ⅱ		単位数	2	期別	後期
科目コード	F0710		担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	<p>現代における様々な会計基準の内容について解説します。会計の世界においては、1990年代後半から現在にかけて、新しい会計基準が次々と設定されてきています。それらの新しい基準の中には、従来の会計ルールの考え方とはなじまないような考え方をもつものも少なくありません。そのような変化の背景には、「損益計算のための会計」から「実態開示のための会計」へ、という大きな思想の転換があります。たとえば、資産や負債の評価に「時価」が用いられるということも、実態開示を優先する考え方から導き出されたものです。</p> <p>この授業では、まず、1990年代以降に新しく登場してきた個々の会計基準をとりあげて、それぞれが①どういう出来事を、②どういう事実としてみなして、③財務諸表にどう表現しようとするのか、の3点について解説します。さらには、IFRS(国際財務報告基準)適用による会計ルールの世界標準化という動向についても取り上げます。</p>					
授業の進め方	教科書の内容を参照しながら、各会計基準の考え方の解説を行います。重要な制度変化については随時とりあげます。授業時には補足資料を配ります。配布した資料はweb上でも公開する予定です。					
達成目標	<p>(1) 個々の会計基準について、その目的と意味を理解できるようになること。 (2) 「経済的実態」という言葉の意味を説明できるようになること。 (3) 次々と設定されている新しい会計基準は、その利用者として地球規模で活動する巨大な多国籍企業が想定されています。様々な会計基準の考え方を理解しようと努めることで、グローバル企業の経営全般の知識についても自然と習得することができるでしょう。 (4) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、各種検定試験の合格につなげ、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>					
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 会計基準設定の国際的動向と概念フレームワーク 第3回 固定資産の減損の会計基準 第4回 リース取引の会計基準 第5回 研究開発費の会計基準 第6回 金融商品の会計基準 第7回 退職給付債務の会計基準 第8回 資産除去債務の会計基準 第8回 スtock・オプションの会計基準 第9回 税効果の会計基準 第10回 包括利益の会計基準 第11回 企業結合の会計基準 第12回 事業分離の会計基準 第13回 外貨換算の会計基準 第14回 連結財務諸表の会計基準 第15回 まとめ</p>					
履修上の注意	「会計学Ⅰ」はこの授業の前提となる基礎概念を身に付けるものであるため、前期に履修しておくことが望まれます。教科書は共通のものを使用します。各会計基準は文書として公表されているので、それらが掲載された法規集を手元に置いておくと、学習の際に有益です。なお「会計学Ⅰ」と同様に、電卓があると便利です。					
教科書	『財務会計入門(第3版)』田中建二著、中央経済社(2011年)					
参考書	『会計法規集』中央経済社編(順次改定されているので、その時点で手に入る最新版が望ましい) 『会計学講義(第4版第2刷)』醍醐聰著、東京大学出版会(2009年)					
成績評価方法	毎回の小レポート課題(20%)、および期末試験(80%)。					

科目名	簿記学 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0721	担当教員	柳井 正持	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	複式簿記の学習を通して、貸借対照表・損益計算書等、財務諸表の基礎的な理解力をつける。				
授業の進め方	講義と演習の繰り返して進める。				
達成目標	(1) 計数的合理的処理能力を養う。 (2) 複式簿記の基礎的な処理方法を理解する。 (3) 複式簿記の基礎的なシステムを理解する。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 オリエンテーション 第 2回 貸借対照表 第 3回 損益計算書 第 4回 勘定科目・・資産 負債 資本 第 5回 勘定科目・・収益 費用 第 6回 取引の処理・・・仕訳 総勘定元帳 転記 第 7回 演習・・・仕訳 転記 第 8回 演習・・・仕訳 転記 第 9回 補助簿について 第10回 演習 第11回 決算手続き 6桁精算表 第12回 演習 第13回 貸借対照表 損益計算書 第14回 演習 第15回 演習 まとめ				
履修上の 注意	初学者は、積み重ねの学習なので、休むと理解できなくなる。				
教科書	そのつどプリントを配布する。				
参考書	必要に応じて紹介する。				
成績評価方法	試験を重視し、演習内容をみて総合的に評価する。				

科目名	簿記学Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0722	担当教員	柳井 正持	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	○実務に対する応用力を身につけ、財務諸表等の理解を深める。 ○日本商工会議所簿記検定3級程度の力をつける。				
授業の進め方	講義と演習の繰り返して進める。				
達成目標	(1) 複式簿記の理解を深め、記帳能力を高める。 (2) 財務諸表等の理解を深める。 (3) 企業の財務内容を理解する。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 簿記手続きの一巡 第 2回 勘定科目・・・資産 負債 資本 第 3回 収益 費用 第 4回 補充簿への記帳 第 5回 主要簿と補助簿 第 6回 補助簿への記帳 第 7回 演習 第 8回 演習 第 9回 試算表 第10回 決算整理 貸倒償却 減価償却 決算仕訳 第11回 演習 第12回 8桁精算表 第13回 貸借対照表 第14回 損益計算書 第15回 演習 まとめ				
履修上の 注意	できるだけ休まないこと。 簿記Ⅰ・Ⅱは、内容的に連続しているので、Ⅰを履修していることが望ましい。				
教科書	そのつどプリントを配布する。				
参考書	必要に応じて紹介する。				
成績評価方法	試験を重視し(80%)、演習内容等を考慮しながら(20%)総合的に評価する。				

科目名	現代産業論 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0723	担当教員	青木宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>この授業では、日本にあるさまざまな産業について学びます。特に次の2つの視点からさまざまな産業の特徴を比較します。</p> <p>① 製品開発。企業や産業の発展にとって重要な要素の一つは、市場に受け入れられるような製品やサービスを生み出すことです。新しい製品やサービスが生み出される過程には産業ごとにパターンの違いがあります。</p> <p>② 経営戦略。経営戦略は産業構造に規定されます。どのような産業や企業で収益が上がるのかという問題を産業構造に着目して明らかにします。</p>				
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。				
達成目標	<p>(1) 企業の製品開発活動についての理解を深めること。</p> <p>(2) 効果的な製品開発パターンの産業間比較ができるようになること。</p> <p>(3) 経営戦略についての理論的枠組みを理解すること。</p>				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 日本における近代産業の発展史</p> <p>第2回 鉄鋼業の製品開発(1)</p> <p>第3回 鉄鋼業の製品開発(2)</p> <p>第4回 自動車産業の製品開発(1)</p> <p>第5回 自動車産業の製品開発(2)</p> <p>第6回 アパレル産業の製品開発(1)</p> <p>第7回 アパレル産業の製品開発(2)</p> <p>第8回 電器産業の製品開発(1)</p> <p>第9回 電器産業の製品開発(2)</p> <p>第10回 食品・医薬産業の製品開発(1)</p> <p>第11回 食品・医薬産業の製品開発(2)</p> <p>第12回 ポジショニングアプローチの経営戦略論(1)</p> <p>第13回 ポジショニングアプローチの経営戦略論(2)</p> <p>第14回 資源アプローチの経営戦略論(1)</p> <p>第15回 資源アプローチの経営戦略論(2)</p>				
履修上の注意	現代産業論 I と II の両方を受講すればより理解が深まりますが、どちらかだけでも受講に支障はありません。				
教科書	特になし				
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。				
成績評価方法	授業への参加(40%)、筆記試験(30%)、レポート(30%)などで評価します。				

科目名	現代産業論Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0724	担当教員	青木宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>この授業では、日本にあるさまざまな産業について学びます。特に次の3つの視点からさまざまな産業の特徴を検討します。</p> <p>① 職場レベルの能率がどのように管理されているのか。その管理パターン産業ごとの違いに注目します。 ② 日本企業の生産システムは諸外国とは異なる特徴があります。ここでは、製造業を中心に論じます。 ③ 日本の産業発展を支えた要因の一つである労使関係について学びます。</p>				
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。				
達成目標	<p>(1) 経営戦略についての理解を深めること。 (2) 職場レベルの能率管理についての理解を深めること。 (3) 生産システムと労使関係についての理解を深めること。</p>				
授業計画 (講義の具 体的内容)	<p>第1回 事業戦略の考え方(1) 第3回 事業戦略の考え方(2) 第4回 鉄鋼業の能率管理(1) 第5回 鉄鋼業の能率管理(2) 第6回 自動車産業の能率管理(1) 第7回 自動車産業の能率管理(2) 第8回 総合スーパーの能率管理(1) 第9回 総合スーパーの能率管理(2) 第10回 デパートの能率管理(1) 第11回 デパートの能率管理(2) 第12回 生産システム論(1) 第13回 生産システム論(2) 第14回 労使関係論(1) 第15回 労使関係論(2)</p>				
履修上の 注意	現代産業論ⅠとⅡの両方を受講すればより理解が深まりますが、どちらかだけでも受講に支障はありません。				
教科書	特になし				
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。				
成績評価方法	授業への参加(40%)、筆記試験(30%)、レポート(30%)などで評価します。				

科目名	統計学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0760	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	統計学を学ぶことで、データの分析結果を読み、自ら分析できる力を養う。				
授業の進め方	講義を中心に進める。理解を深めるため、問題演習を数多く行う。				
達成目標	(1) 平均、標準偏差などの統計用語を理解できるようになる。 (2) 初歩的なデータ分析を理解できるようになる。 (3) データ分析の背景にある統計学の基礎理論を理解できるようになる。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第1回 度数分布、平均 第2回 分散と標準偏差 第3回 標準偏差の意味(1) 第4回 標準偏差の意味(2) 第5回 正規分布、標準正規分布 第6回 推定 第7回 検定 第8回 区間推定 第9回 母集団、標本調査 第10回 大数の法則 第11回 中心極限定理 第12回 母平均の推定、片側検定、許容誤差 第13回 母分散が未知のときの母平均の推定(1) 第14回 母分散が未知のときの母平均の推定(2) 第15回 差の検定、比率の差の検定				
履修上の 注意	積極的に問題演習に取り組むこと。				
教科書	『完全独習 統計学入門』小島寛之著、ダイヤモンド社(2006年)、¥1,890				
参考書	特になし。				
成績評価方法	学期末試験(50%)と課題提出状況や授業への取り組み方(50%)により評価する。				

科目名	経営情報システム論		単位数	2	期別	後期
科目コード	F0761		担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	色々なアプリケーションを使用して、データの収集・整理・分析・発表をします。					
授業の進め方	情報処理実習室内における講義と実習。					
達成目標	(1)インターネットから、検索してデータの収集が出来る。 (2)Excelで、データの分析が出来る。 (3)PowerPointで、分析結果を発表する。					
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 オリエンテーション Windowsの基礎 第 2回 Windowsのファイル操作 第 3回 インターネットの基礎 第 4回 インターネットでのデータの収集をする 第 5回 データを整理する 第 6回 Excelの基礎 第 7回 データの整理 第 8回 データの分析 第 9回 データのグラフ化 第10回 画像の処理 第11回 パワーポイントの基礎 第12回 文字や画像を入力 第13回 アニメーションを使ってみる 第14回 プレゼンテーション作成 第15回 プレゼンテーションの発表					
履修上の 注意	文字入力とマウス操作が出来る方を対象とします。 自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。					
教科書	プリント配布。					
参考書	Web教材を授業内で使用します。					
成績評価方法	期末の試験(50%)、講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。					

科目名	経済学特殊講義Ⅱ		単位数	2	期別	後期
科目コード	F0762		担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	地域経済の源泉とされる中小企業を視点として、日本及び地域の産業政策について考察する。特に、①中小企業の過去、現在、②経済のグローバル化に伴う中小企業の課題、③地域経済の担い手としての中小企業への支援策などを主要な論点として、理解を深めたい。					
授業の進め方	講義形式とする。					
達成目標	(1) 中小企業の役割と中小企業の持つ多様性・多面性を理解するとともに、その可能性を学ぶ。 (2) 身近な存在として中小企業が存立し、地域経済の源泉として活動していることの意義を考え、理解する。 (3) 産業集積の意味を経済地理学的に考える。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 中小企業とは何か 第3回 日本経済の発展と中小企業 第4回 中小企業政策の展開 第5回 中小企業と下請システム 第6回 産業政策の現状の課題 第7回 地域中小企業と自治体産業政策 第8回 産業集積論①理論と事例 第9回 産業集積論②知識創造と学習 第10回 経済のグローバル化と中小企業 第11回 住工混在問題 第12回 ネットワークと中小企業 第13回 地域振興と中小企業金融 第14回 産業クラスターと中核・中小企業 第15回 まとめ					
履修上の注意	企業活動に興味・関心のある方の受講を期待しています。 私語や携帯電話の使用など講義を妨げる行為を禁じる。					
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。					
参考書	『中小企業・ベンチャー企業論』植田浩史他著、有斐閣コンパクト(2006) 『地域振興と中小企業』吉田敬一他編著、ミネルヴァ書房(2010)					
成績評価方法	期末レポート(80%)と講義への参加姿勢(20%)より評価する。					

科目名	政治学 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0770	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	民主主義諸国間の比較を通じて、政治制度の違いがどのようにして政策の違いをもたらすのか、について講義します。				
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。				
達成目標	(1)論理と根拠を持って政治現象を理解し、説明できるようになる。 (2)他国との比較を通じて、日本の政治制度の仕組みを理解する。 (3)政治制度の違いがどのようにして政策の違いをもたらすのかを理解する。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 オリエンテーション 第 2回 組織された集団 第 3回 大企業と政治(1回目課題配布) 第 4回 官僚と政治家(1回目課題提出) 第 5回 多元主義論と制度論 第 6回 多数決型とコンセンサス型 第 7回 選挙制度 第 8回 執政制度(2回目課題配布) 第 9回 政党制度(2回目課題提出) 第10回 議会制度 第11回 官僚制 第12回 司法制度 第13回 中央銀行制度(3回目課題配布) 第14回 中央・地方関係制度(3回目課題提出) 第15回 まとめ				
履修上の注意	政治学 I と政治学 II は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。				
教科書	使用しません。				
参考書	『はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに』北山俊哉・真淵勝・久米郁男著、有斐閣(2009年)；『比較政治制度論』建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史著、有斐閣(2008年)；『民主主義対民主主義—多数決型とコンセンサス型の36ヶ国比較研究』アレンド・レイプハルト著、粕谷祐子翻訳、勁草書房(2005年)など。				
成績評価方法	3回の課題提出(1回目は30%、2回目と3回目はそれぞれ35%)によって評価します。ただし、授業中、他の受講生の迷惑となる行為、(他の人の写しやインターネットからのコピー・ペーストなど)課題作成の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。				

科目名	政治学Ⅱ		単位数	2	期別	後期
科目コード	G0771		担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	政治学の最近の研究成果と日本政治経済のデータによりながら、選挙が政策に与える影響について講義します。					
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。					
達成目標	(1)論理と根拠を持って政治現象を理解し、説明できるようになる。 (2)有権者の投票行動や政党の選挙戦略を理解する。 (3)投票行動や選挙戦略が政策に与える影響を理解する。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 オリエンテーション 第 2回 選挙と分配政策 第 3回 浮動票と固定票(1回目課題配布) 第 4回 選挙制度と政策(1回目課題提出) 第 5回 政党の目的と形成 第 6回 政党組織 第 7回 自民党長期政権と集票戦略 第 8回 自民党の集票組織(2回目課題配布) 第 9回 選挙と人口の変動(2回目課題提出) 第10回 政治的景気循環 第11回 集票活動と補助金 第12回 利益誘導と政界再編 第13回 選挙制度改革と政策変化(3回目課題配布) 第14回 自民党政権と地域経済(3回目課題提出) 第15回 まとめ					
履修上の注意	政治学Ⅰと政治学Ⅱは、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。					
教科書	使用しません。					
参考書	『投票行動研究のフロンティア』山田真裕・飯田健著、おうふう(2009年)；『現代の政党と選挙』川人貞史、平野浩、吉野孝、加藤淳子著、有斐閣(2001年)；『自民党長期政権の政治経済学—利益誘導政治の自己矛盾』齊藤淳著、勁草書房(2010年)。					
成績評価方法	3回の課題提出(1回目は30%、2回目と3回目はそれぞれ35%)によって評価します。ただし、授業中、他の受講生の迷惑となる行為、(他の人の写しやインターネットからのコピー・ペーストなど)課題作成の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。					

科目名	政治史 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0781	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	近代国家の形成、発展、崩壊を中心に、戦前・戦中の日本政治史について講義します。				
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。				
達成目標	(1)論理と根拠を持って政治史を理解し、説明できるようになる。 (2)戦前・戦中の日本政治史を理解する。 (3)現在の政治状況を考える上で必要な政治史の知識を習得する。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 オリエンテーション 第 2回 西洋の衝撃と倒幕 第 3回 明治国家の形成(1)(1回目課題配布) 第 4回 明治国家の形成(2)(1回目課題提出) 第 5回 議会政治の定着(1) 第 6回 議会政治の定着(2) 第 7回 明治国家の特徴 第 8回 日清戦争と日露戦争(2回目課題配布) 第 9回 世界大戦(2回目課題提出) 第10回 政党政治と国際協調 第11回 軍部の台頭(1) 第12回 軍部の台頭(2) 第13回 太平洋戦争(3回目課題配布) 第14回 占領と講和(3回目課題提出) 第15回 まとめ				
履修上の 注意	政治史 I と政治史 II は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。				
教科書	使用しません。				
参考書	『日本政治史—20世紀の日本政治』天川晃・御厨貴著、放送大学教育振興会(2003年);『政党から軍部へ—1924～1941』北岡伸一著、中央公論新社(1999年)。				
成績評価方法	3回の課題提出(1回目は30%、2回目と3回目はそれぞれ35%)によって評価します。ただし、授業中、他の受講生の迷惑となる行為、(他の人の写しやインターネットからのコピー・ペーストなど)課題作成の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。				

科目名	政治史Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0782	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	自民党の政権運営を中心に、戦後の日本政治史について講義します。				
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。				
達成目標	(1)論理と根拠を持って政治史を理解し、説明できるようになる。 (2)戦後の日本政治史を理解する。 (3)現在の政治状況を考える上で必要な政治史の知識を習得する。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 オリエンテーション 第 2回 戦前の政党政治・占領下の政党政治 第 3回 保守合同への道(1回目課題配布) 第 4回 鳩山内閣と石橋内閣(1回目課題提出) 第 5回 岸信介と安保改定 第 6回 池田勇人と所得倍増計画 第 7回 佐藤栄作と沖縄返還 第 8回 田中角栄と列島改造(2回目課題配布) 第 9回 三木武夫と保守政治の修正(2回目課題提出) 第10回 福田赳夫と全方位外交 第11回 鈴木善幸と和の政治・中曽根康弘と日米同盟の強化 第12回 竹下登と税制改革 第13回 海部俊樹と湾岸戦争(3回目課題配布) 第14回 宮沢喜一と自民党政権の崩壊(3回目課題提出) 第15回 まとめ				
履修上の 注意	政治史Ⅰと政治史Ⅱは、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。				
教科書	使用しません。				
参考書	『自民党—政権党の38年』北岡伸一著、読売新聞社(1995年);『戦後と高度成長の終焉』河野康子著、講談社(2002年)。				
成績評価方法	3回の課題提出(1回目は30%、2回目と3回目はそれぞれ35%)によって評価します。ただし、授業中、他の受講生の迷惑となる行為、(他の人の写しやインターネットからのコピー・ペーストなど)課題作成の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。				

科目名	国際関係論Ⅱ		単位数	2	期別	前期
科目コード	G0790		担当教員	岩佐和幸	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	<p>多国籍企業の肥大化、移民労働者の増大、FTA・TPP構想の浮上、国際NGOの登場…グローバル化の進展とともに、従来の国家／国際関係が大きくゆらいでいます。本講義では、グローバル化と国際関係の変容について、特に途上国開発や南北問題の視点から紹介し、今後の課題を考えてみたいと思います。</p>					
授業の進め方	<p>基本的にはオーソドックスな講義形式を予定していますが、各回の最後に皆さんからの質疑応答や討論時間を設ける等、双方向型授業をできるだけ取り入れたいと考えています。</p>					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 国際関係論に関する基礎理論を理解する。 2 南北問題の歴史・現状について理解する。 3 グローバリゼーション下での国際関係や南北問題の現状について理解する。 					
授業計画 (講義の具体的内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 国際関係を見る視角：初期国際関係論の成立と展開 3 国際関係を見る視角：主流派理論への批判と代替理論の模索 4 国際関係を見る視角：国際関係論の新たな潮流 5 戦後世界体制と南北問題：植民地支配から開発主義へ 6 戦後世界体制と南北問題：パックス・アメリカナと途上国開発援助 7 多国籍企業の登場と世界経済のリストラクチャリング：途上国工業化と新しい国際分業 8 多国籍企業の登場と世界経済のリストラクチャリング：多国籍ブランド／女性労働者／反搾取工場運動 9 多国籍企業の登場と世界経済のリストラクチャリング：アグリビジネスと農業・農村の再編 10 労働市場のグローバル化と移民・難民問題：途上国農村の再編と労働力輸出 11 労働市場のグローバル化と移民・難民問題：先進国におけるマイノリティ形成とレイシズム 12 労働市場のグローバル化と移民・難民問題：「国際移民の時代」と日本 13 グローバリゼーション時代における国際関係：累積債務問題／構造調整／金融危機 14 グローバリゼーション時代における国際関係：WTO体制と途上国開発 15 グローバリゼーション時代における国際関係：グローバリゼーションと社会運動 					
履修上の注意	<p>様々な国際問題について、当事者的な関心を持って下さい。</p>					
教科書	<p>なし。</p>					
参考書	<p>第1回目に参考文献を紹介します。また、講義中にも随時指示する予定です。</p>					
成績評価方法	<p>基本的には期末テストで評価します(100点)。 その上で、授業への参加状況や小レポート等を組み合わせて(10～20点)、総合評価を行います。</p>					

科目名	歴史学	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0800	担当教員	小幡 尚	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	近代日本における「戦争と社会」について考察する。日本近代史の基礎的な流れを正確に把握した上で、軍・戦争が社会に与えたインパクトについて考える。				
授業の進め方	「戦争と社会」に関する諸研究を紹介していく。また、さまざまな関係史料を読む。				
達成目標	(1)日本近代史上の諸史実を正確に把握する。 (2)日本近代史上の諸史実の相互関係について理解する。 (3)日本近代史に対する関心を涵養する。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	<p>第1回 ガイダンス 今後の講義計画および履修上の留意事項などについて説明する。</p> <p>第2回目以降は、時代順に講じていく。また、講義に際してはさまざまな文献(関係史料を含む)も読んでもらう(プリントを配付する予定)。 大まかな予定は以下の通り(あくまで予定であり、状況により変化する可能性が高い)。</p> <p>第2回 明治維新と戊辰戦争 第3・4回 日清戦争 第5～8回 日露戦争 第9回 1次大戦 第10・11回 満州事変 第12・13回 日中戦争 第14・15回 アジア太平洋戦争</p>				
履修上の 注意					
教科書	使用するかどうかも含め未定。講義開始までには掲示等で告知する。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
成績評価方法	学期末に筆記試験を行ない、それによって評価する。ただし、状況によって変更もあり得る。				

科目名	社会保障・福祉論 I		単位数	2	期別	前期
科目コード	G0810		担当教員	田中きよむ	所属	高知県立大学社会福祉学部
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	社会保障各制度の基本的な内容や行財政構造の理解をふまえ、近年の政策的特徴を明らかにする。Iでは、少子・高齢化の社会状況をふまえ、高齢者介護と児童福祉の制度内容を理解するとともに、施策の構造的特徴を明らかにする。					
授業の進め方	基本的には、テキスト・板書とプリントによって講義を進める。 講義中の質問や意見は歓迎する。					
達成目標	(1) 社会保障の基本概念と体系、経済・財政との関係が理解できるようになる。 (2) 介護保険制度の導入背景と基本構造、制度改革の特徴について理解できるようになる。 (3) 少子化の背景と対応の基本的方向を学ぶ。 (4) 保育・児童虐待対策等の具体的な児童福祉制度の基本的構造と制度改革の特徴を理解する。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 福祉・社会保障の基本概念 第 2回 社会保障と経済・財政の基本的関係 第 3回 第3回社会保障の制度体系 第 4回 高齢化をめぐる社会状況と介護問題 第 5回 措置制度と介護保険 第 6回 介護保険制度の基礎構造 第 7回 介護保険法改正後の動向 第 8回 少子化をめぐる社会状況と要因 第 9回 少子化対応への基本的方向 第10回 保育所制度の沿革と行財政構造 第11回 保育所制度をめぐる政策動向 第12回 児童虐待の状況と要因 第13回 児童虐待をめぐる政策動向 第14回 児童諸手当の内容と改正動向 第15回 育児休業制度の内容と改正動向					
履修上の注意	下記の教科書を授業で使用するので、毎回、必携すること。なお、「社会保障・福祉論」IとIIの両方を受講することが望ましい。					
教科書	田中きよむ『少子高齢社会の社会保障論』(中央法規出版、2010年)					
参考書	講義のなかで、各テーマごとに紹介する。					
成績評価方法	学期末試験によって評価する。					

科目名	社会保障・福祉論Ⅱ		単位数	2	期別	後期
科目コード	G0820		担当教員	田中きよむ	所属	高知県立大学社会福祉学部
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	社会保障各制度の基本的な内容や行財政構造の理解をふまえ、近年の政策的特徴を明らかにする。Ⅱでは、年金・医療・障害者福祉の各分野に焦点を当て、その制度内容と構造的特徴を明らかにする。					
授業の進め方	基本的には、テキスト・板書とプリントによって講義を進める。 講義中の質問や意見は歓迎する。					
達成目標	(1)年金制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 (2)医療制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 (3)障害者福祉制度の構造と制度改革の内容を理解できる。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 年金保険制度の基本的しくみ1 第 2回 年金保険制度の基本的しくみ2 第 3回 年金制度改革の背景 第 4回 年金制度改革の特徴 第 5回 年金制度をめぐる今後の方向 第 6回 医療保険制度の基本的しくみ1 第 7回 医療保険制度の基本的しくみ2 第 8回 医療制度改革の背景 第 9回 医療制度改革の特徴 第10回 医療制度をめぐる今後の方向 第11回 障害の概念と障害者福祉の理念 第12回 社会福祉基礎構造改革の特徴 第13回 措置制度と支援費制度 第14回 障害者自立支援法の構造 第15回 障害者自立支援法の動向と今後の方向					
履修上の注意	下記の教科書を授業で使用するので、毎回、必携すること。なお、「社会保障・福祉論」ⅠとⅡの両方を受講することが望ましい。					
教科書	田中きよむ『少子高齢社会の福祉経済論』(中央法規出版、2010年)					
参考書	講義のなかで、各テーマごとに紹介する。					
成績評価方法	学期末試験によって評価する。					

科目名	社会思想史		単位数	2	期別	後期
科目コード	G0830		担当教員	森 直人	所属	高知大学 人文学部
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	この授業の目的は、第一に、17-18世紀の英国の歴史と思想家の著作を通じて近代の国家と市場についての基本的な考え方を理解すること、第二に、その理解に基づいて現代のグローバル社会の構造と問題について受講生自身が考えることです。国家と市場に関する近代的な理解は、西欧の歴史の中で、様々な思想の影響を受けながら形成されてきました。そのうちこの授業では、国家に関する近代的な理解の重要な源流として17世紀イングランドの社会契約論を、市場に関する近代的な理解の源流として18世紀スコットランドの文明社会論について解説します。					
授業の進め方	この授業は、質問受付の時間も取りつつ、基本的には講義形式で進めてゆきます。具体的には、前半では、トマス・ホッブズとジョン・ロックという二人の思想家に即して社会契約論を学び、後半ではデイヴィッド・ヒュームとアダム・スミスに即して18世紀の文明社会論を学びます。それぞれの思想家について三回分の授業を当て、基礎的な知識、歴史的な背景、生涯、思想の内容、そしてその思想の意義と問題について解説します。第一回は全体のオリエンテーションと前半の導入を行います。第八回は前半のまとめ、質問受付、レポート試験の説明、後半の導入を行い、第十五回に後半のまとめ、質問受付、全体のまとめを行います。					
達成目標	1)17世紀イングランドの社会契約論の内容を、思想的・歴史的背景とともに理解できるようになる 2)18世紀スコットランドの文明社会論の内容を、思想的・歴史的背景とともに理解できるようになる 3)上記の二点の理解に基づいて、現代のグローバル社会の構造や諸問題について思想史的な背景から考察し、自分なりの認識を提示できるようになる					
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第一回 導入:テーマ/授業計画/リーディング・リスト/成績評価の方法について</p> <p>第二回 トマス・ホッブズ(1):基礎知識/歴史的背景/生涯</p> <p>第三回 トマス・ホッブズ(2):人間理解と自然状態/自然法と信約</p> <p>第四回 トマス・ホッブズ(3):政治的な社会と絶対的な主権/ホッブズの思想の意義と問題</p> <p>第五回 ジョン・ロック(1):基礎知識/歴史的背景/生涯</p> <p>第六回 ジョン・ロック(2):人間理解と自然状態/同意と信託</p> <p>第七回 ジョン・ロック(3):政治的な社会と抵抗権/ロックの思想の意義と問題</p> <p>第八回 前半(社会契約論)のまとめ/質問受付/期末レポート試験の説明/後半(文明社会論)の導入</p> <p>第九回 デイヴィッド・ヒューム(1):基礎知識/歴史的背景/生涯</p> <p>第十回 デイヴィッド・ヒューム(2):人間理解と社会の形成/政治社会の成立</p> <p>第十一回 デイヴィッド・ヒューム(3):商業社会の発展/ヒュームの思想の意義と問題</p> <p>第十二回 アダム・スミス(1):基礎知識/歴史的背景/生涯</p> <p>第十三回 アダム・スミス(2):人間理解と社会のあり方/社会発展の四段階論</p> <p>第十四回 アダム・スミス(3):文明社会の構造/スミスの思想の意義と問題</p> <p>第十五回 後半(文明社会論)のまとめ/質問受付/全体のまとめ</p> <p>(※期末レポート試験によって成績評価を行うため、第十六回の期末試験は実施しない)</p>					
履修上の注意	各回の授業では、その回の授業の復習とレポート準備のための「ワークシート」を配布します。履修する学生は、各回の授業中に指示する資料を読み、その内容をワークシートにまとめ、そのワークシートを利用して期末レポートを作成してください。なお、レポートの作成に利用した各自のワークシートは、期末レポートの提出時に一緒に提出してください。					
教科書	講義は毎回配布するレジュメにしたがって行いますので、基本的に教科書の購入は不要です。					
参考書	<p>参考書については、第一回に配布するリーディング・リストにて詳しく指示します。リーディング・リストに記載予定の文献のうち、主な資料は以下の通りです。</p> <p>(1)基本的な用語・人名について ・廣松渉ほか編『岩波 哲学・思想事典』岩波書店、1998年。</p> <p>(2)17・18世紀英国の歴史について ・今井宏編『世界歴史体系 イギリス史2 —近世—』山川出版社、1973年。</p> <p>(3)17・18世紀英国の政治思想および社会思想について ・村松茂美・小泉尚樹・長友敬一・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ西洋思想——思想家たちとの対話——』ミネルヴァ書房、1994年。</p>					
成績評価方法	<p>成績評価の前提として、3分の2以上の出席がなければ単位認定を受けることはできません(ただし、出席それ自体は加点となりません)。期末レポート(100点)、およびレポート作成のためのワークシートの提出により、絶対評価・質的評価にて成績評価を行います。</p> <p>レポートの採点基準は、</p> <p>(1)講義で解説した内容を理解し、参考文献に基づいて、自分なりに表現できるか</p> <p>(2)思想史に関する理解を基に、現代の諸問題について自分の意見を表明できるか</p> <p>(3)レポートに必要な形式を備えているか</p> <p>の三点です。特に(3)について、「盗用(剽窃)」が判明した場合には、最低でも無効(0点)というペナルティとなりますので、十分に注意してください。</p> <p>なお、(1)および(3)についての判定材料として、期末レポートとともに、期末レポートのために各自で記入したワークシートを提出していただきます。</p>					

科目名	地方自治論 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0840	担当教員	霜田 博史	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	中央政府での政権交代や、「平成の大合併」や「三位一体の改革」、道州制論の隆盛など地方分権改革をめぐる状況がめまぐるしく変化し、地方自治のあり方が大きな転換期を迎えている。この授業は、私たちの生活や地域で重要な役割・機能を果たしている市町村・都道府県などの地方自治体・地方政府のあり方に関して、参加する学生がその基本的な制度・現状と歴史をしっかりと学ぶとともに、現状や課題を批判的に考えるための素材と機会を提供することが目的である。				
授業の進め方	毎回の授業内容を補足するために地方自治・地方分権に関することからや出来事に関する資料を含むレジュメを配布する。そのレジュメを使いながら講義形式で授業を進める。				
達成目標	(1)市町村や都道府県の役割・機能を中心とした地方自治(制度)のあり方と私たちの生活やくらしとの関係について、生活感覚に引きつけて具体的に理解できるようになる。 (2)明治以降の地方自治の歴史をしっかりと学び、理解ができるようになる。 (3)転換期の地方自治の内容とあり方に関して批判的に分析・考察ができるための基本的な知識・視点を獲得することができる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	各講義のテーマや項目は、以下の通りである。 進行の状況によって、内容と順序を変更することがある。 第1回 オリエンテーション 第2回 地方自治とは 第3回 日本の地方自治制度の概要 第4回 二元代表制と首長・執行機関 第5回 二元代表制と地方議会 第6回 地方財政の制度(1)自治体・地方政府の歳入と歳出 第7回 地方財政の制度(2)国・中央政府と地方・地方政府の関係 第8回 地方自治の歴史(1)明治維新と地方行政 第10回 地方自治の歴史(2)大正デモクラシーと地方自治 第11回 地方自治の歴史(3)新憲法と戦後の地方制度 第12回 地方自治の歴史(4)革新自治体の時代とその後 第13回 現在の地方分権改革の動向(1) 第14回 現在の地方分権改革の動向(2) 第15回 転換期の地方自治と私たちの生活				
履修上の注意	地方自治論 I、あるいは地方自治論 II の一方だけを受講することができる。ただし、履修上は両方を受講することが好ましい。				
教科書	使用しない。				
参考書	授業中に適宜指示します。				
成績評価方法	試験(学期末に行う1回:100%)				

科目名	地方自治論Ⅱ		単位数	2	期別	後期
科目コード	G0850		担当教員	霜田 博史	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	中央政府での政権交代や、「平成の大合併」や「三位一体の改革」、道州制論の隆盛など地方分権改革をめぐる状況がめまぐるしく変化し、地方自治のあり方が大きな転換期を迎えている。この授業は、私たちの生活や地域で重要な役割・機能を果たしている市町村・都道府県などの地方自治体・地方政府のあり方に関して、参加する学生がその基本的な制度と現状をしっかりと学ぶとともに、転換期における具体的な地方自治に関する制度改革の動向や重要な変化をフォローしながら現状や課題を批判的に考えるための素材と機会を提供することが目的である。					
授業の進め方	毎回の授業内容を補足するために地方自治・地方分権に関することがらや出来事に関する資料を含むレジュメを配布する。そのレジュメを使いながら講義形式で授業を進める。					
達成目標	(1)地方自治(制度)のあり方と私たちの生活や暮らしとの関係について、生活感覚に引きつけて具体的に理解できるようになる。 (2)近年の地方自治の制度改革の内容と動向をしっかりと学び、理解ができるようになる。 (3)転換期の地方自治の内容とあり方に関して批判的に分析・考察ができるための発展的な知識・視点を獲得することができる。					
授業計画 (講義の具体的内容)	各講義のテーマや項目は、以下の通りである。 学生の理解状況により、内容と順序を適宜に変更することもある。 第1回 オリエンテーション 第2回 地方自治とは 第3回 自治体経営と地域経営 第4回 内発的発展論 第5回 地方自治と地域経営:その背景(1) 第6回 地方自治と地域経営:その背景(2) 第7回 市民参加、NPOと行政の協働(パートナーシップ) 第8回 市町村合併、道州制と地方自治 第9回 地方自治と地方財政(1) 第10回 地方自治と地方財政(2) 第11回 地方自治と地方財政(3) 第12回 地方自治と地方財政(4) 第13回 地方自治と地方財政(5) 第14回 地方自治と地方財政(6) 第15回 講義の振り返りとまとめ					
履修上の注意	地方自治論Ⅰ、あるいは地方自治論Ⅱの一方だけを受講することができる。ただし、履修上は両方を受講することが好ましい。					
教科書	使用しない。					
参考書	授業中に関連するものを紹介します。					
成績評価方法	試験(学期末に行う1回:100%)					

科目名	社会学Ⅱ	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0880	担当教員	遠山 茂樹	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	コミュニケーションの社会学 社会学は現代の社会現象の実態やその原因を解明しようとする学問である。このような社会の実態や因果関係などを、人と人の相互作用やコミュニケーションという人間行為から捉えようとするのが本授業である。				
授業の進め方	授業は講義形式で行い、教科書に沿って進める。必要に応じ、こちらで準備したレジメを配布する。 授業中にも簡単な課題を与えることもある。 期末試験を実施する。				
達成目標	①コミュニケーションについて理解する ②コミュニケーションを通して、社会現象の様々な局面について社会学的視点から理解できるようなる。 ③日常生活におけるコミュニケーションに対しても自覚的になり、主体的に社会を理解する姿勢を身につける。				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>本授業では社会現象をコミュニケーションという相互作用からの視点で捉えようとする社会学について取り上げる。 具体的にはコミュニケーションの社会学とは何かを説明し、その後コミュニケーションの社会学でなにができるかについて、「対話として」「遊戯として」「非対称の」「フラット化する」コミュニケーションという視点から考察していく。</p> <p>授業計画としては以下の内容を予定している。</p> <p>第01回 コミュニケーションと社会学 第02回 対話と遊戯としてのコミュニケーション 第03回 パラドックスと接続としてのコミュニケーション 第04回 単独性とコミュニケーション 第05回 対話というコミュニケーション 第06回 権力というコミュニケーション 第07回 メディアというコミュニケーション 第08回 遊びと笑いというコミュニケーション 第09回 恋愛というコミュニケーション 第10回 友愛というコミュニケーション 第11回 家族というコミュニケーション 第12回 教育というコミュニケーション 第13回 ケアというコミュニケーション 第14回 フラット化するコミュニケーション 第15回 暴力と悪というコミュニケーション</p>				
履修上の注意	社会学Ⅰを履修していなくてもよい。				
教科書	長谷正人・奥村隆編『コミュニケーションの社会学』(有斐閣アルマ 2009年)				
参考書	濱嶋朗ほか編『社会学小辞典 新版増補版』(有斐閣 2005年) 森下伸也『社会学がわかる事典』(日本実業出版社 2000年)				
成績評価方法	2/3以上の出席を期末試験受験資格とする。 成績評価は、期末試験(70%)および講義中の課題(30%)などから総合的に評価する。				

科目名	ジェンダー論	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0890	担当教員	池谷 江理子	所属	高知工業高等専門学校
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	「ジェンダー」とは何か、なぜ「男女共同参画」が謳われるのか、ということについて論じます。歴史を垣間見、現代の労働現場に立ち入り、「ジェンダー」の意味と含蓄を明らかにしながら、偏見や先入観にとらわれない社会の在り方を一緒に考えたいと思います。少子化や貧困の問題についても取り上げます。				
授業の進め方	プリント等配布資料や画像を使い、主として講義形式で授業を行います。折にふれ、小テーマで意見交換やグループ討議を行います。毎回、小さなコメント用紙を配布します。意見や疑問等にぜひ利用してください。				
達成目標	(1)ジェンダーの意味内容を理解できるようになる。 (2)人類史とジェンダー概念の変容の概略を知る。 (3)就業や社会保障におけるジェンダー・ギャップの実態を知る。 (4)文化・教育におけるジェンダー・バイアスを知る。 (5)セクシャル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスの実態と背景を知る。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 ジェンダーとは？(オリエンテーション) 第2回 歴史にみるジェンダー 日本と西洋におけるジェンダー 第3回 同上 西洋の場合 第4回 同上 日本の場合 第5回 仕事、就業とジェンダー 就業にみる男女格差 第6回 同上 男女賃金格差の実態と背景 第7回 同上 間接差別、ガラスの天井等 第8回 社会保障とジェンダー 制度におけるジェンダー・バイアス 第9回 同上 年金とジェンダー 第10回 育児とジェンダー 少子化を考える・合計特殊出生率の推移と背景 第11回 同上 国際比較からみた育児とジェンダー、育児休業と子育て支援 第12回 教育、メディア、文化とジェンダー 学校とジェンダー、メディアに登場するジェンダー 第13回 同上 文化とジェンダー 第14回 セクシャル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスとジェンダー 実態と背景、課題 第15回 私たちのつくる今後の社会とジェンダー(授業のまとめ)				
履修上の注意	日常の生活や日頃の意識と密接に関わるテーマです。批判的に聴講し、積極的に意見を発表し、自由に議論をたたかわせてほしいと希望します。				
教科書	授業時にはプリントを用意するほか、適宜、文献・資料を紹介します。プロジェクターを使い画像や写真等を利用して理解を深めるようにします。				
参考書	井上輝子他『岩波女性学事典』(岩波書店、2002年)、4800円。独立行政法人国立女性教育会館『男女共同参画統計データブック2006』(ぎょうせい、2006年)、2381円。井上輝子他『女性のデータブック(第4版)』(有斐閣、2005年)、3200円 など。				
成績評価方法	レポート評価を主とします(90%程度)が、講義や討論への参加状況、各種提出物等を加味(10%程度)し、総合的に評価します。				

科目名	地域史	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0900	担当教員	公文 豪	所属	高知近代史研究会、土佐史談会、高知市立自由民権記念館非常勤資料整理員
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>講義テーマ:「植木枝盛の思想と自由民権運動」 植木枝盛は、土佐が生んだ自由民権運動最高の理論的指導者で、日本における代表的な民主主義思想家である。彼が起草した憲法草案は今日の日本国憲法に大きな影響を及ぼし、家庭改革・女性解放論は現在の男女共同参画社会の先駆的思想といえるほど画期的内容に満ちあふれていた。この授業では、福沢諭吉・中江兆民など同時代の思想家と対比しながら36年の生涯と思想をたどり、土佐の自由民権運動が残したゆたかな遺産、植木枝盛という思想家の仕事を通じて、平和、人権、民主主義の基本理念を学ぶ。</p>				
授業の進め方	毎回、レジュメにもとづき講義する。				
達成目標	(1) 自由民権運動の思想と歴史を理解する。 (2) 人類が到達した自由と人権思想の本質をつかむ。 (3) 日本における憲法と議会政治の成り立ちを理解する。 (4) 植木枝盛という人物を通じて高知県の歴史について関心を高め、高知の歴史風土への愛着と誇りをつちかう。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 植木枝盛の生涯 第 2回 植木枝盛の自由民権論 第 3回 地方自治論 第 4回 女性参政権 第 5回 平和思想の系譜① 第 6回 平和思想の系譜② 第 7回 植木枝盛の憲法構想 第 8回 植木枝盛の憲法草案と日本国憲法の関係 第 9回 自由教育論 第10回 社会改良論 第11回 家族制度からの解放① 第12回 家族制度からの解放② 第13回 植木枝盛と女性民権家 第14回 三大事件建白運動と植木枝盛 第15回 国会議員としての活動				
履修上の注意	出席をとります。参考書通読のこと。				
教科書	レジュメを用意します。				
参考書	家永三郎編『植木枝盛選集』(岩波文庫 1974年、798円)				
成績評価方法	レポート提出。評価は、レポート90%、講義への参加姿勢(出席)10%。				

科目名	平和学	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0960	担当教員	青木宏治	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	現代には戦争、暴力、紛争は各地で起きていますし、起きる可能性のあるところも多い。それらの原因、対応としての解決策、日本の取るべき立場などを平和構築の立場から検討する。日本国憲法9条の立場を基本とすることの現実性や普遍性を確かめる。				
授業の進め方	授業計画に従ってテーマに沿って資料、史料などを読み、理解を深める。テーマの単元のまとめとしてグループディスカッションを行うなど、発信、参加型の時間を設定する。				
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦争、暴力、紛争などを報じるメディアに関心をもつこと。 2. 歴史の中での戦争の実相、原因などを考える。 3. 世界の平和への取り組みや日本国憲法の平和主義の意義、実践を理解する。 				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 オリエンテーション:平和学とは何か。授業スケジュールなど。 第 2回 第2次世界大戦と日本国憲法の平和主義の原点 第 3回 戦争・暴力・紛争を考えるーナチズムと民族虐殺 第 4回 戦争・暴力・紛争を考えるー東西冷戦と核戦争 第 5回 戦争・暴力・紛争を考えるー9・11テロとアフガン・イラク戦争 第 6回 戦争・暴力の正当化論についてディスカッション 第 7回 日本国憲法と日米安保体制の桎梏・矛盾 第 8回 自衛隊とその活動の範囲と日本国憲法 第 9回 国際連合憲章と平和原則 第10回 日本国憲法の平和原則についてのディスカッション 第11回 平和構築の規範的根拠ー日本国憲法、国際連合憲章、世界人権宣言等 第12回 核軍縮問題ー核軍縮条約、非核三原則など 第13回 ノーベル平和賞やその受賞者たち 第14回 平和構築に取り組む運動ー9条の会、国境なき医師団など 第15回 暴力廃止を含む平和構築の実践についてディスカッション				
履修上の注意	授業期間中に2, 3冊の著書を必読とする。その文献はリストを配布する。				
教科書	必読文献を授業開始直後に指定する。				
参考書					
成績評価方法	期末試験70%、ディスカッションのまとめレポート15%、出席15%とする。人数が多く出席確認困難の場合には変更あり。				

科目名	西洋近現代史	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0970	担当教員	柳川平太郎	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	20世紀前半のヨーロッパ史を中心にした西洋現代史概論				
授業の進め方	主として、山川出版社刊『歴史から今を知る――大学生のための世界史講義』(2010年9月)後半部の代表的項目を選びながら、各回配布の資料に基づいて講義形式の授業を行う。その際、出来る限りビデオ映像資料を活用する方針。				
達成目標	(1) 政治学・政治史にとって重要な諸概念(ファシズム等)を理解できるようにする。 (2) イギリス・フランス・ドイツなど各国国民国家の比較を通して、各国の特質を把握する。 (3) 現代社会の理解にとって重要な大恐慌や大戦などの分析から、20世紀史の特質を学ぶ。				
授業計画 (講義の具体的内容)	以下の諸項目を中心に検討を行うが、本年度は特に池上彰「20世紀を見に行く」やNHK「映像の世紀」などの映像資料を参考にして、授業をすすめる予定。 第1回 西洋現代史の対象と時代区分 第2回 序論 ホブズボームの20世紀論とその意義 第3回 前提 帝国主義の時代 第4回 第一次世界大戦 第5回 ロシア革命とソビエト連邦の成立 第6回 ジャズエージ―1920年代におけるアメリカ合衆国の繁栄 第7回 大恐慌とニューディール政策 第8回 ヴェルサイユ体制とワイマール共和国―その問題点 第9回 ナチズムの成立と発展 第10回 「ファシズム」の時代 第11回 第一次世界大戦後のフィンランドとバルト三国、ポーランド 第12回 第一次世界大戦後の中近東―「パレスチナ問題」の歴史的起源 第13回 第二次世界大戦の勃発 第14回 ホロコースト 第15回 ポーランドとバルト三国のその後				
履修上の注意	高等学校地歴必修世界史(世界史A程度で可)の基礎知識を前提とするが、毎回当該領域の高校教科書プリントを配布するので、未履修でも可。				
教科書	購入の必要はないが、上杉忍他(編)『歴史から今を知る――大学生のための世界史講義』(山川出版社、2010年)の一部を参考にする。				
参考書	エリック・ホブズボーム、河合秀和訳『20世紀の歴史―極端の時代』上・下(三省堂、1996年)				
成績評価方法	各回出席時の応答や積極的参加姿勢と課題レポートを半々に評価する				

科目名	環境論		単位数	2	期別	後期
科目コード	G0980		担当教員	北條正司 保坂哲郎	所属	高知大理学部(北條) 高知大人文学部名誉教授(保坂)
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	世界的な金融危機・経済同時不況の中でも、あるいはそれを解決していくためにも新しい経済・社会に向けた、環境に配慮した新産業構造や社会・生活のあり方が模索されている。環境汚染、特に水質汚染の実態や仕組み、エネルギー争奪戦の実情を理解し、その中からどのような新しい仕組みが生まれ、世界的な温暖化規制を打ち出せるのだろうか。現状を分析しながら、世界的な環境問題解決を目指す模索を自然科学、および社会科学の視点から考える。					
授業の進め方	半期(15週)の講義であるが、前半を北條が担当し、後半を保坂が担当する。北條は教科書を使い、保坂はレジュメ等を使った講義になる。					
達成目標	(1) 現在の大きな環境問題である温暖化防止や水質汚染問題に深い関心を持つ。 (2) 自然科学と社会科学の視点から最新の成果を理解する。 (3) 今後の地球環境問題解決の課題を明確に理解する。					
授業計画 (講義の具体的内容)	前半(北條担当)は、自然科学の立場から水質汚染および地球環境問題について講義する。 後半(保坂担当)は、社会科学の立場から、生物多様性問題や地球温暖化問題に関連する世界のエネルギー事情、各国の新エネルギー政策と産業、日本の新政策の特徴について講義する。 前半 第1回 バイオエネルギー(アルコール発酵)の重要性 第2回 地球と水 第3回 水の循環と利用 第4回 産業排水による水質汚染 第5回 生活排水による水質汚染 第6回 水道水と健康について 第7回 地球温暖化のメカニズム 後半 第8回 生物多様性条約をめぐる国際協議(1) 第9回 生物多様性条約をめぐる国際協議(2) 第10回 生物多様性条約をめぐる国際協議と名古屋議定書 第11回 地球温暖化防止条約をめぐるEUのエネルギー政策 第12回 地球温暖化防止条約をめぐる米国のエネルギー政策 第13回 地球温暖化防止条約をめぐる中国のエネルギー政策 第14回 地球温暖化防止条約をめぐる日本のエネルギー政策 第15回 授業のまとめ					
履修上の注意	出席をとります					
教科書	前半:北條正司・能勢 晶(共著)「酒と熟成の化学～響きあう水とアルコール」(光琳、2100円)					
参考書	授業時にそれぞれ紹介します。					
成績評価方法	成績評価は、前半と後半の平均点を基にします。 前半は受講態度(40%)とレポート(50%)、小テスト(10%)などを評価します。 後半は受講態度(50%)と、試験(50%)にもとづいて総合的に評価します。					

科目名	外書講読I	単位数	2	期別	前期
科目コード	H0990	担当教員	松吉 明子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	日米英中心に世界で起こっている諸問題に関するエッセイを読み、英文読解力を養成します。4年制大学の3年次編入試験に対応した力をつけることを目指し、文章の要旨が理解できるよう、多くの英文を読む練習をします。				
授業の進め方	辞書を使えばある程度の長さの文章を読む英語の基礎力があることを前提に、1回に2つの文章を読むペースで授業を進めていきます。質問がしやすいように、質問の時間を設けます。				
達成目標	(1)基本的な英語の読解力をつける。 (2)読んだ内容に関して自分の考えを少しでも英語で表現できるようになる。 (3)国によって違う様々な考え方や習慣を知り、異文化に対する理解を深める。				
授業計画 (講義の具体的内容)	Lesson 1. オリエンテーション America: School ID tag, Japan: School trip Lesson 2. Britain: New pub hours, the World: Soudi Arabia Debates Lesson 3. America: Hero Hackers, Japan: Women-only Train cars Lesson 4. Britain: New Kind of Masculinity, the World: Cambodian Cows Lesson 5. America: Horror Flicks, Japan: a Whale of a Cooking Class Lesson 6. Britain: Man U Fans Unhappy, the World: Help for the Homeless Lesson 7. 前半のまとめと復習 Lesson 8. America: Parents Go on Strike, Japan: Keeping a Dementia at Bay Lesson 9. Britain: the World According to the iGeneration, the World: Baby-making in Asia Lesson 10. America: Spelling Contest, Japan: Time for Daylight Saving Lesson 11. Britain: the Debate over Children, the World: the Power of Names Lesson 12. America: Only in America, Japan: Old Acquaintance Lesson 13. Britain: Ethnic Minorities, the World: What the World Need Now Part 1 Lesson 14. the World: What the World Need Now Part 2 Lesson 15. 後半のまとめと復習				
履修上の注意	英語中辞典、または電子辞書を必ず持ってきてください。				
教科書	『The World at a Glance America, Japan, Britain, and the World 世界事情拝見』 Richard Best, 田中 保、福島 昇 著、南雲堂 (2006年出版)				
参考書	英文法の参考書(以前使用していた参考書可)				
成績評価方法	授業中の課題やタスク(20%)と試験(80%)など、総合的に評価します。				

科目名	外書講読Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1000	担当教員	寺田 博	所属	元高知短期大学教授
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	「外書講読」は4年制大学への「編入」をめざすものを対象としています。したがって授業では英語の文章を「正確」に読み、それを的確な日本語に「翻訳」することをめざします。ですから、単に英語の単語を日本語の単語に置き換えるということではなく、「日本語」で「正しく表現」することが求められます。				
授業の進め方	授業では毎回、あらかじめ英文を配布し、各自に担当箇所を割り当てます。受講生は予習として翻訳した上で授業に参加することが必要です。そして、授業では各自の翻訳してきた文章を全員で検討するという方法をとります。 また、授業時間の初めにはメールで配信される英字新聞から最新記事の概要をコピーしたものを配布し、その場で読んで翻訳してもらいます。				
達成目標	(1) 英文を音読させることで発音に対する関心と自覚をもたせる。 (2) 正しく発音できないことは英語を聞き取ることができないということを理解させる。 (3) きちんと辞書を引くことを身につけるようにする。 (4) 英単語の訳を機械的に選択するのではなく、どの訳語が適切であるかを英文全体の文意を考えながら選択できる力をつけるようにする。 (5) 英文を翻訳するということは、日本語の表現能力を高めることであることを理解させる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 外書講読Ⅱのオリエンテーション 第2回 日本語の考え方、英語の考え方① 第3回 日本語の考え方、英語の考え方② 第4回 日本語の世界、英語の世界① 第5回 日本語の世界、英語の世界② 第6回 著名な演説を英語で読む① 第7回 著名な演説を英語で読む② 第8回 英字新聞を読む① The New York Timesの記事を読む① 第9回 英字新聞を読む② The New York Timesの社説を読む② 第10回 英字新聞の記事を読む③ The New York TimesのOpinion欄を読む① 第11回 英字新聞の記事を読む④ The New York TimesのOpinion欄を読む② 第12回 英字雑誌の記事を読む⑤ 第13回 社会科学の英文を読む 第14回 編入試験の問題を翻訳する 第15回 まとめ				
履修上の注意	(1) 外書講読Ⅰとの連携はありません。 (2) 対象者は主として編入希望者となりますが、必ずしもそれに限定しません。英文を読むことに関心のある人も積極的に受講してください。				
教科書	教科書は使いません。				
参考書	なし				
成績評価方法	通常の授業における英語の力、努力を主として評価の基準とします。試験はどれくらい翻訳する力がついたのかを確認するために行います(受講態度40%、試験60%)。				

科目名	キャリアデザイン	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1010	担当教員	柳井 正持	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	自分の生き方と職業との関係について学ぶ。				
授業の進め方	プリントと新聞記事等を資料とし、質疑意見等含めて進める。				
達成目標	(1) 働くことの意味を確認する。 (2) 職業や経済社会について学ぶ。 (3) 自己理解を深め職業と自己実現・生きがいについて学ぶ。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 オリエンテーション アンケート 第 2回 職業とは何か・・・職業の考え方 第 3回 職業のさまざまな側面 職業観の移り変わり 第 4回 職業と社会 第 5回 職業的規範 第 6回 個人と職業 第 7回 自己と職業のかかわり 第 8回 自己理解の意味 第 9回 自己理解の方法 第10回 職業選択の意味 第11回 職業選択と自己理解 第12回 職業への適応 第13回 労働の人間化 第14回 自己実現と職業・生き方 第15回 職業をめぐる今日的な課題				
履修上の 注意	この授業では、より良い職業的自立のために必要な知識を講義する。				
教科書	そのつどプリント等を配布する。				
参考書	必要に応じて紹介する。				
成績評価方法	試験(80%)・レポート・発表等(20%)を考慮しながら総合的に評価する。				

科目名	社会人基礎力養成講座		単位数	2	期別	前期
科目コード	H1011		担当教員	坂本 ひとみ	所属	ほほえみクリエイト(キャリアコンサルタント)
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	様々な角度からの自己分析をとおして、自分の価値観を知り、「強み」「弱み」を知る。また、社会の状況を知り、「求められている人材とは？」について考え、自分とのGAPを分析する。そこから、将来や職業観について考えていく。					
授業の進め方	ワークシート、グループディスカッションを含めた授業の展開					
達成目標	(1)自らの将来を考える機会を提供し、キャリア設計力を高める。 (2)「自分らしい就職・進学」のための戦略を考える。 (3)職業観の形成を支援し、基礎力の向上を図る。					
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 オリエンテーション キャリアとは？ 第 2回 ワークキャリアとライフキャリア 第 3回 価値観発見 自分らしさを知る 第 4回 自己分析 第 5回 コミュニティとコミュニケーション 第 6回 現代社会とキャリア 第 7回 社会を知る 今求められている能力 第 8回 世界、日本、高知を知る 第 9回 業界、職種、組織を知る 第10回 職場の環境と職場の現象 第11回 人材マネジメントの戦略 第12回 キャリア開発 第13回 履歴書と自己PR 第14回 ビジネスマナー 第15回 まとめ 自分らしい生き方・働き方					
履修上の 注意	この授業では、より良い職業的自立のために必要な知識を講義します。					
教科書	プリント等の配布					
参考書	必要に応じて紹介する					
成績評価方法	レポート(70%)・発表(30%)等を総合的に評価する					

科目名	消費生活論		単位数	2	期別	後期
科目コード	H1012		担当教員	関根猪一郎(才)	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	消費生活に関する基礎知識を提供するとともに、「自立した消費者」として行動するのに必要な法律・経済・環境問題等の知識を体系的に講義します。					
授業の進め方	講義レジュメに基づき、講義方式で行います。この科目は複数の講師によるオムニバス方式を採用します。					
達成目標	<p>(1)消費生活に関する基礎知識を身につけ、消費にかかわる情報を自ら収集・選択できる「自立した消費者」として行動できる力を養成すること。</p> <p>(2)消費生活専門相談員の資格を獲得するための基礎的力量を身につけること。</p> <p>(3)消費にかかわる経済問題と法律問題、さらには環境問題等を関連付けて理解すること。</p>					
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>講義はオムニバス形式で、各回毎に独立したテーマが講義されます。講師はテーマ毎に、その分野の専門家が担当します。</p> <p>第1回 ガイダンス 消費者問題概論 第2回 経済の仕組みと消費生活～税金・物価・社会保障・保険～ 第3回 公正な競争の確保のために～独禁法・景表法～ 第4回 消費生活に必要な民法の知識 第5回 消費生活に必要な消費者契約法の知識 第6回 消費生活に必要な特定商取引法の知識 第7回 消費生活に必要な割賦販売法の知識 第8回 消費生活とお金に関する知識 第9回 金融商品に関する基礎知識 第10回 情報通信サービスに関する基礎知識 第11回 製品の安全性 第12回 裁判所の活用 第13回 食品の安全と表示の諸問題 第14回 環境問題に関する基礎知識 第15回 消費者政策と法の対応</p>					
履修上の注意	公開講義ですので、在学生だけでなく、一般の方も受講できます。また、科目等履修生として受講することもできます。					
教科書	毎回、講義レジュメを配布します。					
参考書	講義のなかで紹介します。					
成績評価方法	毎回の講義終了後、10分程度で感想を書いていただきます。また、単位認定希望者には、これとは別に2000字程度のレポートを提出していただく予定です。成績評価は、これらの提出物を総合して評価します。評価の基準は、感想文50%、レポート評価50%とします。					

科目名	社会科学演習 I・II		単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020		担当教員	田中康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	この演習では、刑法各論のトピックスを事例問題を通して取り扱っていきます。					
授業の進め方	刑法各論のトピックスに関する事例問題を各自取り上げ、問題点や罪責の有無等を報告し、それを他の履修者と共に議論していきます。					
達成目標	(1)刑法各論の知識を事例研究に応用する力を身につけること。 (2)議論することを通じて、各自の考察を深めること。 (3)自分の考察した問題について文章で表現できるようにすること。					
授業計画 (講義の具 体的内容)	<p>この演習では、受講生各自が具体的な刑事の事例問題を取り上げ、自分なりの答えを見つけた後で、報告し、受講生全員で討議することで、よりよい解決方法を見つけていこうとするものです。議論を通じて自分の考えをさらに練り上げ、それをレポートに反映することができるようになることを目標とします。</p> <p>裁判員制度が始まりました。わたし達は刑事事件の解決について自らの考えを提示していかなければなりません。この演習がその一助になることを願います。</p> <p>第1回 はじめに 第2回 生命・身体に対する罪(1) 第3回 生命・身体に対する罪(2) 第4回 自由に対する罪(1) 第5回 自由に対する罪(2) 第6回 自由に対する罪(3) 第7回 経営基盤を侵す罪 第8回 窃盗罪(1) 第9回 窃盗罪(2) 第10回 強盗罪(1) 第12回 強盗罪(2) 第13回 詐欺罪 第14回 恐喝罪 第15回 横領罪</p> <p>以上はあくまでも目安です。参加人数や議論の活発さによって進度は異なっていきます。</p>					
履修上の 注意	与えられた課題を十分に検討してください。特別な場合を除き、出席し、議論に参加してください。					
教科書	課題はプリントを配布します。					
参考書	執筆者等は指定しませんが、刑法総論及び各論の教科書を参照してください。					
成績評価方法	報告40%、議論などへの参加30%、レポート30%					

科目名	社会科学演習 I・II		単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020		担当教員	根岸忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	本演習では、労働法や社会保障法に関する最新の論文の検討を行う。最新の理論を検討することをおして、どのような点がいま社会で問題となっているかを理解し、法的知識の涵養を目指す。					
授業の進め方	演習形式により、各自が関心をもつ問題を扱っている論文に関して、学生が毎回報告することによって授業を行うこととする。					
達成目標	(1)データベースなどを用いて効率的に文献を調べる方法を学ぶ。 (2)資料を収集し、報告することができるようになる。 (3)報告者の報告の内容を理解した上で、議論に参加できるようになる。					
授業計画 (講義の具体的内容)	以下の授業計画は例であって、受講生の関心によって適宜変更することはありうる。 第 1回 はじめに 第 2回 非正規労働者をめぐる問題 第 3回 平成22年雇用保険法改正 第 4回 生活保護制度をめぐる今日的課題 第 5回 介護保険法改正と障害者自立支援制度 第 6回 労働契約法の意義 第 7回 高齢者医療をめぐる問題 第 8回 ワークライフバランスと労働基準法、育児介護休業法改正 第 9回 障害者権利条約と障害者差別禁止 第10回 少子高齢化と公的年金 第11回 企業年金の減額・廃止 第12回 ひとり親家庭と社会手当 第13回 労働条件の決定と変更 第14回 児童虐待をめぐる法制度 第15回 まとめ					
履修上の注意	労働や社会保障に関心のある者であれば、事前の知識の有無は問わない。					
教科書	とくに指定しない。					
参考書	授業中に適宜紹介する。					
成績評価方法	報告の内容(70%)、議論への参加度合い(30%)から評価する。					

科目名	社会科学演習 I・II		単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020		担当教員	大井方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	労働経済学、ミクロ経済学に関連する問題として、競争、公平、労働市場に関する問題を扱う。					
授業の進め方	演習形式で進める。具体的には、毎回、教科書や参考書の一部を、一人あるいは複数の受講生が報告し、その報告をもとに参加者全員で討論する。					
達成目標	(1)労働経済学に関する課題を把握する。 (2)ミクロ経済学に関する課題を把握する。 (3)現実の経済の中で労働経済学、ミクロ経済学に関する問題を展望する。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 教科書の輪読 I 競争嫌いの日本人(1) 第3回 教科書の輪読 I 競争嫌いの日本人(2) 第4回 教科書の輪読 II 公平だと感じるのはどんなときですか?(1) 第5回 教科書の輪読 II 公平だと感じるのはどんなときですか?(2) 第6回 参考書Aの輪読 第1章 再分配問題へのアプローチ(1) 第7回 参考書Aの輪読 第1章 再分配問題へのアプローチ(2) 第8回 参考書Aの輪読 第8章 幸福度と所得格差－幸福研究的アプローチ 第9回 教科書の輪読 III 働きやすさを考える(1) 第10回 教科書の輪読 III 働きやすさを考える(2) 第11回 参考書Bの輪読 第1章 なぜ今、労働市場の改革が必要なのか(1) 第12回 参考書Bの輪読 第1章 なぜ今、労働市場の改革が必要なのか(2) 第13回 参考書Bの輪読 第8章 非正社員重視のセーフティネット改革(1) 第14回 参考書Bの輪読 第8章 非正社員重視のセーフティネット改革(2) 第15回 まとめ *参考書は、受講生の希望により変更することがある。					
履修上の注意	「経済学 I」を受講済みであることが望ましい。					
教科書	『競争と公平感』大竹文雄、中公新書(2010年)、819円					
参考書	A『再分配の厚生分析』小塩隆士、日本評論社(2010)、3、675円(購入の必要はない) B『労働市場改革の経済学』八代尚宏、東洋経済新報社(2009)、2、310円(購入の必要はない)					
成績評価方法	報告の内容(50%)と議論への参加状況(50%)により評価する。					

科目名	社会科学演習 I・II		単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020		担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	生活者の視点から財政学を学ぶ力と興味を醸成するとともに、自治体破綻のケースメソッドを通して、地域と住民への影響を考察し、財政規律の重要性を学ぶ場としたい。					
授業の進め方	演習形式とする。					
達成目標	(1) 生活と価格が密接に結びついていることを確認する。 (2) 自治体破綻の現状と課題を把握する。 (3) 日本財政の今後を展望する。					
授業計画 (講義の具 体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 レジュメの書き方 第3回 教科書Aの輪読 第1章: ペットボトルのお茶はコンビニとスーパーのどちらで買うべきか 第4回 教科書Aの輪読 第2章: テレビやデジカメの価格がだんだん安くなるのはなぜか 第5回 教科書Aの輪読 第3章: 大ヒット映画のDVD価格がどんどん下がるのはなぜか 第6回 教科書Aの輪読 第4章: 携帯電話の料金はなぜ、やたらに複雑なのか 第7回 教科書Aの輪読 第5章: スターバックスではどのサイズのコーヒーを買うべきか 第8回 教科書Aの輪読 第6章: 100円ショップの安さの秘密は何か 第9回 教科書Aの輪読 第7章: 経済格差が、現実にはなかなか是正できないのはなぜか 第10回 教科書Aの輪読 第8章: 子どもの医療費の無料化は、本当に子育て支援になるか 第11回 教科書Bの輪読 第2章: 財政論からの考察 第12回 教科書Bの輪読 第3章: 組織論からの考察①財政再建の意思決定 第13回 教科書Bの輪読 第3章: 組織論からの考察②トップのリーダーシップ 第14回 教科書Bの輪読 第4章: 夕張市の財政破綻 第15回 まとめ					
履修上の 注意	経済や財政に関心があることが望ましい。また、受講生の活発な発言を期待している。					
教科書	A『スタバではグランデを買え！—価格と生活の経済学』吉本佳生著、ダイヤモンド社(2007)。 B『自治体破たん・「夕張ショック」の本質—財政論・組織論からみた破たん回避策—』橋本行史著、公人の友社(2007)。					
参考書	適宜、講義資料を配布する。					
成績評価方法	報告レジュメの内容(50%)と議論への貢献度(50%)から評価する。					

科目名	社会科学演習 I・II	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	最近、話題になっている首相のリーダーシップ、ねじれ国会(参議院の問題)といったテーマについて検討します。				
授業の進め方	演習形式で進めます。具体的には、下の参考書を用いて、毎回担当者を決め、その担当者が担当部分を要約を報告し、それに対して担当教員が解説を行います。				
達成目標	(1)論理と根拠を持って政治現象を理解し、説明できるようになる。 (2)首相がリーダーシップを発揮できる条件について理解する。 (3)ねじれ国会、参議院の問題について理解する。				
授業計画 (講義の具体的内容)	前半は、首相のリーダーシップ、後半は、参議院の問題について検討する。 第1回 オリエンテーション 第2回 構造改革と官邸主導の政策決定 第3回 不良債権問題 第4回 官邸主導の予算編成 第5回 税制改正 第6回 2005年総選挙 第7回 金融政策の転換 第8回 小泉改革の成果と限界 第9回 参議院の見方・吉田茂と参議院 第10回 松野鶴平と重宗雄三 第11回 河野謙三 第12回 55年体制の崩壊と参議院 第13回 「首相支配」と参議院 第14回 再可決の時代 第15回 参議院の役割				
履修上の注意	担当部分を要約する際、わからない部分が多く出てくると思いますが、どの部分がどのようにわからなくて、わからないなりにどのように考えたのか、を明確にするよう心がけてください。				
教科書	使用しません。				
参考書	『小泉改革の政治学—小泉純一郎は本当に『強い首相』だったのか』上川龍之進著、東洋経済新報社(2010年)、『参議院とは何か—1947～2010』竹中治堅著、中央公論新社(2010年)、この2冊を使用し、上のテーマについて検討します。				
成績評価方法	報告内容(50%)と授業への参加態度(50%)によって評価します。				

科目名	社会科学演習Ⅲ (1年後期進路ゼミ)	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	専任教員複数名	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えるていく基礎的な力として、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理的な文章を書く能力、的確なコミュニケーションを行う能力を育成する。これは短大における学びをより深いものとし、卒業後の四年制大学への編入や就職につながる力を養成するものとしても位置づけられる。				
授業の進め方	受講希望者は複数のゼミに別れ、それぞれ1人の教員の下で、演習形式の学習を進める。受講生が自ら読み、書き、話し、聞く作業を通して、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行い、添削等の指導を行う。				
達成目標	(1) 読解力の養成を基礎に、小論文・レポートなど比較的短い文章を論理的に書けるようになること (2) 話す、聞くという基本的なコミュニケーションが的確に行えるようになること (3) 現代社会の問題を考える上での基礎的知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (4) 自分自身をじっくり見つめ、自己表現する力をのばすこと (5) 四年制大学編入学試験や就職試験にも対応できる力を育てる				
授業計画 (講義の具体的内容)	演習は概ね次の4の要素で構成される。①学生による小論文作成と教員による添削・講評、②文章の書き方講座、③現代社会の基礎知識理解、④自らを見つめ表現する。 ①がこの演習の基本となる。教員が社説の要約などの課題を提示し、学生がそれに関して小論文を作成し、教員がその添削、講評を行う。多くの場合、小論文作成は授業時間外の宿題となるので学生にとってはハードな作業が続くことになるが、それだけ力をつける絶好の機会となる。 ②では原稿用紙の使い方、句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説し、③では「環境税」、「格差問題」、「裁判員制度」、「ハブ空港」など、現代社会を読み解くためのキーワードを的確にとらえるようにしていく。 ④では、自分自身を見つめ、表現するために、自分の好きな言葉、学ぶ意味、将来の目標などをテーマにコミュニケーション能力を高める。 この4つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。				
履修上の注意	編入や就職を目指す学生は1年次に受講することが望ましい。 受講生は労を惜まず、課題に取り組むことが何よりも重要である。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	演習で適宜指示す。				
成績評価方法	各担当教員から説明がある。				

科目名	社会科学演習Ⅳ (2年前期進路ゼミ)	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	専任教員複数名	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	この演習では、編入試験を受験する上で必要なスキルを習得することを目指す。具体的には、長文読解力、文書作成能力および面接における自己表現力の養成を目指す。				
授業の進め方	演習形式で進める。具体的には、受講生には、編入試験問題の解答や志望理由書の作成を課し、提出されたものに基づいて、検討や質疑応答をしながら進める。また、同時に提出された課題の添削を行う。				
達成目標	(1)編入試験に対応できる長文読解力を身につける。 (2)編入試験に対応できる文章作成能力を身につける。 (3)編入試験に対応できる面接における自己表現力を身につける。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	以下の授業計画は一例です。実際の授業計画については各担当教員から説明があります。 第1回 オリエンテーション 第2回 長文要約(1) 第3回 長文要約(2) 第4回 学習分野分析―何を学ぶか 第5回 志望校分析―どこで学ぶか 第6回 志望理由書の書き方(1) 第7回 志望理由書の書き方(2) 第8回 志望理由書に基づく面接練習 第9回 編入試験過去問対策(1) 第10回 編入試験過去問(2) 第11回 編入試験過去問(3) 第12回 時事問題(1) 第13回 時事問題(2) 第14回 時事問題に関する面接練習 第15回 まとめ				
履修上の 注意	各担当教員から説明があります。				
教科書	(同上)				
参考書	(同上)				
成績評価方法	(同上)				

科目名	地域政策演習		単位数	6	期別	通年
科目コード	SA010		担当教員	福田善乙	所属	高知短期大学名誉教授
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	この授業では、高知県内外の商店街の元気の源を分析することによって、高知の商店街のこれからのあり方について学びます。高知県にも元気で頑張っている商店街があります。例えば、高知市の万々商店街やはりまや商店街、四万十市の商店街などです。この商店街や行政の実際を調査・聞き取りし、商店街の元気やあり方についてまとめます。					
授業の進め方	フィールドワークを行います。					
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分でテーマを設定し、調査・ヒアリングする能力を身につける。 ② 調査・ヒアリングしたことをまとめ政策化する能力を身につける。 ③ まとめたことを発表する。 					
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第 1回～第10回 地域づくりについて基本的なことを学ぶ。</p> <p>第11回～第20回 高知県外の商店街から学ぶ。</p> <p>第21回～第30回 高知県内の商店街から学ぶ。</p> <p>第31回～第40回 フィールドワークを行います。</p> <p>第41回～第45回 フィールドワークで得たデータを整理します。</p> <p>第46回～第50回 フィールドワークの補足を行います。</p> <p>第51回～第60回 調査結果を論文にまとめます。</p>					
履修上の注意	フィールドワークに参加すること。					
教科書	特になし					
参考書	授業時間内に参考になる図書を紹介します。					
成績評価方法	授業への参加姿勢(50%)およびレポート(50%)で総合的に評価します。					

科目名	地域政策特講 I		単位数	2	期別	前期
科目コード	SA020		担当教員	今城逸雄	所属	高知大学特任講師 地域協働教育学部門
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	買い物難民問題を通して、地域政策を考える力を養成します。					
授業の進め方	この授業はゼミ形式で行い、フィールドワークを予定しています。					
達成目標	(1) 高齢化社会における流通問題について説明することができる。 (2) 高齢化社会により起こりうる、中山間地及び中心市街地問題を予測することができる。 (3) 地域政策を考える力を身に着けることができる。					
授業計画 (講義の具 体的内容)	まず買い物難民が生じることとなった原因を概観します。 その後、サンプラザが買い物不便地域で営業している移動販売車「ハッピーライナー」の体験乗車を行い、運営者と地域住民の生の声や実態を調査します。 さらに他の事例も踏まえ、それらから浮かび上がる諸問題を一緒に議論しながら、高齢化社会における地域政策を考えていきます。 この授業は課題に対して、受講生自らが考え、意見交換をすることで本当の問題は何かを見つけ出していく授業です。 第1回 全体のガイダンス 第2回～6回 買い物難民問題の概観 1. 購買行動の変化 2. 商業の実態把握 3. 商業政策の問題 4. 交通・都市政策の問題 5. 人口の波の問題 第7回～10回 フィールドワーク 1. ハッピーライナーの実態調査 2. 調査結果をもとに討論 ※体験乗車の結果をミニレポートとして発表。 3. 他大学の調査報告(予定) 4. サンプラザ担当者との意見交換 第11回～13回 フィールドワーク 1. 他の買い物支援事例の調査 2. 調査をもとに討論 3. 地域政策の考察 第14回 調査・考察結果の発表 ※最終レポートをベースとした発表 第15回 まとめ					
履修上の 注意	フィールドワークは土曜日に予定していますが、日程は受講者と受入先の都合を考慮して決めます。受講生の人数によりグループワークとなる場合があります。					
教科書	特定の教科書は使用しません。					
参考書	授業中に適宜紹介します。					
成績評価方法	ミニレポート(20%)、最終レポート(30%)、授業中の討論(50%)					

科目名	地域財政論		単位数	2	期別	後期
科目コード	SA040		担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	国家的な財政難、地方分権の進展から、地域の存立が大きな課題となっている。しかし、地域を支える地方交付税が崩壊の危機にあり、制度の変革を求められている。本講義では、地方財政の現状と地方交付税制度の意義を考察する中で、問題点の把握と地方交付税制度のあり方を検討したい。					
授業の進め方	講義形式とする。					
達成目標	(1) 地方財政の現状を理解する。 (2) 地方交付税制度の枠組みを把握する。 (3) 経済学的視点から問題点を考察する。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 地方交付税の視角①地方と都市 第3回 地方交付税の視角②交付税を巡る議論 第4回 地方交付税制度①目的と機能 第5回 地方交付税制度②交付税額の現実 第6回 国庫補助金と地方財政 第7回 補助金制度の実態と予算編成 第8回 地方交付税のミクロ的誘因効果 第9回 地方交付税のマクロ的誘因効果 第10回 地方交付税制度の改革 第11回 三位一体の概要 第12回 税源移譲 第13回 独自財源と地方税 第14回 地方交付税制度の課題と可能性 第15回 まとめ ※指定教科書の内容に則して議論を進める。また、理解を深めるために、適宜指定参考書も活用する。					
履修上の注意	持続可能な地域づくりや自治体財政に関心があることが望ましい。					
教科書	『地方交付税の経済学』赤井伸郎他著、有斐閣(2003)					
参考書	『基本から学ぶ地方財政』小西砂千夫著、学陽書房(2009)					
成績評価方法	期末レポート(80%)と講義への参加姿勢(20%)より評価する。					

科目名	貿易論特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SA060	担当教員	細居俊明	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>貿易論特講は、地域経済にとって、地域外との交易(地域間交易)の意味を検討します。地域間交易には、その地域と外国との交易(貿易)を含むだけでなく、その地域と同じ国内の、他の地域(都道府県など)との取引を含みます。地域間交易の視点から、グローバル化の中での、地域経済再生の条件を考えていきます。今年度はTPP(環太平洋経済連携協定)に焦点をあて、日本と地域経済にとってどのような意味をもつかをじっくりと考えていくことにします。</p>				
授業の進め方	<p>演習形式で行います。主に受講生からの報告を中心に、議論しながら学習を進めます。</p>				
達成目標	<p>(1) WTOルールと地域貿易協定との関連を整理してとらえる。 (2) TPP(環太平洋経済連携協定)について基本的理解を深める。 (3) 地域経済にとってTPPがどのような意味をもつのか、検討すべき問題を理解する。</p>				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>概ね、次のような項目を順に取り上げて問題を深めていく予定ですが、受講生と相談して学習内容を確定していきます。取り上げる文献を指定し、それを受講生が持ちまわりでレポートをする形で進めます。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 WTO(世界貿易機構)と地域貿易協定① 第3回 WTOと地域貿易協定② 第4回 TPP(環太平洋経済連携協定)とは何か① 第5回 TPPとは何か② 第6回 TPP賛成論① 第7回 TPP賛成論② 第8回 TPP反対論① 第9回 TPP反対論② 第10回 TPP参加国と日本① 第11回 TPP参加国と日本② 第12回 EU(欧州連合)とTPP 第13回 農業再生の課題とTPP 第14回 日本経済の課題とTPP 第15回 まとめ</p>				
履修上の注意	<p>積極的に参加する姿勢が求められます。</p>				
教科書	<p>特に指定しません。</p>				
参考書	<p>文献は適宜紹介します。</p>				
成績評価方法	<p>毎回の授業での受講生によるレポート(80%)を基本に、授業への参加姿勢(20%)を加味して総合的に評価します。</p>				

科目名	地方政治論	単位数	2	期別	前期
科目コード	SA080	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	政党、特に自民党の集票活動が、地方政治や経済にどのような効果をもたらしてきたのか、また、それがどのように変化したのか、について検討します。				
授業の進め方	演習形式で進めます。具体的には、毎回担当を決め、その担当者が担当部分を要約を報告し、それに対して担当教員が解説を行います(第1回と第2回は、講義形式で進めます)。				
達成目標	(1)論理と根拠を持って政治現象を理解し、説明できるようになる。 (2)政党の集票活動と地方政治経済の関係について理解する。 (3)政党の集票活動とそれを取り巻く地方政治経済の環境がどのように変化したのかを理解する。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 オリエンテーション 第 2回 自民党長期政権と地方政治 第 3回 自民党型集票組織 第 4回 選挙戦略と人口変動(1) 第 5回 選挙戦略と人口変動(2) 第 6回 選挙と支持率(1) 第 7回 選挙と支持率(2) 第 8回 中央から地方への補助金(1) 第 9回 中央から地方への補助金(2) 第10回 自民党と地方のインフラ(1) 第11回 自民党と地方のインフラ(2) 第12回 政界再編と地方のインフラ 第13回 選挙制度改革 第14回 自民党と地方経済 第15回 市町村合併と選挙				
履修上の注意	担当部分を要約する際、わからない部分が多く出てくるとは思いますが、どの部分がどのようにわからなくて、わからないなりにどのように考えたのか、を明確にするよう心がけてください。				
教科書	使用しません。				
参考書	『自民党長期政権の政治経済学—利益誘導政治の自己矛盾』齊藤淳著、勁草書房(2010年)。その他は、授業中に紹介します。				
成績評価方法	報告内容(50%)と授業への参加態度(50%)によって評価します。				

科目名	社会調査論		単位数	2	期別	前期
科目コード	SA085		担当教員	畠中 洋行	所属	特定非営利活動法人 NPO高知市民会議
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	住民参加による住まいづくり・まちづくり・地域づくりの実践現場での経験をふまえ、こどもから高齢者まで、いろいろな人と人との関係性を紡ぎだしていくプロセスにおける、社会調査の意義やあり方を具体的に考察し、実践的な方策を見いだす力を養うことを目的とします。					
授業の進め方	様々な事例を映像で紹介し、その内容をふまえて、受講生の考えや意見等を引き出しながら、方向性を整理していく進め方を考えています。					
達成目標	(1) 地域・まちに存在するヒト・モノ・コトの魅力を発見、感じる視点の持ち方に気づいてもらう (2) 地域・まちに存在する様々な課題に対し、「何でだろう？」と疑問を持ってもらう (3) 上記の魅力をどうすればもっと魅力的なものにできるか、課題を解消するにはどのように取り組んでいけばいいかについて、少しでも理解が深まるようになる					
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 北方地区のまちづくり(住民参加による住環境改善)事例にみる地域の魅力と課題点のを見つけ方について 第3回 県営住宅若草南団地の建て替えにみる、居住者参加方式による取り組みとコミュニティ形成のあり方について 第4回 公益信託「高知市まちづくりファンド」による助成の事例にみる、市民による多様なまちづくり活動のあり方について 第5・6・7回 赤岡のまちづくりにおける、ソフトなしくみづくり、絵金蔵・弁天座といったハード整備の取り組み事例にみる、赤岡のまちのヒト・モノ・コトの魅力の発見と活かし方について 第8・9・10・11回 みかづきガリバーマップづくり、夢の住まいまちづくり教室、ミニ・ミュンヘン、「とさっ子タウン」の事例にみる、「こどもとまち」という視点の持ち方等について 第12回 「ちょびっとJAPAN映像祭」「210秒の中の高知」の事例にみる、映像という手法を介したまちの魅力のとらえ方(切り口)について 第13・14回 高知市市民活動サポートセンターの取り組み事例にみる、市民活動・NPOの現状と今後の課題等について 第15回 授業のまとめ					
履修上の注意	特になし					
教科書	講義レジュメ及び関連資料の配布					
参考書	同 上					
成績評価方法	講義への参加姿勢(70%)、各事例を聞いたうえでのコメントあるいはレポート(30%)などから総合的に判断する。					

科目名	憲法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB090	担当教員	小林直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	憲法に関する正確な知識を修得し、かつ、そのことを前提に諸論点を考察していく。				
授業の進め方	通常の講義形式で行う。ただし、受講生にテーマを課して、報告を求めることもある。				
達成目標	(1)憲法に関する正確な知識を修得する。 (2)憲法の諸論点に関する判例・学説を理解する。 (3)上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、憲法に関する諸論点について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 インTRODクシヨN(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 司法審査の概念と限界について 第3回 戦争放棄について 第4回 国会・内閣について 第5回 財政について 第6回 地方自治について 第7回 憲法改正について 第8回 人権の概念について 第9回 プライバシー権について 第10回 信教の自由と政教分離原則について 第11回 思想・良心の自由、および大学の自治について 第12回 表現の自由について 第13回 経済的自由、および社会権について 第14回 人身の自由、国務請求権、参政権について 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題について				
履修上の注意	受講生の希望に応じて、講義の進め方や内容については、変更があり得ます。また、受講生のなかに、行政書士試験や公務員試験(地方上級・国家Ⅱ種レベル)の受験希望者がいた場合には、受講生の希望に応じて、場合によっては、ある程度、試験対策を意識した講義にします。				
教科書	なし。				
参考書	講義中に適時、あげていきます。				
成績評価方法	複数回の報告(60%)、および講義への参加姿勢など(40%)から総合的に評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、報告および講義への参加姿勢などからの評価で、60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。				

科目名	行政法特講		単位数	2	期別	後期
科目コード	SB110		担当教員	小林直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	行政法に関する正確な知識を修得し、行政法に関する諸論点を考察する。					
授業の進め方	通常の講義形式で行う。ただし、受講生にテーマを課して、報告を求めることもある。					
達成目標	(1) 行政法における基礎概念を正確に理解する。 (2) 行政に関する諸制度を正確に理解する。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、現代の行政法に関する諸問題について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 インTRODクシヨN(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 行政法と民法との関係について 第3回 法治主義について 第4回 行政裁量について 第5回 行政立法について 第6回 行政行為の効力などについて 第7回 行政上の強制執行、および制裁について 第8回 行政契約、行政指導、および行政調査について 第9回 行政手続について 第10回 情報公開制度などについて 第11回 原告適格、および訴えの利益について 第12回 違法な公権力行使に基づく国家賠償責任の要件について 第13回 営造物の設置・管理の瑕疵に基づく国家賠償責任の要件について 第14回 損失補償について 第15回 これまでの講義の補足説明					
履修上の注意	受講生の希望に応じて、講義の進め方や内容については、変更があり得ます。また、受講生のなかに、行政書士試験や公務員試験(地方上級・国家Ⅱ種レベル)の受験希望者がいた場合には、受講生の希望に応じて、場合によっては、ある程度、試験対策を意識した講義にします。					
教科書	なし。					
参考書	講義中に適時、あげていきます。					
成績評価方法	複数回の報告(60%)、および講義への参加姿勢など(40%)から総合的に評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、報告および講義への参加姿勢などからの評価で、60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。					

科目名	民事法特講	単位数	4	期別	通年																																																																											
科目コード	SB120	担当教員	桑原尚子	所属	高知短期大学																																																																											
連絡先	電話																																																																															
	E-mail																																																																															
授業概要 (テーマ等)	民法(財産法)に関連する問題について考える。																																																																															
授業の進め方	演習形式で行う。具体的には、毎回担当者を決め、教科書等の担当部分を要約し、報告する。判例報告については、中田裕康、潮見佳男、道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権 第6版』(有斐閣、2009年)掲載の判例のうちから受講者が選んだものを報告するものとする。																																																																															
達成目標	(1)民法の制度趣旨を理解して、具体的事案に、その制度の射程が及ぶかを考えることができるようになる(民法における基本的な思考方法を身につける)。 (2)民法(財産法)の体系的理解が定着する。 (3)判例および判例に対する学説について理解できるようになる。																																																																															
授業計画 (講義の具体的内容)	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第16回</td> <td>判例報告:総則</td> <td>一般条項</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>1 民法を学ぶ前に</td> <td>第17回</td> <td>判例報告:総則</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>2 原則としての契約の自由(1)</td> <td>第18回</td> <td>判例報告:総則</td> <td>法人</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>2 原則としての契約の自由(2)</td> <td>第19回</td> <td>判例報告:総則</td> <td>物</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>3 いろいろな契約 1(1)</td> <td>第20回</td> <td>判例報告:総則</td> <td>法律行為</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>4 いろいろな契約 1(2)</td> <td>第21回</td> <td>判例報告:総則</td> <td>代理</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>4 いろいろな契約 2</td> <td>第22回</td> <td>判例報告:総則</td> <td>無効および取消し</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>5 契約の履行</td> <td>第23回</td> <td>判例報告:総則</td> <td>条件</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>6 契約の不履行と履行の強制</td> <td>第24回</td> <td>判例報告:総則</td> <td>時効</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>7 不良債権の回収(1)</td> <td>第25回</td> <td>判例報告:物権</td> <td>物権総則</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>7 不良債権の回収(2)</td> <td>第26回</td> <td>判例報告:物権</td> <td>占有権</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>8 物権とその取得</td> <td>第27回</td> <td>判例報告:物権</td> <td>所有権</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>9 各種の物権(1)</td> <td>第28回</td> <td>判例報告:物権</td> <td>留置権</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>9 各種の物権(2)</td> <td>第29回</td> <td>判例報告:物権</td> <td>先取特権</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>10 不法行為など</td> <td>第30回</td> <td>判例報告:物権</td> <td>抵当権</td> </tr> </table>					第1回	オリエンテーション	第16回	判例報告:総則	一般条項	第2回	1 民法を学ぶ前に	第17回	判例報告:総則	人	第3回	2 原則としての契約の自由(1)	第18回	判例報告:総則	法人	第4回	2 原則としての契約の自由(2)	第19回	判例報告:総則	物	第5回	3 いろいろな契約 1(1)	第20回	判例報告:総則	法律行為	第6回	4 いろいろな契約 1(2)	第21回	判例報告:総則	代理	第7回	4 いろいろな契約 2	第22回	判例報告:総則	無効および取消し	第8回	5 契約の履行	第23回	判例報告:総則	条件	第9回	6 契約の不履行と履行の強制	第24回	判例報告:総則	時効	第10回	7 不良債権の回収(1)	第25回	判例報告:物権	物権総則	第11回	7 不良債権の回収(2)	第26回	判例報告:物権	占有権	第12回	8 物権とその取得	第27回	判例報告:物権	所有権	第13回	9 各種の物権(1)	第28回	判例報告:物権	留置権	第14回	9 各種の物権(2)	第29回	判例報告:物権	先取特権	第15回	10 不法行為など	第30回	判例報告:物権	抵当権
第1回	オリエンテーション	第16回	判例報告:総則	一般条項																																																																												
第2回	1 民法を学ぶ前に	第17回	判例報告:総則	人																																																																												
第3回	2 原則としての契約の自由(1)	第18回	判例報告:総則	法人																																																																												
第4回	2 原則としての契約の自由(2)	第19回	判例報告:総則	物																																																																												
第5回	3 いろいろな契約 1(1)	第20回	判例報告:総則	法律行為																																																																												
第6回	4 いろいろな契約 1(2)	第21回	判例報告:総則	代理																																																																												
第7回	4 いろいろな契約 2	第22回	判例報告:総則	無効および取消し																																																																												
第8回	5 契約の履行	第23回	判例報告:総則	条件																																																																												
第9回	6 契約の不履行と履行の強制	第24回	判例報告:総則	時効																																																																												
第10回	7 不良債権の回収(1)	第25回	判例報告:物権	物権総則																																																																												
第11回	7 不良債権の回収(2)	第26回	判例報告:物権	占有権																																																																												
第12回	8 物権とその取得	第27回	判例報告:物権	所有権																																																																												
第13回	9 各種の物権(1)	第28回	判例報告:物権	留置権																																																																												
第14回	9 各種の物権(2)	第29回	判例報告:物権	先取特権																																																																												
第15回	10 不法行為など	第30回	判例報告:物権	抵当権																																																																												
履修上の注意	すでに民法を履修していること。参加者全員が事前に該当部分を読んでおくこと。																																																																															
教科書	(1)道垣内弘人『ゼミナール民法入門』第4版、日本経済新聞出版社、2008年。(第1回～第15回の授業で使用します)																																																																															
参考書	授業中に適宜指定します。																																																																															
成績評価方法	授業への参加態度(30%)および報告内容(70%)により評価します。																																																																															

科目名	刑事法特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB130	担当教員	田中康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	刑法各論の分野を中心に講義を行います。				
授業の進め方	初回の授業で受講生と協議して、決定しますが、現段階では講義をするとともに、法学検定の問題を解いていこうと思います。				
達成目標	(1) 刑法の基本原則を理解すること (2) 各犯罪領域の特性を理解すること (3) 各犯罪の構成要件を理解すること				
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1回 はじめに 授業方法の確認 第 2回 生命・身体に対する罪(1) 第 3回 生命・身体に対する罪(2) 第 4回 自由に対する罪(1) 第 5回 自由に対する罪(2) 第 6回 人格的法益に対する罪 第 7回 経営的基盤に対する罪 第 8回 財産犯総論 第 9回 盗取罪 第10回 詐欺・横領の罪 第11回 横領・背任の罪 第12回 盗品に関する罪・毀損罪 第13回 公共の安全に対する罪 第14回 公共の信用に対する罪 第15回 刑法各論の諸問題 これはあくまでも目安に過ぎず、受講者の希望によっては別の刑事法に関する問題(例えば、有罪確定後の犯罪者の処遇問題など)を取り扱ったり、刑法総論の問題を取り扱ったりします。				
履修上の注意	できるだけ、出席し、発言してください。				
教科書	プリントを配布します。				
参考書	著者等については、特に指定しませんが、刑法総論のテキスト				
成績評価方法	報告内容(80%)、受講態度(20%)を総合して評価します。				

科目名	社会法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB140	担当教員	根岸忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	社会法を構成する法分野のうち、労働法と社会保障法に関して、これら法領域に関する最新の論文を読むことをとおして、どのようなことがいま社会で問題となっているかを理解し、法的知識の涵養を目指す。				
授業の進め方	あるテーマについて、2週つづけて検討するが、1週目には教員がそのテーマについて制度の仕組みやいかなる問題があるかに関して述べ、その授業の終わりに、次回に議論する上で読んでほしい文献を提示する。それを受けて、2週目には先に指定された文献をもとに受講者全員で議論する。				
達成目標	(1)論文の内容を正確に読むことができるようになる。 (2)相手の意見を理解した上で、議論に参加できるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	以下の授業計画は例であって、受講生の関心によって適宜変更することはありうる。 第 1回 はじめに 第 2回 介護保険法改正と障害者自立支援制度(1) 第 3回 介護保険法改正と障害者自立支援制度(2) 第 4回 高齢者医療をめぐる問題(1) 第 5回 高齢者医療をめぐる問題(2) 第 6回 少子高齢化と公的年金(1) 第 7回 少子高齢化と公的年金(2) 第 8回 企業年金の減額・廃止(1) 第 9回 企業年金の減額・廃止(2) 第10回 平成22年雇用保険法改正と非正規労働者(1) 第11回 平成22年雇用保険法改正と非正規労働者(2) 第12回 生活保護制度をめぐる今日的課題(1) 第13回 生活保護制度をめぐる今日的課題(2) 第14回 障害者権利条約と障害者差別禁止(1) 第15回 障害者権利条約と障害者差別禁止(2)				
履修上の注意	法に関する学習をすでに行っていることが望ましいが、雇用や社会保障に関心がある者であれば、事前の知識の有無は問わない。				
教科書	とくに指定しないが、小型の法令集を毎回持参してもらいたい。				
参考書	開講時に指示する。				
成績評価方法	議論への参加の度合いによって評価する。				

科目名	不動産法	単位数	2	期別	集中
科目コード	SB150	担当教員	竹村 克彦	所属	竹村克彦事務所
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	不動産に関わる法律全般を受講者の学習進度に合わせ進め、土地家屋調査士、宅地建物取引業主任者等の資格試験に結びつく講義内容とする。				
授業の進め方	不動産を取り巻く法律を実務レベルの視点から、希望する資格試験に対応する項目に可能な限り結び付けた講義を目指し、講師である私も受講生と共に学ぶ姿勢で進めたい。				
達成目標	<p>(1) 不動産を取巻く法規について、実務の中でどのように作用しているかなどの概要を理解する。</p> <p>(2) 特に不動産登記記録を調査する基礎的な知識を修得する。</p> <p>(3) 土地利用に関して、用途の転用、権利の移転、また、単に建物を建築するなどの場合、不動産の法的、並びに、物理的な状況を把握する基礎知識を修得する。</p>				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>関係法令の重要条文の解説、並びに実務における条文の解釈に重点を置く。</p> <p>第1回～第6回 不動産登記法（表示に関する登記） 立法趣旨（制度の役目・表示に関する登記の基本・手続き概要） 筆界に関する項目（概念・変遷・実務上の取扱・関係する制度） 測量に関する項目（測量技術の変遷・測量精度の考え方）</p> <p>第7回～第8回 都市計画法（開発許可に関する内容・用途地域に関する内容）</p> <p>第9回 農地法（農地の転用・農地の権利移転）</p> <p>第10回 土地区画整理法（法的効果・登記法との関係）</p> <p>第11回～第12回 建築基準法（基礎知識・実務における取扱）</p> <p>第13回～第14回 事例研究</p> <p>第15回 授業のまとめ</p>				
履修上の注意	民法第2編(物権)に関する知識がベースとなるので、予習をされていることが望ましい。広範囲にわたる内容となるので復習を励行し、意欲的に受講していただきたい。				
教科書	特になし。必要に応じてレジュメを配布する。				
参考書	不動産登記法：農地法：建築基準法：宅地建物取引業法：都市計画法等が掲載されている六法				
成績評価方法	<p>講義内容に関するレポート、並びに、授業態度による。</p> <p>【レポート内容の評価】 レポートにより講義内容の理解度を評価する。 講義終了後1週間以内に、講義内容に関するものを提出。(1200字以上)</p> <p>【授業態度】 講義内での質問の内容、参加姿勢により評価する。</p> <p>【評価比率】 レポート内容：60% 授業態度：40%</p>				

科目名	商事法特講		単位数	4	期別	通年
科目コード	SB160		担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	私たちの日常生活と深く関連している企業取引と法について講義します。					
授業の進め方	講義・演習を併用した形式で進めます。					
達成目標	(1) 商取引の特殊性について理解する。 (2) 各種企業取引の概要について理解する。 (3) 企業取引と法規制についてわかる。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 商法概論 第2回 商人間の売買1(国内売買) 第3回 商人間の売買2(契約の成立) 第4回 商人間の売買3(国際売買) 第5回 消費者売買1(消費者契約) 第6回 消費者売買2(販売信用取引) 第7回 消費者売買3(特定商取引 総論) 第8回 消費者売買4(訪問販売の規制) 第9回 消費者売買5(通信販売の規制) 第10回 消費者売買6(特定継続的役務提供の規制) 第11回 企業金融 第12回 ファイナンス・リース 第13回 商品・サービスの流通に関する諸営業 第14回 問屋および準問屋 第15回 代理商および特約店 第16回 運送営業 第17回 簡品運送契約 第18回 貸切形態の物品運送契約 第19回 旅客運送契約 第20回 倉庫営業 第21回 電気通信事業 第22回 保険総論 第23回 損害保険契約1 第24回 損害保険契約2 第25回 生命保険契約1 第26回 生命保険契約2 第27回 傷害疾病定額保険契約1 第28回 傷害疾病定額保険契約2 第29回 信託業1 第30回 信託業2					
履修上の注意	六法を持参してください。					
教科書	特に指定しません。					
参考書	江頭憲治郎『商取引法 (第6版)』(弘文堂、2010年) 山下友信・神田秀樹/編『商法判例集 (第4版)』(有斐閣、2010年)					
成績評価方法	レポート(50%)、講義への参加姿勢(50%)					

科目名	簿記学特講 I	単位数	2	期別	集中
科目コード	SB210	担当教員	中野 慶伸	所属	元土佐情報経理専門学校講師
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	日商簿記1級の基礎を学習します。				
授業の進め方	講義、質疑応答、演習等				
達成目標	(1) 個別原価計算について理解できるようになる (2) 工業簿記について理解ができるようになる (3) 個別原価計算と工業簿記の関係について理解を深められるようになる				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 総論 第 2回 原価計算と工業簿記 第 3回 財務諸表 第 4回 個別原価計算の意義 第 5回 個別原価計算の概要 第 6回 個別原価計算の計算手続 第 7回 原価記録と財務記録 第 8回 原価の費目別計算 第 9回 材料費会計総論 第10回 材料購入原価の計算と処理 第11回 材料消費額の計算と処理 第12回 月末材料の管理 第13回 労務費会計総論 第14回 支払賃金の処理 第15回 賃金消費額の計算				
履修上の 注意	商業簿記の理解が前提となる。				
教科書	『日商簿記1級合格テキスト』TAC出版				
参考書	同上				
成績評価方法	講義への参加姿勢(60%)、期末試験(40%)などから総合的に評価する。				

科目名	簿記学特講Ⅱ	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB211	担当教員	中野 慶伸	所属	元土佐情報経理専門学校講師
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	日商簿記1級の基礎を学習します。				
授業の進め方	講義、質疑応答、演習等				
達成目標	(1) 個別原価計算について理解できるようになる (2) 工業簿記について理解ができるようになる (3) 個別原価計算と工業簿記の関係について理解を深められるようになる				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第1回 その他労務費の計算 第2回 定時間外作業手当の処理 第3回 経費会計総論 第4回 直接経費の計算と処理 第5回 間接経費の計算と処理 第6回 製造間接費会計総論 第7回 製造間接費の実際配賦 第8回 製造間接費の予定配賦 第9回 部門別計算総論 第10回 部門別計算の手続 第11回 仕損とは 第12回 仕損費の計算 第13回 仕損費の処理 第14回 作業層の処理 第15回 原価の部門別計算				
履修上の 注意	商業簿記の理解が前提となる。簿記学特講Ⅰを履修済みであることが望ましい。				
教科書	『日商簿記1級合格テキスト』TAC出版				
参考書	同上				
成績評価方法	講義への参加姿勢(60%)、期末試験(40%)などから総合的に評価する。				

科目名	税務会計論	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB220	担当教員	梅田 昭彦	所属	梅田昭彦税理士事務所
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	税務会計を理解するための前提となる法人税法を習得し、財務会計と税務会計の差異を理解する。				
授業の進め方	受講生の習得レベル・要望に合わせ、講義方式で行います。 尚、講義はテキストを中心に、必要に応じ補助資料を用いて進めます。				
達成目標	(1)法人における税務会計の基礎知識を習得する (2)財務会計と税務会計の違いを理解する (3)税制の最新動向を把握する				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>毎回、テキストを用いて講義した後、財務会計と税務会計の処理方法の違いを伝票イメージで解説します。さらに、財務会計と税務会計の差異を調整する方法を、別表四と別表五(一)を用いて解説します。</p> <p>第 1回 オリエンテーション 第 2回 財務会計・税務会計・管理会計の違い 第 3回 損益の期間帰属 第 4回 棚卸資産 第 5回 減価償却 第 6回 繰延資産の償却, 圧縮記帳 第 7回 役員の給与等 第 8回 租税公課等, 寄付金 第 9回 交際費等 第10回 貸倒損失と貸倒引当金 第11回 受取配当等の益金不算入, 有価証券の譲渡損益・時価評価損益 第12回 別表四と五(一)の作成方法 第13回 税率, 所得税額の控除, 申告と納税 第14回 税制改正等 第15回 法人税と所得税の違い</p>				
履修上の注意	(特になし)				
教科書	開講時に指定します。				
参考書	(特になし)				
成績評価方法	講義への参加姿勢 (70%) ゼミでの報告 (30%)				

科目名	税法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB230	担当教員	玉置雄次郎	所属	高知短期大学名誉教授
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	法人税法の主要な問題について理解を深める。				
授業の進め方	ゼミナール形式				
達成目標	(1)他の租税との比較において、法人税の特徴を理解できるようになる。 (2)企業会計の利益計算と、法人税法上の所得計算の関係を理解できるようになる。 (3)所得計算に関する主要な項目を具体的に理解できるようになる。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第1回～第3回 法人税法の基本事項 (1)法人の種類と税法上の取扱い (2)事業年度等 (3)企業会計の利益計算と法人税法上の所得計算の関係 第4回～第6回 収益の税務 (1)営業収益計上の時期 (2)営業外収益の計上 (3)受取配当金益金不算入 第7回～第10回 資産の税務 (1)棚卸資産 (2)固定資産と減価償却 (3)平成19年度減価償却制度の改正 (4)リース取引等 第11回～13回 費用、損失の税務 (1)役員給与 (2)交際費 (3)寄付金等 第14～15回 税額計算 (1)税率 (2)使途秘匿金等				
履修上の 注意	ゼミナール形式なので、出席が重要です。				
教科書	1回目の授業で指定します。				
参考書					
成績評価方法	ゼミでの報告によって評価します。				

科目名	経営学特講 I	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB240	担当教員	青木宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	この授業では、経営学の基礎理論、企業の構造、企業間関係について学びます。 特に日本の企業経営を諸外国との違いのなかで理解しようとしています。				
授業の進め方	テキストの輪読と講義の両方の形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。				
達成目標	(1) 日本企業の組織構造について諸外国との比較の観点から理解を深めること。 (2) 日本の企業間関係について理解すること。 (3) 日本企業の戦略や製品開発活動の特徴について理解を深めること。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第1回 なぜ企業が必要なのか(1) 第2回 なぜ企業が必要なのか(2) 第3回 なぜ企業が必要なのか(3) 第4回 官僚制組織(1) 第5回 官僚制組織(2) 第6回 株式会社制度(1) 第7回 株式会社制度(2) 第8回 日本の企業間関係(1) 第9回 日本の企業間関係(2) 第10回 コーポレートガバナンスの国際比較(1) 第11回 コーポレートガバナンスの国際比較(2) 第12回 企業戦略(1) 第13回 企業戦略(2) 第14回 新製品の開発(1) 第15回 新製品の開発(2)				
履修上の 注意	経営学特講 I と II を両方受講すればより理解が深まりますが、どちらかだけでも受講に支障はありません。				
教科書	特になし				
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。				
成績評価方法	授業への参加(40%)、筆記試験(30%)、レポート(30%)などで評価します。				

科目名	経営学特講Ⅱ		単位数	2	期別	後期
科目コード	SB250		担当教員	青木宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	この授業では、経営学の発展史、日米の企業経営の比較、人的資源管理、生産管理について取り上げます。					
授業の進め方	テキストの輪読と講義の両方の形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。					
達成目標	(1) 企業の現場レベルの能率管理についての理解を深め、産業間の比較、日米の比較ができるようになること。 (2) 日本企業の人的資源管理の特徴について理解を深めること。 (3) 日本の労使関係の歴史と現状の課題について理解を深めること。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 職場の能率管理(1) 第2回 職場の能率管理(2) 第3回 職場の能率管理(3) 第4回 採用管理 第5回 報酬管理(1) 第6回 報酬管理(2) 第7回 報酬管理(3) 第8回 人材育成(1) 第9回 人材育成(2) 第10回 労働時間管理(1) 第11回 労働時間管理(2) 第12回 日本的雇用システム(1) 第13回 日本的雇用システム(2) 第14回 日本的労使関係(1) 第15回 日本的労使関係(2)					
履修上の注意	経営学特講ⅠとⅡを両方受講すればより理解が深まりますが、どちらかだけでも受講に支障はありません。					
教科書	特になし					
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。					
成績評価方法	授業への参加(40%)、筆記試験(30%)、レポート(30%)などで評価します。					

科目名	国際財務報告基準論		単位数	2	期別	前期
科目コード	SB260		担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	この授業では、世界共通の会計ルールとして作成・公表されている、IFRS (International Financial Reporting Standards, 国際財務報告基準) について学びます。IFRSはすでに世界110カ国以上で導入されており、日本においても2015年からの適用開始が検討されています。しかし、現時点では、IFRSと日本の会計ルールとのあいだには様々な差異が存在しているため、実際に適用が開始されると、作成される財務諸表の内容がうまく理解できなくなる可能性があります。ここでは、IFRSが従来の日本の会計ルールとどのように異なっており、新たにどういったやり方で企業内容を開示しようとするものであるのかを解説します。					
授業の進め方	IFRSのルールについて解説を織り交ぜながら、演習形式で進めます。また、受講者の希望に応じて、個人発表の機会なども設けます。					
達成目標	(1) 世界共通の会計ルールがなぜ必要とされているのかを理解すること (2) IFRSのもとで作成される財務諸表の種類と内容を理解すること (3) 「包括利益」と「公正価値」というキーワードを理解し、説明ができること (4) IFRSは、その利用者として地球規模で活動する巨大な多国籍企業が想定されています。様々な会計基準の考え方を理解しようと努めることで、グローバル企業の経営全般の知識についても自然と習得することができます。 (5) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、会計実践の学習を深め、将来の職業生活へと役立てられることを期待します					
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 イン트로ダクション 第2回 日本におけるIFRS導入をめぐる経緯 第3回 国際会計基準審議会 (IASB) の組織と役割 第4回 国際会計基準 (IAS) と国際財務報告基準 (IFRS) 第5回 概念フレームワーク 第6回 財政状態計算書 第7回 資産・負債・資本の認識と測定 第8回 公正価値による評価 第9回 包括利益計算書 第10回 純利益と包括利益 第11回 収益・費用・利得・損失の認識と測定 第12回 事業区分の会計 第13回 金融区分の会計 第14回 非継続事業区分の会計 第15回 まとめ					
履修上の注意	この講義は、2011年度以前科目の「財務諸表論Ⅱ」に相当します。					
教科書	なし。必要に応じて資料を配布します。					
参考書	国際会計基準として、IFRS第1号～第9号(2010年12月時点)および、IAS第1号～第41号(2010年12月時点)が公表されています。これらは、IASBのサイト(http://www.ifrs.org/)より原文をダウンロードすることができます。この講義でとくに取り上げるのは、IFRS第7号「金融商品:開示」、同第8号「事業セグメント」、IAS第1号「財務諸表の開示」を予定しています。					
成績評価方法	講義への参加姿勢(50%)、レポート(50%)					

科目名	監査論	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB270	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	<p>この授業では、会計情報の信頼性をチェックするための行為である監査について学びます。監査は、主に、公認会計士によって担われていますが、その業務の実態はあまり社会一般には知られていません。しかし、昨今では、企業の粉飾決算や政治家の不正経理事件などが続発しており、もともと、そのような出来事を防ぐために生みだされた監査という知恵が、現代社会において果たす役割は決して小さくありません。そのような意義を踏まえて、ここでは、作り出された情報が、どのような仕掛けによって信頼できる情報へと変わっていくのかを学んでいきます。また、監査を担う存在である公認会計士がどのような職業であり、社会からどのような使命と役割を期待されているかについても学びます。</p>				
授業の進め方	<p>監査の仕組みについて解説を織り交ぜながら、演習形式で進めます。また、受講者の希望に応じて、個人発表の機会なども設けます。</p>				
達成目標	<p>(1) 社会における監査の役割について理解すること (2) 公認会計士という職業について理解すること (3) 監査の一連の流れを理解すること (4) 監査報告書の意味について理解すること (5) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、会計実践の学習を深め、将来の職業生活へと役立てられることを期待します</p>				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 公認会計士の使命と役割 第3回 会計倫理 第4回 粉飾決算と監査制度 第5回 監査の目的 第6回 監査の機能 第7回 監査基準 第8回 監査の手続 第9回 監査リスクの評価 第10回 試査 第11回 監査意見 第12回 継続企業監査 第13回 内部統制監査 第14回 監査以外の保証業務 第15回 まとめ</p>				
履修上の注意	<p>現在の日本の会計ルールについて、ある程度の知識があることが望ましい。 この講義は、2011年度以前科目の「財務諸表論Ⅱ」に相当します。</p>				
教科書	<p>なし。必要に応じて資料を配布します。</p>				
参考書	<p>『まなびの入門監査論(新版)』盛田良久・百合野正博・朴大栄編、中央経済社(2010年) 『監査構造論』瀧田輝己著、千倉書房(1990年) 『監査機能論』瀧田輝己著、千倉書房(1993年)</p>				
成績評価方法	<p>講義への参加姿勢(50%)、レポート(50%)</p>				

科目名	情報処理応用演習	単位数	2	期別	前期
科目コード	SC280	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	データ分析の結果を読み解き、自分自身でもパソコンを用いてデータを分析できる力を養う。				
授業の進め方	講義と演習と実習。				
達成目標	(1) データ分析の背景にある統計学や計量経済学の基礎理論を理解できるようになる。 (2) データ分析の結果を理解できるようになる。 (3) パソコンを用いてデータを分析できるようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 度数分布、平均 第2回 分散と標準偏差 第3回 標準偏差の意味 第4回 ばらつきの形を見る 第5回 集計表の作成 第6回 相関分析の技法 第7回 因果関係を探る(1) 第8回 因果関係を探る(2) 第9回 複数の関係性を探る(1) 第10回 複数の関係性を探る(2) 第11回 カテゴリーの効果(1) 第12回 カテゴリーの効果(2) 第13回 データの蓄積方法とアンケートデータの集め方 第14回 既存データの活用と実習(1) 第15回 既存データの活用と実習(2) ただし、受講生の希望や理解度により進度を変えることがある。				
履修上の注意	特になし。				
教科書	特になし。				
参考書	『完全独習 統計学入門』小島寛之著、ダイヤモンド社(2006年)、¥1,890 『やさしい人事統計学』大阪大学人事統計解析センター、日本経団連出版(2006年)、¥1,680 『Excelで学ぶアンケート処理』加藤千恵子+石村貞夫、東京図書(2003年)、¥2,690				
成績評価方法	課題や授業への取り組み方(50%)と課題提出状況(50%)により評価する。				

科目名	消費生活論	単位数	2	期別	後期
科目コード	SC290	担当教員	関根猪一郎(才)	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	消費生活に関する基礎知識を提供するとともに、「自立した消費者」として行動するのに必要な法律・経済・環境問題等の知識を体系的に講義します。				
授業の進め方	講義レジュメに基づき、講義方式で行います。この科目は複数の講師によるオムニバス方式を採用します。				
達成目標	(1)消費生活に関する基礎知識を身につけ、消費にかかわる情報を自ら収集・選択できる「自立した消費者」として行動できる力を養成すること。 (2)消費生活専門相談員の資格を獲得するための基礎的力量を身につけること。 (3)消費にかかわる経済問題と法律問題、さらには環境問題等を関連付けて理解すること。				
授業計画 (講義の具体的内容)	講義はオムニバス形式で、各回毎に独立したテーマが講義されます。講師はテーマ毎に、その分野の専門家が担当します。 第1回 ガイダンス 消費者問題概論 第2回 経済の仕組みと消費生活～税金・物価・社会保障・保険～ 第3回 公正な競争の確保のために～独禁法等～ 第4回 消費生活に必要な民法の知識 第5回 消費生活に必要な消費者契約法の知識 第6回 消費生活に必要な特定商取引法の知識 第7回 消費生活に必要な割賦販売法の知識 第8回 消費生活とお金に関する知識 第9回 金融商品に関する基礎知識 第10回 情報通信サービスに関する基礎知識 第11回 製品安全の基礎知識 第12回 調停・訴訟等に関する知識 第13回 食品の安全と表示の諸問題 第14回 環境問題に関する基礎知識 第15回 消費者政策と法の対応				
履修上の注意	公開講義ですので、在学生だけでなく、一般の方も受講できます。また、科目等履修生として受講することもできます。				
教科書	毎回、講義レジュメを配布します。				
参考書	講義のなかで紹介します。				
成績評価方法	毎回の講義終了後、10分程度で感想を書いていただきます。また、単位認定希望者には、これとは別に2000字程度のレポートを提出していただく予定です。成績評価は、これらの提出物を総合して評価します。評価の基準は、感想文50%、レポート評価50%とします。				

科目名	特別研究	単位数	4	期別	通年
科目コード	SC291	担当教員	専任教員	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	学生の希望によるテーマについて調査・研究を進め、その成果を論文にまとめる指導を行う				
授業の進め方	教員による個別指導				
達成目標	(1) 研究課題を設定し、学習・研究計画を作成することを学ぶ (2) 研究論文作成の基礎的技法を学ぶ (3) 自らの学習・研究成果を論文にまとめる (4) 『学生論集』へ掲載することを目標とする				
授業計画 (講義の具 体的内容)	専任教員と希望学生の間で決めることとなる(学習・研究計画の検討・作成、計画にそった学習・研究経過のチェックなどのスケジュールを教員と学生の間で決めて進める。)				
履修上の 注意	指導を希望する教員に相談した上で履修申請をすること。 学生自身の力で論文を書くこと。				
教科書	なし				
参考書	研究テーマに応じて必要な文献を探すことも学びの目的の1つとなる				
成績評価方法	調査・研究への取り組みと研究成果である論文の完成度によって評価				

科目名	国際法 I	単位数	2	期別	集中
科目コード	E0433	担当教員	吉原司	所属	姫路獨協大学法学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	国際法の基本的事項である条約及び慣習法を中心に学んでいきます。				
授業の進め方	講義形式で行います。適宜レジュメを配布し、それにそって講義を進めます。				
達成目標	(1)国際法の基礎知識を理解できるようになる。 (2)国家実行及び判例を理解できるようになる。 (3)時事問題を国際法に基づいて分析できるようになる。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	①国際法とは何か① 性質 ②国際法とは何か② 歴史 ③国際法の法源 条約・慣習法 ④条約法(締結手続・留保) ⑤条約法(効力・終了原因) ⑥国際法と国内法の関係 ⑦国家責任① 国際違法行為 ⑧国家責任② 違法性阻却事由 ⑨国家責任③ 国際請求 ⑩国家責任④ 国家責任法の他の事項(小テスト) ⑪国際法の主体① 国家 ⑫国家① 国家の成立要件 ⑬国家② 国家承認 ⑭特権・免除(裁判権～外交官・領事) ⑮国際法の主体② 国際機関、個人(小テスト)				
履修上の 注意	私語は厳に慎むように。				
教科書	教科書については指定しない。なお、「参考文献」に若干の書籍を薦める順に挙げておくので、それらの中から適当なものを選び、購入してほしい。条約集については必ず購入すること。以下の条約集が最も利用しやすい。松井芳郎他編『ベーシック条約集(2010年版)』(東信堂、2010年)、奥脇直也他編『国際条約集(2010年版)』(有斐閣、2010年) なお、講義開始前後に最新の条約集(2011年版)が販売されるであろうが、購入される場合そちらを購入していただきたい。				
参考書	杉原高嶺著『国際法学講義』(有斐閣、2008年)、小寺彰他編『講義国際法(第2版)』(東京大学出版会、2010年)、山本草二著『新版 国際法』(有斐閣、1994年)、柳原正治他著『プラクティス国際法』(信山社、2010年)、中谷和弘他著『国際法』(有斐閣アルマ、2006年)、松井芳郎他著『国際法(第5版)』(有斐閣Sシリーズ、2007年) 講義を補強する教材としては以下のものがよい。国際法学会編『国際関係法辞典』(三省堂、2005年)、筒井若水編『国際法辞典』(有斐閣、1998年)、山本草二他編『国際法判例百選』(有斐閣、2001年)、松井芳郎他編『判例国際法』(東信堂、2006年)				
成績評価方法	授業態度(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(40%) で評価。				

科目名	国際法Ⅱ	単位数	2	期別	集中
科目コード	E0434	担当教員	吉原司	所属	姫路獨協大学法学部
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	国際刑事法、環境法、経済法といった国際法の個別分野について学んでいきます。				
授業の進め方	講義形式で行います。毎回レジュメを配布し、それに沿って講義を進めます。				
達成目標	(1)国際法の個別領域を理解できるようになる。 (2)国家実行及び判例を分析できるようになる。 (3)時事問題を国際法に基づき自分で分析できるようになる。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	①空間秩序① 領域の得喪 ②空間秩序② 海洋法 ③空間秩序③ 他の地理的範囲 ④国際法における個人の取り扱い 国籍・外交的保護 ⑤国際人権法 ⑥国際刑事法(小テスト) ⑦国際機構法 ⑧国際環境法 ⑨国際経済法 ⑩国際紛争の平和的処理① 解決手段 ⑪国際紛争の平和的処理② 国際司法 ⑫安全保障の歴史 ⑬国連の集団安全保障制度 ⑭武力紛争法① 不必要な苦痛の排除・軍事目標主義 ⑮武力紛争法② 紛争犠牲者の保護(小テスト)				
履修上の 注意	私語は厳に慎むように。				
教科書	教科書については指定しない。なお、「参考文献」に若干の書籍を薦める順に挙げておくので、それらの中から適当なものを選び、購入してほしい。条約集については必ず購入すること。以下の条約集が最も利用しやすい。松井芳郎他編『ベーシック条約集(2010年版)』(東信堂、2010年)奥脇直也他編『国際条約集(2010年版)』(有斐閣、2010年) なお、講義開始前後に最新の条約集(2011年版)が販売されるであろうが、購入される場合そちらを購入していただきたい。				
参考書	杉原高嶺著『国際法学講義』(有斐閣、2008年)、小寺彰他編『講義国際法(第2版)』(東京大学出版会、2010年)、山本草二著『新版 国際法』(有斐閣、1994年)、柳原正治他著『プラクティス国際法』(信山社、2010年)、中谷和弘他著『国際法』(有斐閣アルマ、2006年)、松井芳郎他著『国際法(第5版)』(有斐閣Sシリーズ、2007年) 講義を補強する教材としては以下のものがよい。国際法学会編『国際関係法辞典』(三省堂、2005年)、筒井若水編『国際法辞典』(有斐閣、1998年)、山本草二他編『国際法判例百選』(有斐閣、2001年)、松井芳郎他編『判例国際法』(東信堂、2006年)				
成績評価方法	授業態度(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(40%)で評価。				

科目名	農業経済論		単位数	2	期別	集中
科目コード	F0502		担当教員	岩佐 和幸	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	<p>スーパーやファーストフードに象徴されるように、私たちの「食」は、日本のみならず世界各地の「農」と結びついています。しかし、こうした「食」と「農」のグローバル化は、安全性問題や産地間競争の激化をもたらすとともに、地産地消のようなローカルな動きを再活性化させています。また、最近では食料高騰やバイオ燃料の登場に伴って世界的な食料危機の兆しも表れており、食と農がますます切実な問題になってきています。</p> <p>本講義では、グローバル化時代の「食」と「農」について、アグリビジネス論の視点から紹介し、今後の展望について一緒に考えてみたいと思います。</p>					
授業の進め方	<p>講義ではレジュメを配布する他、講義と関連する内容のビデオもお見せする予定です。</p> <p>5日間の集中講義です。各日の最後に、関連するレポートを提出してもらいます。</p> <p>授業の途中、エクサカーションを入れる予定です。</p>					
達成目標	<p>(1) 農業・食料生産の歴史と現状について、グローバルかつローカルな視点から理解できるようになる。</p> <p>(2) 農業と食料の今後について、当事者の視点から関心を持ち、自らの主張を持てるようになる。</p> <p>(3) 日常生活や地域において、持続可能な農業・食料に関心を持ち、実践に挑戦できるようになる。</p>					
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 農業・食料問題をみる視角</p> <p>第3回 食生活の変貌とその影響</p> <p>第4回 食生活の変貌とその影響</p> <p>第5回 グローバル化と日本農業の変貌</p> <p>第6回 グローバル化と日本農業の変貌</p> <p>第7回 グローバル化と日本農業の変貌</p> <p>第8回 日本と世界を結ぶモノ</p> <p>第9回 日本と世界を結ぶモノ</p> <p>第10回 地域農業の現場</p> <p>第11回 地域農業の現場</p> <p>第12回 地域農業の現場</p> <p>第13回 海外農業の現場</p> <p>第14回 海外農業の現場</p> <p>第15回 グローバル化・ローカル化と農・食の未来</p> <p>第16回 期末試験</p> <p>上記は現時点での予定です。エクサカーションの日程・場所に応じて、下記計画を変更することがあります。</p>					
履修上の注意	<p>エクサカーションは高知市内を考えています。各自移動手段(自転車、バイク、車etc)を確保しておいて下さい。</p> <p>また、受講生は全員、学生教育研究災害傷害保険(年間保険料100円)に加入してください。保険料については、個別に学生課で納入してください。</p>					
教科書	なし					
参考書	<p>・大塚茂・松原豊彦編『現代の食とアグリビジネス』有斐閣、2004年</p> <p>・F. マグドフほか編『利潤への渴望: 農業経営者・食料・環境に対するアグリビジネスの脅威』大月書店、2004年</p> <p>・坂内久・大江徹男編『燃料か食料か: バイオエタノールの真実』日本経済評論社、2008年</p>					
成績評価方法	<p>期末試験(60点)、各日最後のレポート(1回10点×4回)、その他に参加態度等もプラスアルファに入れて、総合評価したいと思います。</p>					

科目名	協同組合論	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0545	担当教員	村田 武	所属	愛媛大学社会連携推進機構
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	テーマ: 協同組合運動の歴史に学ぶ				
授業の進め方	豊富な資料にもとづく講義を基本とする。必要に応じて、受講生のディスカッションの時間をとる。				
達成目標	①近代史のなかでの協同組合運動の意味を理解する。 ②我が国の協同組合思想と協同組合運動の歴史を理解する。				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 序論(協同・競争) 第 2回 産業革命と「友愛組合」 第 3回 ロバート・オウエン 第 4回 々 第 5回 消費者協同組合・ロッヂデール 第 6回 々 第 7回 ドイツ・ライファイゼン信用組合 第 8回 農業協同組合の成立・デンマーク・アイルランド 第 9回 わが国の協同組合運動の歴史(1) 共助の思想 第10回 々 (2) 産業組合から戦後の協同組合へ 第11回 現代の協同組合 第12回 々 第13回 々 第14回 レイドロー報告と協同組合の課題 第15回 まとめ				
履修上の 注意	事前に配布する資料を予習すること。 近代世界史についての基礎知識を高校の世界史教科書で復習しておくこと。 (とくに産業革命と農業革命について)				
教科書	ジョンストン・バーチャル(都築忠七監訳)『国際協同組合運動』家の光協会(1999年刊) ¥2,400+税				
参考書	村田武『現代の「論争書」で読み解く食と農のキーワード』(筑波書房ブックレット,2009年刊) ¥750+税 『西暦2000年における協同組合』(日本生活協同組合連合会,1980年刊) ¥600				
成績評価方法	講義中に複数回提出を求めるミニレポート(40点) 期末試験(60点)				

科目名	行政学 I	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0860	担当教員	深谷 健	所属	東京大学大学院法学政治学研究科
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	行政学の基礎を講義する。
授業の進め方	講義を基本として、質疑応答を交えて進める。
達成目標	(1) 行政学を理解する上で重要となる基礎的な考え方を学ぶ。 (2) 行政・社会に関する基礎的な知識を習得する。 (3) 現代の行政がいかなるものであるのかを自分なりに理解できるようになる。 (4) これにより、現実の行政の動きと行政学との関係を意識できるようになることが望まれる。
授業計画 (講義の具 体的内容)	第1回 ガイダンス:「行政」と「行政学」 第2回 行政国家の成立 第3回 行政学の発展 第4回 行政改革の理論と動態 第5回 政府体系とその構造 第6回 内閣制度と政官関係 第7回 地方自治と地方分権改革 第8回 行政組織の基礎理論(1):官僚制 第9回 行政組織の基礎理論(2):組織理論 第10回 日本の行政組織と行政改革 第11回 公務員制度と人事システム 第12回 行政活動と政策 第13回 政策過程 第14回 政策の執行と評価 第15回 行政責任と参加
履修上の 注意	履修の前提要件は必要としないが、日々の新聞等で現実の行政に関する情報に関心を持つことが望ましい。 なお、「行政学 I」は総論、「行政学 II」は各論としての位置づけである。
教科書	毎回、講義内容に関するレジュメを配り、これをもとに講義を行う。
参考書	『改訂版 現代の行政』森田朗著、放送大学教育振興会(2000年) 講義内容理解のために、可能であれば事前に購入しておくことが望ましい。
成績評価方法	最終試験(70%)、講義への参加姿勢(30%)の割合で総合的に評価する。

科目名	行政学Ⅱ	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0870	担当教員	深谷 健	所属	東京大学大学院法学政治学研究科
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	行政学の各論として、社会生活において身近な行政活動がいかなるものであるのかを具体的事例に即して講義する。				
授業の進め方	講義を中心に、質疑応答を交えて進める。				
達成目標	(1) 個々人の社会生活において接することが多い行政活動の実態を、具体的な事例に即して学ぶ。 (2) これにより身近な行政活動への関心と理解を得ることを目的とする。 (3) 自ら興味を持つ行政活動に関して主体的に観察を行う関心が喚起されれば望ましい。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 ガイダンス: 行政活動の範囲と性格 第2回 規制行政の行動: 法律による行政の原理とその限界 第3回 規制執行活動の選択肢 第4回 サービス提供活動の選択肢 第5回 事例研究(1): 公証行政—窓口業務を素材として 第6回 事例研究(2): 治安維持行政—外勤警察を素材として 第7回 事例研究(3): 公共規制行政—公害行政を素材として 第8回 事例研究(4): 資金交付行政—生活保護行政を素材として 第9回 事例研究(5): サービス行政—廃棄物処理行政を素材として 第10回 事例研究(6): 建設管理行政—道路行政を素材として 第11回 事例研究(7): 施設運営行政—老人福祉行政を素材として 第12回 事例研究(8): 公企業の諸問題 第13回 事例研究(9): 行政とコミュニティの問題 第14回 環境変動と行政 第15回 まとめ: 現代行政の展望				
履修上の注意	前提として「行政学Ⅰ」を受講していることが望ましいが、これに限定されるものではない。なお、「行政学Ⅰ」は総論、「行政学Ⅱ」は各論としての位置づけである。				
教科書	毎回、講義内容に関するレジュメを配り、これをもとに講義を行う。				
参考書	『行政の活動』西尾勝著、有斐閣(2000年) 講義内容理解のために、可能であれば事前に購入しておくことが望ましい。				
成績評価方法	最終試験(70%)、講義への参加姿勢(30%)の割合で総合的に評価する。				

科目名	不動産法		単位数	2	期別	集中
科目コード	SB150		担当教員	竹村 克彦	所属	竹村克彦事務所
連絡先	電話					
	E-mail					
授業概要 (テーマ等)	不動産に関わる法律全般を受講者の学習進度に合わせ進め、土地家屋調査士、宅地建物取引業主任者等の資格試験に結びつく講義内容とする。					
授業の進め方	不動産を取り巻く法律を実務レベルの視点から、希望する資格試験に対応する項目に可能な限り結び付けた講義を目指し、講師である私も受講生と共に学ぶ姿勢で進めたい。					
達成目標	<p>(1) 不動産を取巻く法規について、実務の中でどのように作用しているかなどの概要を理解する。</p> <p>(2) 特に不動産登記記録を調査する基礎的な知識を修得する。</p> <p>(3) 土地利用に関して、用途の転用、権利の移転、また、単に建物を建築するなどの場合、不動産の法的、並びに、物理的な状況を把握する基礎知識を修得する。</p>					
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>関係法令の重要条文の解説、並びに実務における条文の解釈に重点を置く。</p> <p>第1回～第6回 不動産登記法（表示に関する登記） 立法趣旨（制度の役目・表示に関する登記の基本・手続き概要） 筆界に関する項目（概念・変遷・実務上の取扱・関係する制度） 測量に関する項目（測量技術の変遷・測量精度の考え方）</p> <p>第7回～第8回 都市計画法（開発許可に関する内容・用途地域に関する内容）</p> <p>第9回 農地法（農地の転用・農地の権利移転）</p> <p>第10回 土地区画整理法（法的効果・登記法との関係）</p> <p>第11回～第12回 建築基準法（基礎知識・実務における取扱）</p> <p>第13回～第14回 事例研究</p> <p>第15回 授業のまとめ</p>					
履修上の注意	民法第2編(物権)に関する知識がベースとなるので、予習をされていることが望ましい。広範囲にわたる内容となるので復習を励行し、意欲的に受講していただきたい。					
教科書	特になし。必要に応じてレジュメを配布する。					
参考書	不動産登記法：農地法：建築基準法：宅地建物取引業法：都市計画法等が掲載されている六法					
成績評価方法	<p>講義内容に関するレポート、並びに、授業態度による。</p> <p>【レポート内容の評価】 レポートにより講義内容の理解度を評価する。 講義終了後1週間以内に、講義内容に関するものを提出。(1200字以上)</p> <p>【授業態度】 講義内での質問の内容、参加姿勢により評価する。</p> <p>【評価比率】 レポート内容：60% 授業態度：40%</p>					

科目名	簿記学特講 I	単位数	2	期別	集中
科目コード	SB210	担当教員	中野 慶伸	所属	元土佐情報経理専門学校講師
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	日商簿記1級の基礎を学習します。				
授業の進め方	講義、質疑応答、演習等				
達成目標	(1) 個別原価計算について理解できるようになる (2) 工業簿記について理解ができるようになる (3) 個別原価計算と工業簿記の関係について理解を深められるようになる				
授業計画 (講義の具 体的内容)	第 1回 総論 第 2回 原価計算と工業簿記 第 3回 財務諸表 第 4回 個別原価計算の意義 第 5回 個別原価計算の概要 第 6回 個別原価計算の計算手続 第 7回 原価記録と財務記録 第 8回 原価の費目別計算 第 9回 材料費会計総論 第10回 材料購入原価の計算と処理 第11回 材料消費額の計算と処理 第12回 月末材料の管理 第13回 労務費会計総論 第14回 支払賃金の処理 第15回 賃金消費額の計算				
履修上の 注意	商業簿記の理解が前提となる。				
教科書	『日商簿記1級合格テキスト』TAC出版				
参考書	同上				
成績評価方法	講義への参加姿勢(60%)、期末試験(40%)などから総合的に評価する。				